

20周年記念誌
札幌の人づくり
をめざして

20年のあゆみ

20
YEARS

財団法人
札幌市青少年婦人活動協会

20周年記念誌
札幌の人づくり
をめざして

20年のあゆみ

20
YEARS

ごあいさつ



(財)札幌市青少年婦人活動協会

理事長 小倉 英俊

皆様に支えられ、財団法人札幌市青少年婦人活動協会は設立20周年を迎えました。ミレニアム2000年という記念の年にこのような節目を迎えられることは大変嬉しく、これまで当協会の発展にご尽力いただいた先達をはじめ関係各位の方々に厚くお礼を申し上げます。

昭和55年に産声を上げた小さなヨチヨチ歩きが成長してやっと成人を迎えることになりました。あの頃の若手職員も今ではすっかり貫禄がついた中年になっていますが、当初の意気込みだけは今も変わりありません。しかし、これまでにどれだけのことをやれたのか、どれだけの市民の期待に応えられたのか、という反省はいつも絶えません。

設立当時の「青少年白書」によりますと、すでに、校内暴力、登校拒否、暴走族の増加等が青少年を取り巻く問題になっていました。

このような時に、協会は「青少年や女性を中心とするグループ活動の振興を図り、青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の推進を図る」ことを目的として設立された訳で、大きな意味があったと思います。

そして20年、少子化の進行、夫婦共働き家庭の増大、家庭や地域の子育て機能の低下など、青少年や家庭の環境は変化し、流動化してきています。こうした状況を踏まえて、私たちは、当面する短期的な問題だけに目を向けるのではなく、このあと10年、そして20年先を見据える目で協会の在るべき姿を熟慮し、そのために今、何をなすべきかを考えることが必要だと思っています。

札幌で生まれ育つ子どもたちにとって、この札幌は否応無しに愛する“ふるさと”です。微力ながら、住んでいて本当によかったと思える街づくり、夢と元気のある子どもを育てる人づくりのために役立つ協会であり続けたい。

設立20周年に当たり、職員一同と共にそんなことを願っています。

お祝いのことば



札幌市長 桂 信雄


札幌市青少年婦人活動協会の創立20周年を心からお祝い申し上げます。昭和55年4月の発足以来、これまでに多様な分野で発揮された企画・指導力は、青少年女性の社会参加と健全育成の促進に多大な功績を残されました。また、児童会館や青少年センター、女性センター、こども劇場などの管理運営での利用者本位とする運営能力など、多方面にわたる大きな成果に対しまして、あらためて謝意と敬意を表します。

20年前、15名で歩み始めた協会が、現在では600余名の職員を抱えるまでに成長を遂げられました。このことは、協会がこれまでに取り組んでこられた事業に対する真摯な姿勢が、関係団体や利用者の方々から認められた、高い評価の賜物と大変うれしく思っております。

地方分権や規制緩和、そして情報化の進展は社会の枠組みを根底から変えつつあります。私たちを取り巻く環境は激動期にあり、堅実な歩みを後世に示すことが新たな世紀を迎える者の役割と考えています。そのためには、過去にとらわれることなく、21世紀に生きる人・地域を中心に据えた事業・組織の再構築が必要と思われれます。とりわけ、これからの時代を作り上げていく青少年や女性の多方面にわたる社会参加活動の促進は欠かせないものであり、本市の活性化の重要な課題の一つであります。

協会におかれましては、新たな時代の中での活躍と飛躍が一層求められており、今後とも本市事業に御協力を賜わると共に、益々の御発展を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

も く じ



<u>ごあいさつ</u> 理事長 小倉 英俊	…… 2
<u>お祝いのことば</u> 札幌市長 桂 信雄	…… 3
<u>グラビア</u>	…… 5
<u>座談会～20年を振り返って～</u>	…… 11
<u>20年の歩み～協会設立の経緯と協会の歩み～</u>	…… 21

協会の事業と施設

1. 《青年活動事業》	青年向け事業	…… 40
	札幌市青少年センター	…… 42
	札幌市勤労青少年ホーム（レッツ）	…… 43
2. 《女 性》	札幌市女性センター	…… 50
3. 《子ども》	子ども向け事業	…… 56
	児童会館～受託背景と運営～	…… 58
	札幌市児童会館	…… 61
4. 《野外活動事業》	ファミリー・三世代向け事業	…… 84
	札幌市定山溪自然の村	…… 87
	滝野自然学園	…… 89
5. 《文 化》	札幌市こども人形劇場こぐま座	…… 92
	札幌市こどもの劇場やまびこ座	…… 93
	札幌市天文台	…… 94
※新札幌市青少年センター		…… 96

協会にエールを! …… 98

歴代役員名簿 …… 102

編集後記 …… 107

グラビア











<協会のパンフレット>



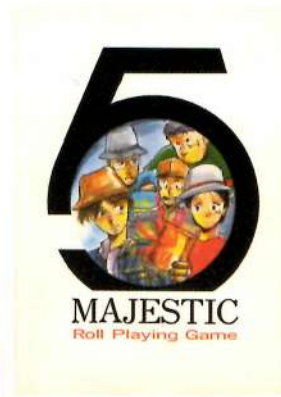
<協会の出版物1>



1981年3月発行



1985年3月発行



1990年4月発行



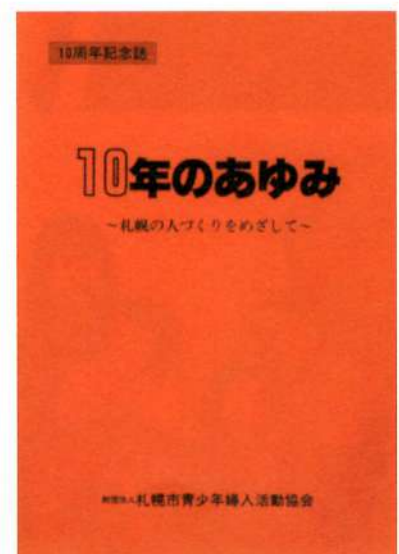
1985年3月発行



1987年12月発行



1997年3月発行



1990年3月発行

座談会～20年を振り返って～



日時 平成11年11月25日 午後2時
場所 札幌市女性センター

20周年座談会《出席者》

(勸)札幌市青少年婦人活動協会前理事長
 荒井 徹 氏
 " 初代常務理事
 佐々木 順 氏
 " 初代事務局長
 関 堂 安 司氏
 札幌市女性センター初代館長 小野寺 奈緒美氏

(勸)札幌市青少年婦人活動協会理事長
 小 倉 英 俊
 " 専務理事
 猪野毛 高 俊
 (司会) " 事業部長
 相 馬 宏 哉
 (記録) " 児童部児童育成課主査
 追 分 浩 一
 寺 田 陽 子

小倉：今日は、お忙しいところお集まり頂きましてありがとうございます。

私は、昨年9月荒井理事長の後、就任いたしました。財団設立以来7代目の理事長になるそうです。

平成12年で当協会も皆様方のおかげで20年を迎えることになりました。こういうご時世でございますので、記念事業はささやかに実施したいと考え、その一つといたしまして20周年記念誌を発行する運びとなりました。

そこで、過去のことをよくご承知の方々にお集まり頂き、記念誌に掲載させて頂く記念の座談会を行うことにいたしました。皆様方の在職中の思い出や、活動協会に対する今後の期待などは是非心置きなくお話頂ければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

設立当時を振り返って

相馬：只今、理事長がご挨拶申し上げましたように、記念誌を発行する運びとなりました。その中にこの座談会の収録を掲載させて頂きたいと思えます。

まずは設立当時を振り返り、次に受託事業の拡大そして現在、今後に向けてという順序で進めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

一番最初に「設立当時を振り返って」ということで、話しを進めて頂ければと思います。設立当時ということになりますと、その前のグループワーク協会の時代から関わってきますので、まず佐々木さんからお願いいたします。

佐々木：やはり当時の青少年婦人部がバックアップしてくれたことが一番大きいでしょうね。

当時、グループワーク協会の青少年婦人部と教育委員会の予算が確か700万円位でした。私と相馬さん、大築さんのほか数名を加え4、5人でやっていて700万円のお金を頂き、会計は大築さんがきちんと処理していたので間違いはないけれど、何か責任を果たしているような気がしなかったんですよ。

そこで、責任の所在をはっきりしようということで法人格を取りたいと考え、大築さんに聞いたら「一千

万円かかります。」と言うので、そのことを青少年婦人部の職員の方に相談したところ「やっごらん。」と言われたものですから、神戸市民局長の所に行って「一千万円、お金を貸してください。」と直にお願いしたのです。よく言ったもんだなと今でも思うのですが「何をするのですか。」と聞かれ、こういうわけで責任を果たしたいので「法人格を取りたい。」と言ったところ、全く相手にされなかったのですが「考えます。」と言われました。

そして、市民局長が加藤さんに変わられて「一番の申し送りで一千万円の話の聞ききました。必ずやりますので安心してください。」と言って下さり、本当にうれしかったですね。家内に「宮の森に足を向けて寝れないね。」と言われました。それが協会の出発点ですね。

あの時は、青少年婦人部の皆さん、荒井さん、小野寺さんそのほかの皆さんが力を尽くして下さって本当に有り難かったですね。今でも、皆で作って下さったなあという気がします。

相馬：それがきっかけということですが、その辺の裏話は荒井さんいかがですか。

荒井：今、聞きながら協会スタートが昭和55年でしょう？私が青少年婦人部を出たのが昭和53年なんですよ。その当時は設立をどうするかということだったような気がします。本格的になったのは、昭和54年あたりからですよ。

あの頃は、佐藤さん、瀬戸さんが力を尽くしていろんな契約などを部と交渉していて、私には遠くからうわさが聞こえてくるだけで、実際には何らタッチしていなかったんですよ。

財団を作る中核部隊で当時一緒になってやっていた佐々木さん、相馬さん、大築さんのメンバーが中心だったと思いますが、神戸さんの所に駆け込んだ話を何か改めて新鮮な気持ちで聞いたところなんです。

佐々木：実は大築さんは、社団法人を取るつもりで500万円貯めようとしていたんですよ。当時は、市から頂



いてたお金の計算が実にうまく成り立っていて、私、相馬さん、大築さんの嘱託の給料と事業費を足すと丁度びったり合うような予算書を作ったんです。

給料と事業費と合わせて青少年婦人部が手持ちのお金で、一番最初のグループワーク協会が始まったんです。あの計算は今もってよくやったもんだと思いますね。

全ての備品はもらいもの

相馬：その辺の流れを受け、財団の規則などを手がけ、初代の事務局長で大変ご苦労なされた関堂さんいかがでしょうか。

関堂：当時、青少年婦人部の課長が「それいけ、それいけ。」と一千万円の出資金が決まった。今までのグループワーク協会に出していたお金と上手に組み合わせて、「これだけのお金、これだけの仕事を活動協会に委託するから何とかできるのではないか。」と言われました。

傑作だったのは、寄附行為以外の規程は何もない、3月の一ヵ月間に全ての規程を作り、4月1日から勤労青少年ホームに指導員を張り付けなければならぬ、その面接を3月31日の午後1時から始めて、最後の人は5時過ぎに決まり、「じゃあ明日からお願いします。」と、人事関係も冷や汗をかきながら何とか4月1日の開設に間に合わせたんですね。

その頃の話は、“裏20年誌”に載せて欲しいような、記念誌に書けないようなことばかり覚えているんですよ。

まず、事務局長になったのがミスキャストだったらしいです。私はそれまで、デスクワークばかりで経理とか庶務など内部的な仕事が主だったんですが、ある日突然「青少年婦人部課長職、青少年婦人活動協会派遣。」と言われ、赤井さん（当時の助役）の所へ行ったら「お前は区民センターか青少年婦人関係の仕事はやったことはないのか。」と聞かれ「いやありません。」と言うと「そんなはずはない。」と驚かれました。

昭和55年3月に課長職になって「何をやればいいんですか。」と聞いたら「設立準備で一応定款は寄附行為です。」と言われたので調べたら事務所も決まっていな、机や椅子ばかりか消耗品もない、電話もないという状況で「一体どこに開くんだ。」とびっくりしました。

そこで、「予算は。」と聞くと「予算はありません。」と言われ、それで慌てて役所中あちこち走り回って全部かき集めて...

しかし、面白いもので次から次と机とか椅子が集まるんですね。これは書けないかもしれませんが、発寒連絡所に勤務していた頃、仲良くしていた西清掃事務所長が「関堂が今度行くところは何かもないからかわいそうだ。」と廃品回収後に「冷蔵庫のいいのがあるから。」ときれいに洗って届けてくれるんですよ。

また、「応接セットは医者のでいいのが出たから。」と行ってこれも届けてくれたんですね。

佐々木：いよいよ始まった頃に関堂さんが私にこう言ったんですよ。「私はここまでしたけれど、色々な所で相当無理言ったから、もしかしたら役所にもう戻るセクションがないかもしれない。」と書いていましたよね。

あっちこっちで無理したみたいですよ。改めてお礼を言います。関堂さんを初めて見た時は、市の行政職員でこういう人がいるのかと思いました。釘やビスの一杯詰まった缶とドライバーを持って、ドアのノブから、蝶番から、電気など、そこら中全部修理して歩いている。あれには驚きましたね。

関堂：コピー機の掃除から、女性センターの開かなくなった金庫も開けたことがありましたね。（笑）

佐々木：また、柱時計を持ち帰ってまで修理して来たのには驚かされました。

職員は旅館の従業員

相馬：次に翌年婦人文化センター（現女性センター）がオープンしましたが、その辺を当時の館長だった小野寺さんにお話頂ければと思います。

小野寺：婦人文化センターは昭和56年12月にオープンいたしました。もちろん昭和55年から準備に入っていたと思いますが、準備段階の色々なご苦労は、私自身本庁で仕事をしていたためよく分からなかったのです。予算の面などいろんなことで相当なご苦労をされたと思います。

特に印象深かったのは、婦人文化センターに情報資料室を作るということで、市内の女性に情報を流すための本や資料集めは、ここにいらっしゃる寺田さん、川島先生、植田さんの3人が中心になって準備にあたってくれたのですが、その情報資料室の予算は50万円しかなく「50万円を何で揃えられますか。」と悩んでいた事を思い出します。



女性の社会参加ということが昭和48、9年頃から随分新聞などで取り上げられるようになり、故板垣市長も一生懸命力を入れて下さって、そうした中で女性だけが集う場所が欲しいという要望が数多くあり「婦人文化センターを作ろう。」という話が出てまいりました。

その時、様々な団体の長や担当者が集まって、どういものを作ったらいいのかという準備委員会を何回か持ちました。亡くなられた札幌市婦人団体連絡協議会の上田会長が、「婦人文化センターは女性の建物だから懐で皆を抱えるような入り口として作ってくれたんですね。」とよくおっしゃっていました。

また、社会参加というテーマが提起されて、婦人文化センターで企画する色々な事業に参加することが札幌の女性の人たちの楽しみでもあったと思います。そんな中で社会参加の促進を目的にこのセンターができ、より多くの女性たちに参加してもらうことが事業

実施の上で大きな目的だったのです。

それからは、それだけでは飽きたらなくなった女性が増えてきて、今ではだいぶ形態が変わったと思います。

しかし当時は、多くの方々に喜ばれ、職員も張り切って仕事に取り組んだということを今でも幸せに思っています。

関堂：婦人文化センターオープンの際は、準備期間が短くて大変でしたね。私たちも仕事を終えてから協会職員全員で手伝ったことを覚えています。

小野寺：その他にも、ここにどこの婦人団体事務所が入るか問題になりました。

当時、婦人団体で連絡協議会組織を持っていたのは札幌市婦人団体連絡協議会だけでしたので、この団体（現札幌市女性団体連絡協議会）が入居するという経緯がありました。

そして、清掃は札幌市母子寡婦福祉連合会にお願いしました。

婦人文化センターができた頃は全道から見学者が来まして、毎日バスで来る人たちに館内を案内し、職員全員でお見送りするという旅館の従業員のよう日々でした。（笑）

また、若いお母さん方も利用するようになり、様々な要望から幼児室が作られ、そこでボランティア・スクールを修了した方々が、子育てのボランティアとして協力するシステムもスタートしました。

相馬：オープン当時の婦人文化センターの利用者を見ましたら、12月から3月までに5万3千人という数が出ています。

小野寺：みんな待っていたのですね。

関堂：自主事業が、かなりありましたね。

婦人文化センターの事業計画を多分削られるだろうと青少年婦人部に提出したらそれが全部通ったのですよ。普通、予算というのは削られますよね。

小野寺：職員も事務局の方々にも応援していただいて忙しい思いをしたと思いますが、どんな企画も成功するとか、喜んでいただいた楽しい時代だったですね。

佐々木：市民の皆さんが興味津々というか、そういう時代背景といったら変な言い方ですが、今までそうした機会が少なく飢えていたような気がしますね。

そして貸室利用は、常に満杯状態で、オープン一周年記念の時に上田会長が故板垣市長の前で「2番目の婦人文化センターを是非建ててください。」と挨拶をされた記憶があります。（笑）

小野寺：今でもお部屋を確保するのに前日の晩から並んで申し込んでいる状態なのでしょうか。

相馬：今は、違う方法で抽選にしております。

小野寺：それと事業で思い出深いのは、婦人文化センターがオープンして一回目のボランティア・スクールの修了式には、市長さんにもお出で頂きキャンドルサービス、ミニファイアーを部屋の中で行った時のことです。キャンドルサービスの火がパッと飛び散り、建てたばかりのセンターですし大慌てしたことがありました。（笑）

佐々木：市長でキャンドルサービスをして下さったのは板垣さんだけではないでしょうか、こっちは良い思い出でした。

相馬：隣りに女性センター別館ができたと同時に情報資料室も社会福祉総合センターに移ってしまいましたね。

小野寺：女性のための情報ということで、準備し随分と利用されてきたのに管理も社会福祉協議会に移行され本当に残念でした。

耐震壁が揺れるほどの大音響

相馬：次に婦人文化センターがオープンして前の婦人会館の建物を活用し、青少年センターが昭和57年2月にオープンしましたね。

佐々木：婦人文化センターの貸室ほど「押すな押すな。」というほどではなかったですが、音楽練習室が一番青年たちに人気がありました。しかし、あそこは物凄い音で、頭が変になるかと思うほどでした。

関堂：青少年センターは婦人会館のおさがりで大改装してスタートしましたが、特筆すべきことは、これまでのホールの使用概念を変えて、こちらが全てお膳立てするのは使用する青少年の自主性を損なうということで、借りる人がミキサーとか照明を自ら操作するという発想で施設作りした点です。



それがこちら側にしてみれば逆に大変なことで、照明だけでも30系統、ミキサーは16チャンネルなど操作方法を覚えるだけでも大変。それがホールに設置されていて、借りた人に自主的にやらせる。青少年の自主性を育むということでは、とても良かったのではないかと思います。

オープン前日には徹夜でミキサーの取り扱いマニュアルを書いた記憶があります。

また、二階の奥の部屋が音楽練習室で、非常に安い料金でマイク、アンプ、ドラム、ミキサーなどの一式を貸しました。そこで毎日演奏するのはロックばかりで、ガンガンやるのですから、耐震壁が揺れるほどでした。

そういう大きな音に我慢しながら、若者たちを相手にミキサーの使い方などを教えました。心では音楽というものは音が大きければ良いものではないのにと思いつつながら...

当時、民間のスタジオは使用料が高く、その分青少年センターに申し込みが殺到しましたね。

事業の拡大～児童会館の受託～

相馬：そこで協会の予算ですが、グループワーク協会の時、7百万円で最終的には決算額で1千万円だったと思うのですが、「ああすごいな。」って言って2年目は少し仕事が増えて2千万円でした。活動協会になった当時は予算規模が4千8百万円で次の年から職員を含めて倍々ゲームになっていたんです。昭和56年で

1億1千万円になって、57年で2億1千万円です。

そんな初期を経ながらその後、「事業の拡大」ということで児童会館の受託が一つまた一つと、今に至っています。やはり、きっかけになったのが児童会館の受託かなと思うのですが、その辺については佐々木さんがよくご存じだと思いますが、。

佐々木：当時、係長か課長職の柿本さんとこの先活動協会を続けていけるかどうかと話をした時に「今、勤労青少年ホームの委託を受けていますが、児童会館も少しさせてもらおうと助かるんですけど。」と言ったことを覚えています。

その後、柿本さんが社会教育部長になった時に「児童会館を受託しないか。」と持ちかけられ、当時の理事長だった故柄内さんが、最初難色を示したんですよ。そうしたら、柿本さんが私に「児童会館をやりたいと言ったのは佐々木さんだよな。」と言ったものですから、自分の知らないところで、私と柿本さんが勝手に交渉していると理事長が誤解したのですね。そのことに後で気づいて「いやあ申し訳ないことをしたなあ。」と笑い話でした。

実は一番最初、荒井さんが係長職のころですよ。 「民間でこういう活動をしたらいいなあ。」とよくそんな話をしていました。

荒井：私が教育次長の時、今後できる児童会館を活動協会に委託するという話でした。私が最初に議会に出たときに、児童会館を活動協会に委託ということが議論になりました。

最初から100館を委託するという話で進んでいたのですが、市会議員さんや組合から質問が出て活動協会はどういう団体なんだっていうので色々説明したら、後ろのほうにいた議員さんから今まで退職した指導員の名簿が出てきて「毎年こんなに辞めている、こんな団体に児童会館をまかせられるか。」とそんな話にもなりました。

でも、その辞めていった人たちと、今後もつながりを持つということが書いてあるのですよ。

佐々木：新しい職務に就くなどの理由で辞めていましたし、雇用年限がありましたからね。

荒井：結局、市教委で話をして3分の1の33館でスタートしたのです。

佐々木：さんざんな話だって笑い話でしたけれど、。

関堂：ところで、1中学校区に1館は達成されたのですか。

小倉：はい、もうできています。

相馬：新館では平成12年3月にオープン予定の清田区の平岡みどりの1館だけです。

佐々木：それで終わりですか。

猪野毛：次期5年計画の中に1館だけ残っているようですが、今後はミニ児童会館を中心にしようというこ



とになっているようです。

小倉：今は死んでしまったような計画ですが、住区計画というのがありまして、私が社会教育に行く前に企画調査課長をしていた時の計画なのですが、その中に札幌市を50住区に分け、児童会館はその1住区に1館という構想で練っていました。

だから「50館以外はつukらないよ。」と言って議会やほかで議員さんの方々と大議論したという記憶があります。それがいつの間にか徐々に崩れて、1中学校区に1館という100館構想に変わったのです。

佐々木：どんどん子どもが増えていった時代ですからね。

猪野毛：この時代は、丁度オイルショック以後で、財政難となって色々な見直し運動をしていました。

最初は節約の部分に手を付け、そして昭和56年から59年にかけて委託の関係を集中的に審議していました。

委託部会を作って、その中にゴミ収集とか給食、除雪、そして児童会館などをさらに効果的、効率的なやり方ができないだろうか。

そのために委託をしようという方向になり、そこによい受け皿があって進み、そして今年度、児童会館は遂に全館委託ということになりました。

荒井：太平連絡所と児童会館の併設館を一緒に作る時に「ほかの児童会館の予算は多少削っても、ここだけは欲しいという物の予算は全部出して欲しい、これが最初の活動協会の児童会館なのだから。」と言った記憶があります。

佐々木：当初、委託は「札幌市指導の元でなくてはいいから、単独館はダメだ。」ということで併設館だけを受けました。

荒井：しかし、最初から直営館よりも評判は良かったですよ。管理運営がスマートですし、その子どもたちも生き生きとしている。あれは、行政の立場としては非常に耳の痛い話でした。

相馬：当初勤労青少年ホーム（レッツ）の派遣は指導員だけだったのが、一部職員を派遣するような時代を経て、だんだん協会が大きくなっていきました。

最初1人2人の指導員派遣だったのが、市で直接雇用していた指導員が辞めていった後、協会が派遣するという形で移行していった全面的に派遣することになりました。

その後しばらくそのまま進み、平成2年には各館1名ずつのプロパー職員派遣となりました。

館長、市職員2名、協会指導員3名の6名体制から館長、市職員1名、協会プロパー1名、指導員2名の5人体制で徐々に協会の委託の方向に向いてきたのです。

小倉：その頃の職員数はどのくらいだったのですか。

手作りで出来た劇場

相馬：設立10年で指導員も全部含めて96名ですね。最



初は15名でのスタートです。そんな時期を経て、劇場が委託されましたね。

小野寺：こぐま座、やまびこ座の両館揃ってから委託されたのですか。

相馬：そうです。昭和51年にこぐま座がオープンした時には、荒井さんが青少年婦人部の主幹でいらっしゃいましたね。私が指導員で部にいたころですから。

荒井：当時、私が聞いていたのは、市長公館の裏でいつも人形劇をやっているのを見た市長が「子どもたちに一つの拠点を作ってあげたいなあ。」ということからスタートしたと聞いております。最初は、神戸さんが口火をきったようですが。

佐々木：板垣市長が最終的な案を見たときに「私、こういう大きな物造れと言ったか。」とおっしゃったと有名な話が残っているんですよ。

小倉：その後で中島児童会館の全面改築をしたんですよ。その時、調べてみたらトイレがないんですよ、こぐま座に。それで児童会館にこぐま座のトイレを作ったんですよ。「いやあ変な建物だ。」とよく言っていました。

荒井：だってスペースがないですよ、こぐま座には。

小倉：そうですね、担当者のいる部屋もないしね。

荒井：何にもないんで小野寺さんに頼んでお母さんたちに座布団を作ってもらって。

小野寺：座布団は良かったですよ。ボランティア・スクールや新1年生のお母さんグループに声かけして作ってもらい、青少年婦人部の事務所が座布団の山になる程で、それを何とか市長にお見せしたくて、エレベーターの前にいらした市長に無理やり見て頂いたことがありました。(笑)

佐々木：あれは本当に良かったですね。

荒井：また、オープン前日のリハーサルはすごく暑く、神戸さんが予算もないのに「クーラーを付けろ。」と言い、一晩で付けましたね。

一同：暑かったですよね、あそこは。

荒井：消防法なんか関係なかったですよ。(笑)でも、加藤さんみたいなピッタリの人をよく見つけましたね。

小野寺：館長の加藤さんはもう退職なさったのですか。

相馬：平成11年3月一杯で退職されました。今は利用者という立場ですね。

荒井：やまびこ座にはほかにも何かの事務所があるのではないですか。

相馬：事務所はありませんが全面的にご協力を頂いている、札幌人形劇協議会の拠点になっています。今、札幌の人形劇関係というのは全国から注目されています。公立の人形劇場が2つもあるというのは、ものすごいことらしいですね。

荒井：一度見学に行きたいと思っていた飯田市の市長は、札幌と張り合っているみたいですね。

レッツの全面委託と組織の拡大

相馬：張り合ってもらえる施設を持っていることは幸せなことです。

次にレッツの全面委託ですが、それに伴いそれまで閉館時間は午後9時までだったのが、委託に併せて午後10時までになりました。職員は、プロパー2名と指導員3名になりました。

小野寺：利用人数はどうですか。

相馬：おかげさまで微増ですが、. . .

荒井：私が理事長になった翌年かな、全面委託は。減少を食い止め、少し上向きになってきてましたね。

小野寺：良かったですね。

相馬：最近「事業は館ではやらないよ。」と言っています。各館には、利用者で構成されている協議会があり、そこが主体となって行っています。

青年の自立という目的のためには、どれだけ責任を持たせることができるかということに力を入れて運営をしている状況です。

小野寺：レッツは今も地方から来ている青年が利用しているのですか。

相馬：必ずしもそうではないです。地元の青年も結構いますが、学歴が皆高くなりましたから、高卒、短大卒、大卒も含めて利用は変化しています。

小野寺：昔は地方から出てきて友達がいない青年が集まる場所だったんですよ。

相馬：中卒で地方から札幌に出てきた子どもたちが、レッツがあったから不良にならなかったという例を何人も知っていますし、本人たちがそう言っていますので、. . .

そういった意味では設立当時の目的は、確実に果たしてきたのではないかと思います。今は施設の性格は大分変わってきたなという気がします。

現在の活動協会ですが、予算が23億円、職員も600人を越えるという規模になりました。

平成10年4月には定山溪自然の村が委託され、平成11年6月には児童会館が全館委託となっている状況の中で、今後の活動協会はしたら良いのか、皆さんの長い経験を踏まえてアドバイスを頂ければと思います。

専門職員確保のシステム化

荒井：私は施設を運営する上で、行政の管理一辺倒の運営ではなく、もっと利用者の気持ちになって運営することがそもそもの活動協会の役割だと思います。

それともう一つ、恒常的に職員がどんどん変わって新しい職員が増えても、共通の指導理念、技術を確保することが最初から設立趣意書にうたわれているグループワークではないでしょうか。

グループ・ワーカー養成講座の受講者が1年間あるいは2年間の講義を受けながら、やがて地域のボランティアリーダーとして貢献し、その中で適任と思われる人たちを協会の組織の中に組み込んで職員採用のシステムを作っていく。

しかも、それは職員として活動協会の施設運営に携わるだけでなく、色々な青少年事業をする。その事業の中にもグループ・ワーカー養成講座の受講生も入り、実際にプログラムを展開していく。

そのことが研修にもなるし、同時に活動協会のプロパーだけでなく指導員もそこに入って一緒に実践事業を展開をすることで経験を積んでいく。そういう循環システムが協会設立当初から一貫して流れている精神ですね。

それから、今度新しく協会に来た旧直営の児童会館の指導員にも、職員研修をとおしてそのシステムを生かしていけないのだろうか。

また、別立ての職員研修システムの中で、「この指導員はいける。」という人はやがてプロパー職に抱え込むことで、常に後継者を養成していく。それが一番大事ではないかと思えます。そして、今までの委託の児童会館と旧直営の児童会館の運営方針を共有化していく。

来年から10年位かかるとは思いますが、じっくりと育てていくことが必要でしょう。その間に研修や、色々な人の意見や助言を仰ぎシステム化していく。そんな風になると良いのではという気がします。



関堂：規則だけで子どもたちは育たない。

札幌に活動協会があって良かったと思えるようになって欲しい。

そして、活動協会は管理財団になりたくないという気持ちを、全職員にどのように共通の認識をさせるか。人をどのように育てていくかということですね。

佐々木：夕べ変なことを考えていました。これからは、未来を見なければならぬ。未来を見る時に、どこから見たら良いかと考えると視点の置き場がないのですよ。

私は「初心に返れ。」という言葉はそこから生まれたと思っています。出発点に立ってみると。そして、出発点に立って未来を考えた時、自分たちの現状というのをどう解釈するかが大きなテーマになると思えます。

今、丁度学生たちに講義しているところですが、それはグループワークの中で特殊なインターグループワークと言われるものなんです。

これは、今までのグループワーク協会では考えたことがなかったんですよ。これが、初心に立って未来を見る時の一つの道筋になって自分では思っているんですが、そこでもう一度、「じゃあ我々が志した未来ってどこにあるのか。」というと、誰が書いたかわから

ない（一説には故吉田保幸さんという話もあるが）協会の封筒に記されている詩があるでしょ。あの中に絶対に初心と未来があるはずなんですよ。

例えば、女性センター、児童会館、レッツなどの役割は20年経っても本質は変わらないけれども、これからの未来に向かう新しい任務が生まれるかなと思いません。

今から思えば、その当時700万円位のお金ですが、私たちにとっては大変な金額でした。お金を出して協力してくれた人たちに裏切ることではできないと、皆で必死になって頑張ってきた。

今一度振り向いて、自分たちの初心を確かめて、未来に向かう道筋を作る以外ないと思えます。

「初心忘るべからず」を心において

相馬：小野寺さんいかがですか。

小野寺：婦人文化センター的な立場から言いますと、20年前、私たちが女性の社会参加のきっかけ作りをして、色々な事業をした時代と、もうすっかり変わってしまったと思うんですね。

女性自身も学習を積んだり、色々なお話を聞いたりして意識も高くなっていますし、そんな中で、事業もそれに合わせて実施していかなければならない点もたくさんあると思えます。

私は一番最初に婦人文化センターができた頃には「エプロン掛けでお出ください。」とよく言っていました。気軽に利用できる会館にしたいと。

それにしても、どんどん学習を積んでいって、より高度なものを望む女性も確かに増えてる反面、今育児ノイローゼだとか、友人がいなくてノイローゼになってしまう女性がいるのではないのでしょうか。だからそういう女性も含めて、やはり今まで以上に気楽に参加して欲しいし、誰もが参加できる事業も必要かなと。

また、パソコンの普及に伴い在宅で研修に参加できるなど全ての女性に事業を提供できる新たな方法も考えて欲しいですね。

しかし、先程からお話に出ている「初心忘るべからず。」というか、それは絶対忘れてはだめだと思えます。

今後は、女性センターがどういうふうになっていくかわかりませんが、その辺を心においてやって頂きたいと思えます。

役所のような大きい組織は、人事異動があつてどんどん変わっていきますが、幸い活動協会の職員はずっと続けていけるわけですから、何とかその精神を受け継いでいって欲しいと思えます。

相馬：女性センターも色々な意味で変わってきていますし、女性学的なものを求める人や、今おっしゃったそうではない人など色々な方がいますので、フォローアップも重要な部分ですね。我々の中にも流れに乗ったらつい安心してしまふ傾向はあると思えます。

20年目の初心とは・・・

佐々木：先程、言いのがしたことがあるので一言付け

加えさせて下さい。

協会が今まで見落としてきた子どもたちの問題ですが、学生の中で、どんなに努力しても勉強してもだめな人がいます。必死になって教師が付きっきりで教えても、だめなんです。本人は一生懸命でまじめなんです。考えたらLD（学習障害）の始まりの頃の子どもしか言えない。もう23、4歳ですが、まじめで一生懸命勉強はするが頭に入らない、行動にも表れない。

そして今、コミュニケーション学習という話が様々なところで出てきていますがそれがまずできない。本当に恐ろしい時代が来たと思います。自習させてもだめ、コミュニケーションに関する分厚いテキストを読ませてもおかつできない。本人はやりたいけれど動けないのです。

また、どうして自分の子どもを殴り殺す、という親の問題です。あの詩の中にありましたよね。母親に対する言葉が、。

事例ですが、高齢者に対する若い人の態度がひどいということも目にします。私の勤務する学校の学生が、バスの中でほかの学校の学生に注意したんです。

「立ってあげなさい。」と、そしたらこちらの方をにらんで返事もしなかったって。そして、たまりかねて、もう一度言ったが2度とも無視され、そのことを下宿へ帰って友人に話したら、その友人が「年寄りには、周りの人が大事にするから体が弱くなるんだ。立たせておいたほうがいいんだよ。」と言ったって。「先生これってどこか違わない。」と言われました。

でも、そういうとんでもない理屈がまかりとおる。だから地べたに座る若者もいる。それなりの理屈を持っているだろうけれど。

そこを突破していくのは、この活動協会しか無いような気がします。これは行政機関がどんなに努力しても手を出す事はできないと思います。

活動協会が20年間、手の回らなかったことを今度少し余裕ができたから、そこに手を回してみるかなって、。

これが20年目の初心かなと思います。それが未来への思いだと思うけれど、。そういう少年や青年や母親たちの中に紛れ込んでいくのは、ここの職員のすぐれた資質だと思っていますし、それができるのですよ、協会のメンバーは。

今後に向けて～マイナー文化を育てる～

相馬：それでは、今後に向けてということで理事長よろしくお願いたします。

小倉：皆さん、大変有り難うございました。今のみなさん方のお話を聞いていて、私がいつも思っていることと同じような点がいくつかあったことと、今までの協会の中で話をしていたことを合わせてお話しいたします。

一つは荒井前理事長がおっしゃった行政管理の面です。委託されるとということは役所の委託事業を守っていかなければならない。そのため非常に管理が厳しくなっていく。ともすると、「役所より管理が

厳しいよ。」という声がどこからともなく聞こえてきます。児童会館にしても女性センターにしても、その辺に委託に関する難しさがあるという気がしています。

そこで私がいつも言っているのは、民間の柔らかさをどうやって反映させていくか。そこが一番大切で、人にやさしい管理をどうやっていくかということです。児童会館にしてもほかの施設にしても館の運営自体に生かしていかなければならないと、。



だから、「只今午後9時です。はい、閉館です。」でいいのかと。役所ならよくても、我々がそんなことをしてはだめなのです。やはり、柔らかさみたいな弾力的な運営を大切にしたいものです。

それから、グループワークというのは一つの手段ですが、「じゃあ今後何をしていくのか。」ということもやっぱり大きなことですね。

先程、佐々木さんもおっしゃっていましたが、これから協会がどこを狙っていくかが大切なことだと思います。

現在、様々なプロジェクトが生まれ職員が協会をこの先どうしていくかという研究をしています。私がいつも言っているのは、札幌に住んでいる子どもたちがここに住んでいて良かった。大きくなって、ここがふるさと札幌だとか、子どもたちが夢を持った人間に育つとかのために我々がきっかけ作りをし、一翼を担うような仕事をしなくてはだめだと思います。

では、どうしたら良いかということ、確かにその手段としてのグループワークがあるでしょう。施設のハードの面は役所が手がけ、ソフトの面はどうしたって市の人事異動の体制の中では難しいわけですから、専門の人がどうやっていくか、方向付けしていかなくてはならないと思っています。

そのためには、組織内訓練という研修も必要ですし、これからは協会が扱う対象者も一つの問題になるでしょう。

今、佐々木さんから最近の子どもたちについての話がありましたが、それではその子たちをどうしたら良いかと考えると、今までの対象年齢層の上と下とを広げる必要があると思います。

例えば、今扱っている子どもよりさらにもう少し下の幼児のしつけまで含み、それから上で言うと、その子を育てている親やさらにその上の人たちとの子育てのつながり部分や、家庭内教育に対する関わりまで取り込めないものかと。

いずれにしても、組織は肥大化してきているわけですが、その中できちんとした方向性が必要ですし、ある程度の哲学も打ち出していかなないとだめかなという気がしています。

もう一つは、秋に大通公園でふれあいフェスタという催しを行っております。私はやはりあのような文化

といいますか、役所が育てられないマイナー文化だと思えますが、もうメジャーはいいから、マイナーな文化とどう関わり合っているか。それは行政が関わらないわけですから、協会として、どのようにしてマイナーな文化を育てられるかどうかということも、これからの一つの課題だと思えます。

より効果的で効率的な事業を

相馬：それでは最後に専務に現場の総指揮者としての立場からお話をお願いいたします。

猪野毛：はい、そういう立場にいますのですが、皆さんの意見をそれぞれ参考にさせて頂きやっていきたいと思えます。

今、札幌市がやってきていた仕事がこの協会に委託され、行政が従来やっていたことを活動協会が代わりにやっているという状況です。

そこで、札幌市が今どんな状況にあるかという点、地方分権とか情報公開の思想が普及し、市民が行政に積極的に関わり、意見を反映させようという情勢になってきています。

そのため、札幌市でも行財政改革推進計画を作り、市民が本当に何を求めているかという点で事業を見直しているところです。

そういう状況の中で一つは少子化の対応、これが国ばかりでなく地方にとって重要課題になっています。協会で行っている事業がまさにその中に位置づけられている。

従って、今まで以上に市民が求めるものを把握し、どうしたら効果があるか考える必要があります。それにはやはり役所より市民と直接的に接する窓口が広い協会というのが最適ではないでしょうか。その観点から今後の事業をどう展開するかということを整理していく必要があると思えます。

もう一つは、財政的に非常に厳しい状況がこれから続きますので、お金をなるべく使わない事業というのはできないだろうか。

これは、今後も求められるのではないかと思います。これまでのやり方を見直し、例えば市民をどうにかして巻き込んでいく事業ができないのかなど方向転換が必要です。

今までも色々やってきて、青年たちが協力してくれることなどがありました。さらにこれらを広げる方法はないかなどを模索していかなければならないと思えます。

そして、より効果的なより効率的な事業というものを協会自身で考え、市にこういうやり方をすべきだと提案をする時期かなと思えます。

そのためには、何といても対象者にどう参加してもらえるか、いかに多くの人に参加してもらえるのかという方策を考えながら事業を考えていく必要があるのではないかと、またそういう時代だろうと認識して



おります。

それから、皆さんがおっしゃっていた専門職を育てる研修も必要だろうと思えます。「初心に返れ」ということが大切ですし、職員全員が同じ考え方に立てる力を持つためにいかに研修するか、勉強させてもらいながら進めていかなければならないと感じています。

子育て中の母親へ

関堂：実はこの間、以前私が仲人をした人が子どもを連れて来た時に、教育についての話をしたら、私が思っているのとまるっきり逆のことをいう。

要するに今の時代は子どもの自主性を育てるために「子どもの言うことは全部聞いてあげなさい。可能な限り聞いてあげなさい。」というような方針なんですね。

私はそれは間違っていると思えます。逆に子どもに対して「しつけをする」ということは大事なことです。ですから子どもを育てている母親の教育につきると思えます。

今、小学校から授業放棄をする子どもがいたり、それを先生が指導できない時代になっています。だからそこに母親や幼児をどうやって巻き込んでいくか。そして、活動協会がお母さんたちに次代を担う子どもの教育の必要性をどのように伝えていくかが全てだと思いますね。

そのために、今から子どもを直すのに10年かかるか20年かかるか、現状を見るといや30年かかるかなと心配していますが。

そこを協会でアピールし、マスコミを巻き込んでいく、今のままでは日本はつぶれるか、どうかなってしまいかと危機感さえ持っています。

相馬：そういう期待に応えうる協会になるように努力していきたいと思えます。


かつて児童会館が初めて2館が委託された時に「児童会館が全部協会に委託されると札幌を変えられるな。」と夢を語った覚えがあります。ただ、“むしろこれからどうすべきか”というのが我々の与えられた大きな課題だろうと思えます。

先程、荒井前理事長が長い時間をかけて10年位かかるかも知れないとお話されましたが、とても10年は待てないし、もうすでにバタバタしながらやっている職員がたくさんいますので、協会に委託された以上、全員が協会職員でありますから、皆を巻き込みながら何とか良い方向に向けるよう頑張っていきたいと思えます。

そのためには、これからは是非お力を貸して頂きたいと思えます。

また、理事長から「マイナーな文化を育てて、もっと自由にやれ。」とおっしゃって頂いておりますから、皆で頑張っていきたいと思っています。

今後ともご指導と応援をよろしく願います。本日は長い時間に渡り大変ありがとうございました。



街のなかのどこかに
ほんやりとしている子どもがいたら
そっと笑顔を届けたい

暮れてゆく街のなかを
さすらっている若者がいたら
握り合う手を差しのべたい

日々のくらしのなかで
空しさを感じるお母さんがいたら
おしゃべりの声を聞かせたい

この街のなかで
生きてゆこうとする人々に
どうぞ伝えてください
私たちのことを

20年の歩み

～協会設立の経緯と協会の歩み～



(財)札幌市青少年婦人活動協会設立の 経緯と各施設受託の背景

◆設立趣意書

札幌市は、明治2年創建以来110余年を経過した現在、先人のたゆまない努力により、目覚ましい発展をとげ、昭和54年11月には、人口において神戸市を追い越し、全国第6位の大都市に成長したところである。

この札幌市の将来は、若い行動力を持つ青少年とその青少年をはぐくみ育てる婦人の力に負うところ大であるが、現今の青少年の実態をみると、非行や自殺の多発等必ずしも楽観を許さない状況にある。

このことから、青少年にあつては、心身の鍛練に励み先人に負けない開拓精神を持って、郷土札幌市の発展に寄与するよう、また、婦人にあつては、家庭教育の重要性を十分認識するとともに、ボランティア活動等を通して人情あふれる地域社会の確立に寄与するよう期待するところである。この種の活動を支える最も重要な要素は、グループ活動に関する専門性を具備し、かつ、実践的に活動できる専門指導者（グループ・ワーカー）の確保であるが、この種の指導者が現在本市において絶対的に不足している状況にある。

ついで、この種の指導者を質量ともに安定的に確保するとともに、その身分保障等をも配慮し、もって官民一体となった活動を展開するため、札幌市青少年問題協議会の建議にのっとり、財団法人札幌市青少年婦人活動協会を設立し、青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の推進を図ろうとするものである。

昭和55年3月11日

財団法人札幌市青少年婦人活動協会

設立者

札幌市 代表 板垣 武四

協会設立の経緯

昭和48年に青少年活動の経験者を中心にユースワーク協会が設立された。

その後、更に活動内容を充実するために当時の青少年婦人部と教育委員会の絶大な協力により、昭和53年にグループワーク協会を設立した。

当初、滝野自然学園の管理補助業務を受託しスタートした。

その目的は、「青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加、個人の主体性の確立を前提としたグループ活動を根幹に捉えた活動の掘り起こしを目指す」ということであった。

そして、昭和54年3月札幌市青少年問題協議会から市長と市教委に対して「青少年育成に関する当面の対策について」の建議がなされ、財団法人札幌市青少年婦人活動協会の設立に至った。

目的と事業

協会は、「主として札幌市の青少年婦人を中心とするグループ活動の振興を図り、もって青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の推進を図ること」を設立の目的としている。

また事業としては、

- (1)グループ活動の指導業務
- (2)指導者の養成及び登録派遣業務
- (3)グループ活動プログラムの企画立案の相談業務
- (4)グループ活動に関する調査研究および資料の発行業務
- (5)福祉事業等に対するボランティア活動業務
- (6)青少年婦人関係諸施設の管理業務

(7)そのほか前各号に掲げた業務に付帯する業務が、主たるものである。

活動協会の使命は、グループ活動が青少年活動の「重要な手法」であるということをおも前提において、その専門性を発揮しながら「青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加を図る」という幅広い活動を行うことであり、大きく期待されているところである。

設立当初の協会の主業務は、グループ活動の中心ともいえる、グループ活動指導者養成やグループ活動に効果的なプログラムとキャンプ活動、レクリエーション活動の指導など、全市的視野にたつて活動の活発化を図っていく事業が主流であった。

その後、当協会の設立以来の業績を評価して頂き数多くの施設が次々と委託されることになった。



協会の事業

協会の事業は、他機関・団体からの依頼を受けて実施しているものと、協会独自の企画によって実施しているものなどからなっており、その内容は多種多様になっている。

現在までにそれらの事業は、「プログラム開発事業」・「人材育成事業」と「施設管理事業」に整理し、それぞれの内容によって区分をしているが、いずれにしても事業の中でグループ活動を中心として、青少年の健全育成並びに青少年女性の社会参加を目指すために専門的立場から指導、助言するという点は、協会の設立時から終始実践してきたところである。

この20年を振り返ると、実に多くの方との「出会い」があった。その形態は様々であっても、ひとつの出会いが次の出会いを作るという素晴らしさを教わったのは、むしろ協会職員の方ではないかと感じている。

今後は、ホームページなどを通じて協会の活動内容を広く伝え、社会変化に応じた事業対象の拡大や新たな分野への挑戦、また札幌市から受託している各施設をとおして、地域や教育現場とも結びついた積極的な事業展開も含め、協会の持つ機能を十分に生かした活動を進めていきながら、札幌の将来を担う人づくりに貢献していきたい。

1. 協会における事業目的

協会の事業は設立趣意の実現を目指し、地域社会とのネットワーク化を推進することを目的としている。

(1) 協会設立趣意を実現するために

- ① グループワークをとおし、青少年の健全育成や女性の社会参加を援助する。
- ② 専門性を追求し、それを活用することで社会活動の促進を図る。

(2) 地域社会とのネットワーク化を推進するために

- ① 協会が管理運営する諸施設をとおして、周辺地域の機能活性化に努める。
- ② 行政目的を勘案し、札幌市からの実施要請に対応する。
- ③ 一般企業及び団体との協賛・後援事業を進める。



2. 業務区分について

(1) プログラム開発事業

多様化する社会において、広範囲にわたるプログラム（内容）の開発・実施に重点を置き、協会オリジナルのプログラム開発・実施・普及（協賛・後援事業としての展開）また、外部からの依頼によるプログラムの企画・提供及び指導を行う。

(2) 人材育成事業

グループ活動の指導、指導者の養成及び登録派遣を踏まえ、広範囲にわたる人材育成に重点を置いた事業及び指導を行う。また、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる他団体と協力して人材育成に努める。

(3) 施設管理事業

札幌市より委託を受けた各施設の管理運営。

青少年センター

昭和54年3月、札幌市青少年問題協議会の答申の中に青少年育成施設の整備について明記され、強く青少年センターの必要性がうたわれていた。札幌市は「青少年の健全育成および青少年活動の促進を図る」ことを目的に昭和57年2月に旧札幌市婦人会館を改装して札幌市青少年センターとして開設され、当協会に委託された。

その後、平成4年中央区南9条西14丁目の旧血液センターを改装移転し平成12年8月完成の新青少年センターへ引き継がれる。青年の間で盛んで最も利用頻度の高い音楽練習室やホールを備えている。



勤労青少年ホーム（レッツ）

勤労青少年ホームは、働く青少年の健全な育成及び福祉の増進を図るため昭和39年9月に中央勤労青少年ホームを皮切りに市内に7館開館。

当協会は、昭和55年4月に中央、豊平勤労青少年ホーム、石山青少年会館への指導員派遣を開始し、平成6年3月まで全館に派遣を行った。

平成6年4月から、札幌市の機構改革により当協会に6館が全面委託され、開館時間も午後10時まで延長され現在に至る。（石山青少年会館は平成2年4月から児童会館になった）



女性（婦人文化）センター

婦人文化センターの前身は、札幌市婦人会館である。

この会館は、婦人団体等が建設期成会を結成し募金活動を行うなど、婦人たちの強い要望によって建設の足がかりが作られ、昭和37年に実現した。当初は、市教委の所管であったが、昭和50年4月から市民局に移管された。

当時の事業内容や利用内容は趣味的な講座（洋裁、和裁、茶道、華道、料理、着付けなど）で、婦人の生活文化、教養向上の場として考えられていた。

それが、昭和50年の国際婦人年を契機として、婦人の社会参加も進み、施設を取り巻く状況も、利用者も、変化を見せはじめた。

さらにその頃から、民間の文化教室やカルチャー

センターが数多く誕生し、婦人会館で行っていたのと同じような講座を開設するところが多くなってきた。

また各都市においても新しいイメージの施設が次々と誕生するなど婦人会館のあり方を見直す動きが活発化した。

札幌市においても、国際婦人年などを契機とする婦人の社会参加や活動の高まりから、全市的な婦人活動の拠点として機能を十分果たすことのできる施設として建設され、昭和56年11月婦人文化センターが当協会に委託され、12月に開館した。

多種多様な事業展開と幼児室を設けるなど時代を見据えた施設作りは札幌の女性から高く評価され、行事や貸室の申し込みに多くの女性が殺到する程であった。

平成4年4月には時代の流れを組み取り「女性センター」に名称変更を行った。



児童会館

児童会館は、児童の文化的素養を培い、その福祉を増進するために設置された社会教育施設で、児童の放課後生活を豊かにし、異年齢集団での遊びをとおして、地域における交流を目的として昭和24年3月に中島児童会館を皮切りに次々と建設された。

当協会では、昭和61年4月に宮の森と太平の2館が市教委より委託されたことが始まりである。

その後、協会の特色であるグループ活動中心の遊びの提供や行事の運営が評価され、次々と委託を受け平成11年6月には、市直営館も含めた全館の管理運営を委託され、開館時間も午後6時まで延長された。

また、児童会館のない小学校区を整備していくことを目的に小学校の空き教室を利用し、開設されたミニ児童会館が、平成9年9月開館の南小学校、菊水小学校ミニ児童会館を皮切りに当初から当協会に委託されている。

それだけに、協会では受託についての重要性を認識し、さらに効果的な運営や活動を図るように努めている。



定山溪自然の村

定山溪自然の村は、自然環境の中で行う自然観察、野外活動及びそのほかの活動をとおして市民の自然に対する関心と理解を深めると共に、市民の健康の増進及び交流の促進を図るため建設された。

当協会へは、キャンプ、野外活動など自然体験活動の豊富な経験から平成10年4月に市教委より委託を受け、同年6月にオープンし、自然を生かした活動を主にファミリーや小グループに対してプログラムを提供している。



滝野自然学園

市教委が、学校教育の一環として、小学校5年生を対象に1泊2日の宿泊学習の場を提供する施設として、廃校となった滝野小学校の校舎を利用し昭和46年8月17日に開設された。その後、昭和53年度までは、市教委で管理運営をしていたが、昭和54年からは当協会の前身であるグループワーク協会が市教委から管理運営補助業務の委託を受け、その後昭和55年4月当協会設立と共に引き継がれた。

しかし、平成10年6月の定山溪自然の村開設により滝野自然学園の役割は終え平成11年4月からは、滝野地区の方と当協会が滝野自然学園運営委員会を設立し運営していくこととなった。



こども劇場

人形劇場こぐま座は、当時の札幌市長がドイツのミュンヘン市を訪問した際、人形劇の専門劇場に触れ、札幌にも是非人形劇場を、ということから全国初の公立人形劇場が設立された。

当初は、札幌市職員1名と嘱託職員1名で管理運営業務を行っていたが、昭和58年から人形劇を上演するための裏方の仕事（照明、音響など）の専門家を育て職業的に確立しようと任意団体である札幌人形劇協議会に運営の一部を委託した。

その後、第2人形劇場として「やまびこ座」が構想され、規模も拡大し児童劇も含めた総合的な施設として建設されることとなった。

それに伴い「こぐま座」「やまびこ座」の運営の一元化の中で子どもの遊びや文化面に携わりはじめていた協会に、昭和63年4月に委託され、7月に「やまびこ座」が開館した。



天文台

昭和33年9月に、当時としては最新の設備により開設した。

その後、青少年、一般市民への天文科学に関する知識の啓発普及とともに、天文の観測、記録の収集を行うことを目的に昭和56年4月当協会に管理運営補助業務が委託された。

平成12年3月31日をもって委託補助業務を終了し、その後運営主体である(財)生涯学習振興財団において全面的に管理することとなる。



(財)札幌市青少年婦人活動協会20年の歩み略年表（施設受託）

1980年（昭和55年）度	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・財団法人札幌市青少年婦人活動協会設立（職員数15名） ・青少年レクリエーションセンター管理運営補助業務受託（1988年3月まで） ・滝野自然学園管理運営補助業務受託（1999年3月まで） ・中央勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名） ・豊平勤労青少年ホームへ指導員派遣（2名） ・石山青少年会館へ指導員派遣（1名）（1990年3月まで）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ポプラ勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名） ・豊平勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名追加）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・アカシア勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名）
1981年（昭和56年）度	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・天文台管理運営補助業務受託（2000年3月まで） ・中央勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名追加） ・円山勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名） ・アカシア勤労青少年ホームへ指導員派遣（2名追加） ・ポプラ勤労青少年ホームへ指導員派遣（2名追加） ・石山青少年会館へ指導員派遣（1名追加） ・婦人文化センターオープン準備開始
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人文化センター管理運営業務受託
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・発寒勤労青少年ホームへ指導員派遣（3名）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年センター管理運営業務受託 事務局移転
1982年（昭和57年）度	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・中央勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名追加） ・円山勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名追加）
1983年（昭和58年）度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・受託施設なし
1984年（昭和59年）度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・5周年記念誌発行 ・受託施設なし
1985年（昭和60年）度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・受託施設なし
1986年（昭和61年）度	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・宮の森児童会館管理運営業務受託 ・太平児童会館管理運営業務受託
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・麻生児童会館管理運営業務受託
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・厚別南児童会館管理運営業務受託
1987年（昭和62年）度	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・南の沢児童会館管理運営業務受託 ・あけぼの児童会館管理運営業務受託
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・中の島児童会館管理運営業務受託

1988年（昭和63年）度	
4月	・こどもの劇場、こども人形劇場管理運営業務受託
1月	・丘珠たから児童会館管理運営業務受託
1989年（平成元年）度	
12月	・栄西児童会館管理運営業務受託
	・厚別東児童会館管理運営業務受託
1月	・新川中央児童会館管理運営業務受託
1990年（平成2年）度	
4月	・10周年記念式典
11月	・発寒児童会館管理運営業務受託
	・柏丘児童会館管理運営業務受託
	・いなづみ児童会館管理運営業務受託
2月	・清田中央児童会館管理運営業務受託
	・北光児童会館管理運営業務受託
3月	・10周年記念誌発行
1991年（平成3年）度	
11月	・宮の沢児童会館管理運営業務受託
2月	・里塚児童会館管理運営業務受託
	・月寒児童会館管理運営業務受託
1992年（平成4年）度	
11月	・西岡高台児童会館管理運営業務受託
	・常盤児童会館管理運営業務受託
	・エルムの森児童会館管理運営業務受託
	・栄通児童会館管理運営業務受託
	・平和児童会館管理運営業務受託
1993年（平成5年）度	
4月	・中央勤労青少年ホーム管理運営業務受託
	・円山勤労青少年ホーム管理運営業務受託
	・アカシア勤労青少年ホーム管理運営業務受託
	・ポプラ勤労青少年ホーム管理運営業務受託
	・豊平勤労青少年ホーム管理運営業務受託
	・発寒勤労青少年ホーム管理運営業務受託
11月	・東苗穂児童会館管理運営業務受託
	・天神山児童会館管理運営業務受託
2月	・真駒内五輪児童会館管理運営業務受託
1994年（平成6年）度	
11月	・もみじ台ふれあい児童会館管理運営業務受託
2月	・円山西町児童会館管理運営業務受託
	・上篠路児童会館管理運営業務受託
1995年（平成7年）度	
11月	・美しが丘児童会館管理運営業務受託
	・八軒北児童会館管理運営業務受託
	・新発寒児童会館管理運営業務受託


1996年（平成8年）度	
11月	・丘珠ひばり児童会館管理運営業務受託 ・山鼻かしわ児童会館管理運営業務受託
1997年（平成9年）度	
8月	・菊水小学校ミニ児童会館管理運営業務受託 ・南小学校ミニ児童会館管理運営業務受託
11月	・金山児童会館管理運営業務受託
1998年（平成10年）度	
6月	・定山溪自然の村管理運営業務受託
9月	・富丘小学校ミニ児童会館管理運営業務受託 ・西野第二小学校ミニ児童会館管理運営業務受託 ・札幌苗小学校ミニ児童会館管理運営業務受託
11月	・あいの里ひがし小学校ミニ児童会館管理運営業務受託
1999年（平成11年）度	
6月	・札幌市児童会館（64館）全館管理運営業務受託
9月	・新琴似南小学校ミニ児童会館管理運営業務受託 ・北白石小学校ミニ児童会館管理運営業務受託 ・もみじ台小学校ミニ児童会館管理運営業務受託
2月	・平岡みどり児童会館管理運営業務受託（102館目）

財団法人札幌市青少年婦人活動協会職員数

(2000年3月末日)

	職 員 現 在 数						計
	総務部	事 業 部		児 童 部		女性	
	総務課	企画事業課	野外施設課	児童育成課	こども劇場	センター	
理 事 長	1						1
専 務 理 事	1						1 (札幌市局長職)
市派遣職員	4			68		1	73
主任指導員	5	20	6	42	5	4	82
内 部 長 職		1					1
内 課 長 職	1	1	1		1		4
内 主 査 職	2	7	2	7	1	1	20
専門指導員			2	7			9
指 導 員		18		315	3	2	338
事務指導員	2	2	2	2	2	1	11
男女共同参画専門員						1	1
活動推進員				63			63
予備指導員		7		35			42
臨時職員	1	2	2	44	1		50 児童クラブ超過配置含む
合 計	13 (14)	40 (49)	10 (12)	434 (576)	10 (11)	9 (9)	516 (671) 活動推進員以下を除く

(財)札幌市青少年婦人活動協会11～20年目の歩み

1990年（平成2年）度	
協会の歩み	社会の動き
<p>施設</p> <p>11月 ・ 発寒、柏丘、いなづみ児童会館管理運営業務受託 2月 ・ 清田中央、北光児童会館管理運営業務受託</p> <p>事業</p> <p>【 自主事業 参加者 3,392 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 父と子のアドベンチャースクール (1989～1990) ・ 遊雪塾スキースクール (1989～1996) ・ ジャがいもキャンプ (1980～1991) ・ 青少年指導者養成講座2年目 (1982～現在) ・ 遊習塾リトルキャンプ (1984～現在) ・ 星空同好会 I、II (1988～現在) ・ サイクリングキャンプ (～1991) ・ 流れ星を見よう (1988～) ・ 道新健康村 夏(1981～現在) ・ スターライトウオッチング ・ 肢体不自由児キャンプ (1980～1990) ・ 10周年記念事業 講演会「日高晤郎トーク」 ・ 滝野町内会交流会 (～1991) <p>【 受託事業 参加者 13,337 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども会ジュニア・リーダー研修 (～1997) ・ 老人大学レクリエーション ・ 子ども会シニア・リーダー研修 (～1998) ・ 青年国内研修 (～1992) ・ こども文化祭 (～1991) ・ 母親学園 ・ 野外活動指導員研修 (～1992) ・ 青年学園 (～1991) ・ 滝野スノーフェスティバル (1987～現在) ・ 病院看護婦研修 (～1992) ・ 交通遺児の会レクリエーション ・ 東本願寺厚生員研修 (～1991) ・ 小学校レクリエーション研修 (1987～1994) ・ 滝野デイキャンプ (～1991) ・ 道新ファミリーキャンプ (1987～1994) ・ 札幌地区教会学校 ・ よいこの広場 (～1994) ・ 子どもノミの市 (～1998) <p>【 青少年センター 参加者 2,171 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機関紙「若い芽」発行 (～1991) ・ おもしろタウンラリー (～1991) ・ 「北海道キャンプ場ガイド」発行 (～1993) ・ ステージング・クリニック ・ サンドアートコンテスト (～1992) ・ トーク&トーク (～現在) ・ 青少年指導者養成講座 (自作ダンボールソリ) (1980～現在) ・ ソリリング大会 (1989～1998) <p>【 婦人文化センター 参加者 7,855 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機関紙センターだより「せんのき」発行 (1982～1991) ・ 婦人一般、法律、特別相談 (～現在) ・ 女性学講座 (～1991) ・ 再就職のための準備講座 (～1991) ・ ワープロ講座 (1989～現在) ・ 初級英会話講座 (1989～1995) 	<p>6月・ペルーの大統領選で日系のフジモリ氏が当選。</p> <p>7月・兵庫県立高校で登校門限時間に門扉を閉じ始めたところ生徒が殺到、女子生徒が頭をはさまれて死亡。</p> <p>8月・ソ連サハリン州でやけどを負った3歳の男児コンスタンチン君が札幌医大病院で大手術。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮崎県の中学校で3年男子3人が小学校2年男子を「生意気だ、こらしめてやろう」とプロレスをまねて畳に落として死亡。 ・ イラク軍がクエート侵攻、国連がイラク制裁決議。 <p>9月・ソ連と韓国が国交を樹立。</p> <p>10月・東西ドイツ統一（ドイツ連邦共和国成立）。</p> <p>11月・群馬県で借金に困った父親が娘にかけた保険金目当てで娘を殺害。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎県の雲仙普賢岳が約200年ぶりに噴火活動。 <p>12月・日本人初の宇宙飛行士秋山豊寛氏が乗るソ連のソユーズ打ち上げ。</p> <p>1月・多国籍軍のイラク空爆開始、湾岸戦争突入。</p> <p>2月・ブッシュ米大統領が湾岸戦争の勝利宣言。</p> <hr/> <p>「スーパーファミコン」発売</p>
	 <p>パソコン講座</p>

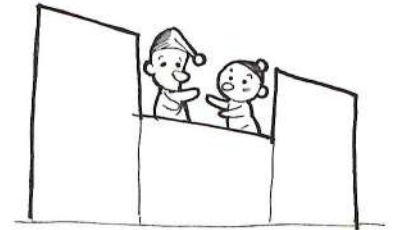
- ・ 婦人ボランティア・スクール (1981～1998)
- ・ 母と子のあそびの学校 (1982～1991)
- ・ ボランティア・ビューロー研修 (1981～1998)
- ・ レクリエーション研修会 (1982～1992)
- ・ 婦人ボランティア・スクール 修了生交流会 (～1992)
- ・ 婦人通信講座 (～1993)
- ・ 料理講座 (1981～1995)
- ・ スポーツ講座 (1982～現在)
- ・ ボランティア・ビューローだより 「ぬくもり」 発行 (1982～1998)
- ・ 北一条文化ゾーン フェスティバル (1981～1997)
- ・ ティータイムサロン (1984～1991)
- ・ 広報担当者研修 (1982～1992)
- ・ 婦人国体リーダー研修会 (1982～1992)
- ・ 婦人講演会
- ・ 利用者意見交換会 (1983～)
- ・ 開館記念行事 (1981～現在)



男の生活学講座

【 こども劇場 参加者 5,017 人 】

- ・ 機関紙「こどもの劇場通信」 発行 (～現在)
- ・ 手づくり紙芝居講習 (～1991)
- ・ 子供向け機関紙「ヤッホー」 発行
- ・ 紙芝居講習会
- ・ オープン記念フェスティバル (～1991)
- ・ 風雲やまびこ城 (～現在)
- ・ 読み聞かせの会 (～現在)
- ・ 人形劇芸術祭 (本審査公演, 受賞記念公演) (～1991)
- ・ あそびの会 (～現在)
- ・ 人形劇フェスティバル冬の祭典 (～現在)
- ・ 札幌子ども芸能祭 (～1991)
- ・ さっぽろ野外紙芝居まつり (～1991)
- ・ 初心者のための人形劇講座 (～1991)
- ・ 手づくり影絵講座 (～1991)
- ・ こども文化セミナー (～1991)
- ・ 人形劇の日 (～現在)
- ・ 劇あそび講座
- ・ 劇あそびクラブわくわく座 (～1991)
- ・ 手づくり絵本講習会 (～現在)
- ・ 腹話術入門講座 (～現在)



【 児童会館 参加者 38,013 人 】

- ・ 文化、科学事業 (農園作りほか)
- ・ 地域連携事業 (周年記念事業ほか)
- ・ 親子ふれあい事業 (おかあさんとあそぼうほか)
- ・ 区内合同行事 (ドッジボール大会ほか)
- ・ 協会合同行事 (キャンプほか)

1991年(平成3年)度

協会の歩み

施設

- 11月 ・ 宮の沢児童会館管理運営業務受託
- 2月 ・ 里塚、月寒児童会館管理運営業務受託

事業

- 【 自主事業 参加者 8,624 人 】
- ・ あそびのフェスティバル (～現在)

社会の動き

- 6月・南アフリカでアパルトヘイト(人種差別政策)廃止。
- ・ 雲仙普賢岳で大規模火砕流発生。
- 7月・広島県三原市の少年更生施設で男女2人がコンテナに監禁され死亡、園長を逮捕。
- 8月・小、中学生の登校拒否が過去最多の4万8千人に。

【 受託事業 参加者 13,425 人 】

- ・青少年活動推進員研修
- ・滝野ファミリーキャンプスクール
- ・星を見る会 (～1994)
- ・創造学園 (～1995)
- ・石狩管内体育指導員研修
- ・門別町家庭教育学級
- ・全道ジャンボリー大会
- ・ファミリーレクバス (～1993)
- ・父子体験学習 (～1997)
- ・ホワイトフェスティバル (～1996)
- ・全道勤労青少年クラブ
リーダー講習会
- ・山の家冬季野外研修
- ・石狩支庁老人クラブ大会

【 青少年センター 参加者 1,591 人 】

- ・青少年センター閉館事業

【 婦人文化センター 参加者 9,519 人 】

- ・コンサート

【 こども劇場 参加者 6,561 人 】

- ・幼児のためのやまびこ座実験劇場 (～1995)
- ・幼児のためのおはなしランド (～1996)
- ・パネルシアター講習会

【 児童会館 参加者 39,335 人 】

- ・詳細はP. 61～82参照

- 11月・大阪府豊中市の中学3年女子が集団暴行を受け1週間後に死亡、男女生徒4人を逮捕。
- 12月・ソ連崩壊。
- 2月・冬季五輪アルペールビル大会が開幕。
- 3月・北海道千歳市の道央自動車道でバスや乗用車など186台が追突2人死亡。



1992年(平成4年)度

協会の歩み

社会の動き

施設

- 11月・西岡高台、栄通、常盤、平和、エルムの森児童会館管理運営業務受託

事業

【 自主事業 参加者 11,232 人 】

- ・おもしろタウンラリー (青少年センター事業から移管)
- ・ソリリング大会 (～1996)
- ・国際遊びのフェスティバル
- ・やまびこ座プロデュース公演 (～現在)
- ・こぐま座札幌祭り特別公演

【 受託事業 参加者 25,764 人 】


- ・さっぽろふれあいフェスタ (～現在)
- ・昔の遊びボランティア養成講座
- ・シティセミナー
- ・門別町家庭教育学級
- ・門別町育成者研修
- ・北海道人形劇フェスティバル
研修会
- ・石狩町育成者研修
- ・黒松内町育成者研修
- ・北海道民生委員連盟研修
- ・鉄西地区子ども会育成者研修
- ・新琴似地区育成者研修
- ・豊平区私立幼稚園研修
- ・日赤ジュニアレッドクロス研修
- ・学童クラブ指導員研修



- 4月・ユーゴスラビアのボスニアヘルツェゴビナ共和国が非常事態宣言、内戦状態に。
- 7月・スペインのバルセロナで第25回オリンピック開幕。
- 8月・長野県の中学校でタバコの常習生徒をやめさせるため、校内に喫煙スペースを設けていることがわかり批判集中。
- ・韓国、中国が国交を樹立。
- 9月・学校5日制スタート。
- ・文部省は登校拒否の子どもの民間施設通いを学校出席扱いとする方針を決定。
- ・宇宙飛行士の毛利衛氏らが乗ったスペースシャトルエンデバー打ち上げ。
- 10月・米ルイジアナ州で留学生服部剛史君(16歳)がハロウィンで訪問先を間違え、家人に射殺される。
- 12月・茨城県水戸市で女子中学生5人がシンナーを吸いマンションから飛び降り3人即死。

<p>【 青少年センター 参加者 215 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関紙「from」発行（～現在） ・ビデオコンサート（～1993） <p>【 女性センター 参加者 6,763 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講座（～1997） ・外国人のための日本語講座（～1999） ・女性学セミナー（～現在） ・ナイスワークセミナー（～1996） ・パソコン講座（1989～現在） ・機関誌「S・W・ing（さっぼろウイング）」発行（～現在） <p>【 こども劇場 参加者 7,306 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっぼろ人形劇祭受賞記念公演（～現在） ・北海道人形劇フェスティバル ・夏休み特別公演 ・オープン記念夏まつり ・オープン記念特別招待公演 <p>【 児童会館 参加者 39,335 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 61～82参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国とベトナムが国交を樹立。 <p>1月・山形県新庄市の中学校で1年児玉有平君が巻かれた体育用マットの中で死んでいるのが見つかり、2年男子3人を逮捕、4人を補導。その後、山形家裁が「無罪」の決定。</p>
---	---

1993年（平成5年）度

協 会 の 歩 み	社 会 の 動 き
------------------	------------------

<p>施 設</p> <p>4月・中央、円山、アカシア、ポプラ、豊平、発寒勤労青少年ホーム管理運営業務受託</p> <p>11月・東苗穂、天神山児童会館管理運営業務受託</p> <p>2月・真駒内五輪児童会館管理運営業務受託</p> <p>事 業</p> <p>【 企画指導事業 参加者 17,010 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の遊びボランティア養成講座 ・南区ハミングのつどい（～1995） ・新一年生おかあさんのつどい昔遊びまつり ・女性ボランティア養成講座（～1994） ・ていねふれあいひろば（～1994） ・交通遺児の会クリスマスパーティ（～1998） ・オーストラリア天体観測指導（～1994） ・子どもの火遊びを防止するゲームの方法について ・星空のロマン ・キャンプ場指導員研修（～1994） ・婦人交通指導員研修 ・母親学習会 ・お母さんをつくる木の葉メール ・天体観望会（～1994） ・赤十字高校生トレーニング研修（～1994） <p>【 受託事業 参加者 67,448 人 】</p> <p>【 青少年センター 参加者 1,226 人 】</p> <p>【 女性センター 参加者 10,648 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・託児ボランティア研修会（～現在） ・女性文化講演会 ・男の生活学（～1997） ・婦人週間ビデオ上映会 	<p>4月・大阪市の中学3年男子が友人の家でプロレスごっこ中に、脳挫傷で死亡。友人2人を逮捕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察庁のまとめによると、92年の自殺者は2万2,104人で6年ぶりに増加した。不況と校内暴力が影響とみている。 <p>5月・日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）開幕。</p> <p>6月・皇太子さまと雅子さまご結婚。</p> <p>7月・北海道南西沖地震（M7.8）が発生。津波が奥尻島を直撃、死者不明230人余。</p> <p>2月・東京都昭島市の夫婦が長男を「悪魔」と名づけて認められるが、5月に「亜馱」に変更。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季五輪リレハンメル大会（ノルウェー）が開幕。
	 <p style="text-align: center;">女性文化講演会</p>

<p>【 こども劇場 参加者 9,137 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外人形劇フェスティバル ・忍者・黒マント団 ・招待公演 ・オープン記念行事 ・横浜・札幌交流公演 <p>【 児童会館 参加者 41,005 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 61～82参照 	
1994年（平成6年）度	
協 会 の 歩 み	社 会 の 動 き
<p>施 設</p> <p>11月 ・もみじ台ふれあい児童会館管理運営業務受託 2月 ・円山西町、上篠路児童会館管理運営業務受託</p> <p>事 業</p> <p>【 企画指導事業 参加者 14,267 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あそびのゼミナール（～1995） ・アウトレジャー振興セミナー ・指導員研修 「キャンプの楽しみ方」 ・地域子ども会育成者研修会 ・道央ブロックジュニア・リーダースクール <p>【 受託事業 参加者 69,446 人 】</p> <p>【 青少年センター 参加者 816 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年センターでクリスマス（ライブほか）（～現在） <p>【 女性センター 参加者 8,817 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・託児ボランティア研修会（～現在） <p>【 こども劇場 参加者 9,978 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぐま座人形劇講座 ・初心者のための影絵講座 ・やまびこ座人形劇教室 ・やまびこ座夏まつり（～現在） ・文楽講習会、発表会（～1996） ・春の人形劇鑑賞会 <p>【 児童会館 参加者 65,204 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 61～82参照 <p>【 勤労青少年ホーム 参加者 39,335 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養、文化事業 （講座、サークル、同好会） ・ホーム交流事業 （スポーツ大会、ホーム祭） ・スポーツ事業（講座、サークル） ・社会参加事業 （独居老人宅除雪ほか） 	<p>4月・名古屋空港で中華航空機が着陸に失敗し264人死亡。機長、副操縦士の遺体からアルコール反応検出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第80代首相の羽田内閣発足。 <p>6月・長野県松本市の住宅街で有毒ガス発生。7人が死亡、58人が重軽傷。原因物質は猛毒神経ガス「サリン」を検出したと捜査本部が発表（松本サリン事件）。</p> <p>7月・日本人初の女性宇宙飛行士向井千秋氏が乗ったスペースシャトルコロンビア打ち上げ。</p> <p>9月・関西空港が開港。</p> <p>10月・北海道東方沖大地震（M7.9）発生。釧路市で震度6。300人以上がけが。</p> <p>11月・年金改正法成立、支給年齢を段階的に65歳まで。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県西尾市の中学2年大河内清輝君がいじめを苦に自殺。いじめが再び問題化。 <p>1月・阪神、淡路大震災（M7.2）、死者6,425人。戦後最悪の自然災害に。</p> <p>3月・東京都心部の地下鉄でサリンがまかれ10人が死亡、5,000人以上が重軽傷。オウム真理教関連施設を捜査。</p>
	

1995年（平成7年）度	
協会の歩み	社会の動き
<div data-bbox="220 271 328 315" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施設</div> <p>11月 ・美しが丘、八軒北、新発寒児童会館管理運営業務受託</p> <div data-bbox="220 421 328 465" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事業</div> <p>【 企画指導事業 参加者 21,362 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年赤十字札幌地区研修 ・全国生涯学習フェスティバル平成遠友夜学校 <p>【 受託事業 参加者 103,489 人 】</p> <p>【 青少年センター 参加者 1,425 人 】</p> <p>【 女性センター 参加者 9,428 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の生活学（～1997） ・家庭の経済学 ・ボランティア日本語講座（～1997） <p>【 こども劇場 参加者 11,166 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形劇学校（～現在） ・ノボシビルスク州立人形劇場 ・こぐま座影絵講座（～1996） <p>【 児童会館 参加者 67,486 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 61～82参照 <p>【 勤労青少年ホーム 参加者 35,812 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 43～48参照 <div data-bbox="411 1272 831 1525" style="text-align: center;"> </div>	<p>4月・オウム真理教、麻原彰晃（本名は松本智津夫）代表を殺人容疑で逮捕。</p> <p>7月・福岡県飯塚市の付属女子高でクラスの副担任が、指示に従わなかった生徒を殴り逮捕、女子生徒死亡。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都八王子市のスーパー事務所で、女子高生ら3人が縛られたうえ、頭を短銃で撃ち抜かれて死亡。 <p>9月・千葉県松戸市で成績を母親に注意され腹を立てた高校2年男子が母親を刺殺し逮捕。</p> <p>10月・東京都世田谷区で託児所の押入れからポリ袋に入れられた乳児の遺体8体発見、以前アルバイトをしていた主婦を逮捕。自宅からも乳児の遺体2体を発見。</p> <p>11月・神戸市の六甲山中で横浜市内の中学1年女子が遺体で発見、九州の男性逮捕。</p> <p>1月・日本人初の搭乗運用技術者・若田光一氏らが乗ったスペースシャトルエンデバー打ち上げ。</p> <p>2月・北海道余市町と古平市を結ぶ豊浜トンネルで岩盤が崩れ、バスの乗客ら20人が下敷きとなって死亡。</p> <p>「ミニ四駆」人気 「プリントクラブ」人気</p>
1996年（平成8年）度	
協会の歩み	社会の動き
<div data-bbox="220 1637 328 1682" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施設</div> <p>11月 ・丘珠ひばり、山鼻かしわ児童会館管理運営業務受託</p> <div data-bbox="220 1787 328 1832" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事業</div> <p>【 企画指導事業 参加者 25,933 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れ星を見よう ・ハローズファミリーキャンプ ・富良野市子ども会リーダー養成大会 ・講習会 ・ヘール・ポップ彗星の正体にせまる ・田植エツアー 	<p>7月・大阪府堺市の小学校を皮切りに病原性大腸菌（O-157）の集団食中毒が全国に広がり患者が6,031人に、死者7人。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英国チャールズ皇太子とダイアナ妃、離婚正式発表。 <p>9月・新潟県の中学3年、高橋素晴君がヨットで55日太平洋単独横断。世界最年少記録。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・はーとふるキャンプ96インばんけい ・子ども手作り紙飛行機大会 ・資料「子どもと冬遊び」発行 <p>【 受託事業 参加者 89,540 人 】</p> <p>【 青少年センター 参加者 1,790 人 】</p> <p>【 女性センター 参加者 10,086 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業年報発行（～現在） ・仕事と育児両立支援セミナー ・子育ては自分育てセミナー（～1997） ・暮らしの経済学（～現在） ・おんなの心とからだセミナー ・映像で学ぶ女性学（～現在） <p>【 こども劇場 参加者 15,300 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形浄瑠璃講習会、発表会 ・20周年記念フェスティバル（～現在） <p>【 児童会館 参加者 90,055 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 61～82参照 <p>【 勤労青少年ホーム 参加者 31,448 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 43～48参照 	<p>12月・ペルー日本大使公邸を左翼ゲリラが襲撃、人質を楯に占拠。3人死亡、ゲリラは全員射殺。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・95年度のいじめ、最多の6万件。 <p>1月・沖縄県名護市で中学3年不明少女遺体で発見。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市の中学院で男子生徒3人が、女子教師の胸を触ったなどとしてセクハラで逮捕。 ・神戸市須磨区の小学生女子2人が頭を殴られたり、腹部を刺され小学4年女子1人が死亡。
---	---



1997年（平成9年）度	
協 会 の 歩 み	社 会 の 動 き
<p>施 設</p> <p>8月・菊水小学校ミニ、南小学校ミニ児童会館管理運営業務受託</p> <p>11月・金山児童会館管理運営業務受託</p> <p>事 業</p> <p>【 企画指導事業 参加者 62,418 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプリングフェスティバル（～現在） ・国際ジュニアアートキャンプ（～現在） ・YMCAボランティアスクール ・さぼーとさっぽろファミリーレクパス ・ファミリーフェスティバル ・豊平区新1年生お母さんのつどいキャンプ ・交通資料館まつり（～現在） ・少年リーダー養成研修指導者研修会 ・環境認識体験学習 ・国連軍縮札幌会議さよならパーティ <p>【 受託事業 参加者 59,996 人 】</p> <p>【 青少年センター 参加者 2,616 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンドクリニック ・地域ふれあい事業 ・ライブコンサート 「Hot Music Festival」（～1998） <p>【 女性センター 参加者 9,453 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再就職準備セミナー（～現在） 	<p>4月・消費税の税率を3%から5%に。</p> <p>5月・神戸市須磨区で小学6年の土師淳君の切断された頭部が見つかる。「酒鬼薔薇聖斗」などと書かれた紙片が添えられていた。後日、中学3年男子を逮捕。</p> <p>8月・ダイアナ元英国皇太子妃がパリで自動車事故死。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県春日市の小学2年女子が登校途中に行方不明になった事件で24歳の無職男性を逮捕。隣町の山中で遺体発見。 ・不登校児童急増、9万4千人に。 <p>11月・スペースシャトルコロムビアで宇宙飛行士土井隆雄氏が日本人初の宇宙遊泳。</p> <p>1月・大阪府堺市で19歳無職少年が登園中の園児ら3人を包丁で刺し、園児1人が死亡。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・女性センターフェスティバル (～現在) ・ベアテ・シロタ・ゴードンさん 講演会 <p>【 こども劇場 参加者 11,778 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みオープン記念公演 (～現在) ・こぐま座紙芝居教室 (～現在) ・演劇学校 (～現在) <p>【 児童会館 参加者 100,622 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 61～82参照 <p>【 勤労青少年ホーム 参加者 29,232 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 43～48参照 	<p>1月・栃木県の中学1年男子が休み時間に英語教師をナイフで刺殺。中学生が校内で教師を殺害したのは初めて。</p> <p>2月・冬季五輪大会が長野市で開催。</p> <p>3月・埼玉県の中学1年男子が別のクラスの1年男子と口論中にナイフで左胸や腹などを刺されて死亡。</p> <p>「たまごっち」流行</p> <p>TV「ポケットモンスター」放映開始</p>
--	--

1998年(平成10年)度

協 会 の 歩 み	社 会 の 動 き
<p>施 設</p> <p>4月 ・定山溪自然の村管理運営業務受託</p> <p>9月 ・富丘小学校ミニ、西野第二小学校ミニ、 札苗小学校ミニ児童会館管理運営業務受託</p> <p>11月 ・あいの里ひがし児童会館管理運営業務受託</p> <p>事 業</p> <p>【 プログラム開発事業 参加者 111,832 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝野アウトドアフェスティバル ・滝野グリーンフェスティバル (～現在) ・父と子のサバイバルキャンプ (～現在) ・清田区ふれあいまつり ・幼児の家庭教育講座レク指導 ・湧別町子ども文化祭 (～現在) ・国際プラザ合同セミナーキャンプ ・南区新1年生お母さんのつどい キャンプ <p>【 人材育成事業 参加者 79,773 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアキャンプ (～現在) ・子育てリーダー研修 (～現在) <p>【 青少年センター 参加者 2,294 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター夏まつり ・お正月あそび <p>【 女性センター 参加者 9,125 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性のためのこころとからだ相談 (～現在) ・事業報告書の発行 ・外国人のための日本語講座 (～現在) ・男女共同参画セミナー (～現在) ・女性活動支援事業 (～現在) ・保育サポーター養成講座 (共催) (～現在) <p>【 こども劇場 参加者 11,214 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本ゼミナール ・戦中戦後の紙芝居展 ・手づくり絵本展 <p>【 児童会館 参加者 106,038 人 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細はP. 61～82参照 	<p>6月・サッカーワールドカップフランス大会開幕。</p> <p>7月・和歌山県で自治会が開いた夏祭り、カレーライスを食べた4人が死亡、63人が中毒症状に。死亡者の胃から猛毒のヒ素を検出。元保険外交員林真須美と夫を殺人容疑で逮捕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第84代首相の小淵恵三内閣発足。 <p>10月・アメリカで、宇宙飛行2回目の向井千秋氏や史上最高年齢の米上院議員(77歳)らに乗せたスペースシャトルディスカバリーを打ち上げ。</p> <p>2月・臓器移植法施行後初の脳死移植。</p>



【 勤労青少年ホーム 参加者 36,319 人 】
 ・詳細はP. 43～48参照

1999年（平成11年）度

協会の歩み

施設

- 6月 ・札幌市児童会館（64館）全館管理運営業務受託
- 9月 ・新琴似南小学校ミニ、北白石小学校ミニ、もみじ台小学校ミニ児童会館管理運営業務受託
- 2月 ・平岡みどり児童会館管理運営業務受託

事業

- 【 プログラム開発事業 参加者 41,180 人 】
- ・遊びのキャラバン（迷路）
 - ・よつ葉わんぱくカントリー
 - ・ファミリードライビングキャンプ
 - ・遊然塾トライキャンプ

- 【 人材育成事業 参加者 106,741 人 】
- ・札幌市立幼稚園研究協議会実技研修会
 - ・私立幼稚園教育研究大会
 - ・学童保育指導員研修会

- 【 青少年センター 参加者 2,181 人 】
- ・遊育塾「親子体操あそび」
 - ・万華鏡工作会

- 【 女性センター 参加者 9,782 人 】
- ・2000年旅行英会話
 - ・異文化フォーラム
 - ・編集ボランティア養成講座
 - ・女性起業家セミナー（共催）

- 【 こども劇場 参加者 9,308 人 】
- ・演劇キッズ養成講座
 - ・北海道の紙芝居
 - ・子ども人形劇団 梁川剛一展
 - ・人形浄瑠璃ユースクラス

- 【 児童会館 参加者 241,336 人 】
- ・詳細はP. 61～82参照

- 【 勤労青少年ホーム 参加者 34,711 人 】
- ・詳細はP. 43～48参照

- 【 定山溪自然の村 参加者 6,850 人 】
- ・体験工作活動
 - ・林業体験会
 - ・星空観察会
 - ・雪と遊ぼうファミリーキャンプ
 - ・雪の中の映画会
 - ・夏の星空観測会
 - ・薪割り飯ごう炊さん体験
 - ・開拓村記念工作会「竹とんぼ作り」
 - ・湯の町探索サイクリング
 - ・草木染め&温泉ツアー
 - ・歩くスキー・かんじきスノーシュー体験
 - ・自然観察&温泉ツアー
 - ・キャンプファイヤー
 - ・祝祭日お楽しみ会

社会の動き

- 5月 ・総務庁の調査によると子どもの人口は総人口の15%を割り過去最低に。
- ・札幌市のホテルで修学旅行に来ていた神戸市の女子高校生が室内で放火。
- 6月 ・98年の厚生省の調査によると自殺者3万人を超え過去最多に。
- 出生率1.38人で過去最低に。
- 離婚は件数・率ともに過去最高。
- 8月 ・不登校の小中学生過去最多の12万8,000人に。
- ・トルコでM7.4の大地震発生、死者1万7,000人超に。
- 10月 ・世界人口が60億突破。
- 11月 ・台湾でM7.7の大地震発生、死者2,000人超に。
- ・東京で行方不明になっていた若山春奈ちゃん（2歳）が静岡県で遺体で発見。近所の主婦（36歳）を逮捕。
- 3月 ・北海道有珠山が23年ぶりに噴火。



組織及び事務分掌

理事会

(法人の業務を議決し執行する)

- 理事長 (寄附行為の範囲内で、財団の業務を総理し、法人を代表する。)
- 副理事長 (理事長を補佐して、法人の業務を掌理する。)
- 専務理事 (理事長の定めるところにより、理事長及び副理事長を補佐する。)
- 常務理事 (理事長の定めるところにより、理事長及び副理事長を補佐する。)

監事

(理事の業務執行が恣意的にならないよう監督の任に当たる。)

評議員会

(理事会の諮問に応じて、自発的にその事項につき意思決定し意見を述べる。)

事務局

(財団の事務を処理する)

		課の名称	課内の組織()は複数設置数	事務分掌	
事務局長 (常務理事 事務取扱)	総務部長	総務課	課長— 庶務・人事主査 — 財務・経理主査 — 調整主査 — 指導主幹	(1) 理事会・評議員会に関する事 (2) 寄附行為、諸規程の制定・改廃に関する事 (3) 職員の人事計画に関する事 (4) 職員の給与の支給に関する事 (5) 札幌市との連絡調整に関する事 (6) 協会の施設受託契約・渉外及び庶務に関する事 (7) 協会の予算・決算及び資金運用その他会計経理に関する事 (8) 有価証券の出納及び保管、小切手の振出し、預金の組み替えに関する事 (9) 他部・課の主管に属さないこと (10) 他部・課との連絡・調整に関する事 (11) 部内及び課内の庶務・経理に関する事 (1) 職員組合に関する事 (2) 業務災害及び通勤災害に関する事 (3) 職員の福利厚生・被服貸与に関する事 (4) 理事長の特命に関する事 (1) 各部の事業計画の調整・指導に関する事 (2) 活動協会の経営改善に関する調査研究 (3) 職員の研修に関する事 (4) 内部・外部監査に関する事 (5) 理事長の特命に関する事	
		企画事業課	課長— 庶務・経理主査 — 青少年センター主査 — 勤労青少年ホーム主査③ — 事業主査	(1) 青少年センターの管理運営に関する事 (2) 勤労青少年ホームの管理運営に関する事 (3) 事業に係る企画・調整・実施に関する事 (4) 滝野自然学園の管理運営事業に関する事 (5) 札幌市関係部局との連絡調整に関する事 (6) 課内の庶務・経理に関する事 (7) 部内の庶務・経理に関する事	
		事業部長	野外施設課	課長— 管理主査 — 事業主査 (定山溪自然の村施設長)	(1) 定山溪自然の村の管理運営に関する事 (2) 野外環境を生かした野外活動の調査研究に関する事 (3) 課内の庶務・経理に関する事
		児童部長	児童育成課	課長— 運営主査 — 管理主査(2) — 児童会館主査⑤ — 調整主幹 — 児童会館主幹③	(1) 児童会館の管理運営に関する事 (2) 札幌市関係部局との連絡調整に関する事 (3) 課内の庶務・経理に関する事 (4) 部内の庶務・経理に関する事
			こども劇場	館長— 庶務・事業主査	(1) こどもの劇場(やまびこ座)の管理運営に関する事 (2) こども人形劇場(こぐま座)の管理運営に関する事 (3) 課内の庶務・経理に関する事
	女性センター 館長	女性センター	副館長— 庶務・事業主査	(1) 女性センターの管理運営に関する事 (2) 札幌市関係部局との連絡調整に関する事 (3) 女性センター内の庶務・経理に関する事	

協会の事業と施設 1



(青年活動事業)

青少年指導者養成講座

活動協会設立当時から継続され、いよいよ21期目を迎える青少年指導者養成講座は25歳までの青年を対象に、講義、宿泊研修、グループ演習、実習などをおとしてグループ・ワーカを養成する講座として毎年実施されている。

講座の主となる講義は、毎週木曜日午後7時から2時間程度で行われ、毎週多彩な講師を招き、その講義を基にグループ討議なども行っている。学校や会社を終えてから毎週集まることは受講生にとってなかなかの試練の様だが、講義のみならず仲間と顔を合わせて語り合い、様々な情報交換をする事ができるのもこの講座の魅力といえる。

また1年目を修了した後もさらなる自己研鑽のために2年目に進み、より実践的なプログラムをこなしながら自らを高める努力をしている者もいる。



(講座趣旨)

人と人が助け合い、協力し合うことが幸福につながることを私たちに教えてくれていた社会は、今や近代化され合理化される中でその働きを失おうとしている。このような社会では、自分を含めた「人」というものをもう一度見直すことによって、豊かな人間性や社会性を育てていくことが極めて重要な課題といえる。この講座は、その課題に取り組む手法としてグループワークを取り上げ、専門的知識を持ち、実践的活動のできるグループ・ワーカを養成をしようとするものである。

(受講資格)

- ・25歳未満(高卒または同等の学力を有する方)
 - ・ボランティア活動に意欲がある方
 - ・年間3回の宿泊研修(1泊)に参加できる方
 - ・夏期・冬期の実習(2～3泊)に参加できる方
- 以上の条件を満たす方

(主な講座内容)〈平成11年度〉

- (1) 講 義……………グループワーク概論、レクリエーション・野外活動の理論と実技を含む講義と実習
- (2) 宿泊研修……………野外活動技術、レクリエーション ほか
- (3) グループ演習……課題グループ活動、室内レクリエーション
- (4) 実 習……………グループリーダーの役割と実践(夏期キャンプの参加ほか)

こぼれ話^{アッ!}

札幌市青少年指導者養成講座(グループワーカー養成講座)は、通称GW!これをなんと読むかという「ゴールデンウィーク」ではない。もちろん「ゴールドウィン」でもない。まして「ゲットアウェイ」では決してない。正解は「ガウ」なのである。

「GW」の見たまを素直に日本語読みしたこの言葉を最初に発音したのは退職した某職員である。

講座の開設当初に創造されたこの言葉は、今も脈々と受け継がれている。そして、この言葉を聞いて思い描くイメージが、1期生と20期生とで違ったものにはなっていないことを確信している。それは、担当してきた職員は違っても悩みながら伝えようとしたものは、同じものだと信じているからである。

将来現れるであろう40期生が「ガウ」という言葉を使い、1期生と同じイメージを思い描いていることを祈っているのは私だけであろうか。(かけっこ小僧Sさん)

さっぽろふれあいフェスタ

別名「ストリート・パフォーマンス・カーニバル」と呼ばれているこの事業は、平成4年に札幌市からの委託を受けて始まった。その大きな目的は…

- ①ふれあい都市さっぽろの実現を目指し、子ども・青年・高齢者の全ての世代にわたってふれあいのある、温かい地域社会をつくる。
- ②青年世代が中心となって企画し、ほかの世代を巻き込んだ祭りを作る。
- ③市民が積極的に参加できる祭りを作る。

平成10年度からは、札幌市教育委員会の主催となり、生涯学習についてのPR(施設の紹介やサークル活動の紹介)や、生涯学習を実践されている方々の発表の場として、位置づけられるようになった。

現在のスタイルは、副題にもなっているとおりストリート・パフォーマンスを中心に、青空寄席や野外映画、テント芝居やスタンプラリーなどの企画を組み合わせ、札幌市のシンボルである大通公園を舞台に行われている。毎年9月、第2週目の土日に開催され、秋晴れの空の下、たくさんのパフォーマー・観客でにぎわいを見せている。



準備・運営は、一般募集による、青年世代を中心とした市民のボランティアスタッフで運営委員会を組織し、半年以上の長い時間をかけて準備を進めているが、ボランティアスタッフはほとんどが社会人や学生であるため、毎週水曜日の夜、19:00~21:00の間、青少年センターでスタッフ会議を開き、各部門に分かれて話し合いや作業を行っている。パフォーマーとして参加している皆さんは、ほとんどが市内でサークル活動をしているアマチュアの方々の、毎年6月頃から札幌市の広報紙などで募集している。出演者は、『南京玉すだれ』『三味線』『和太鼓』『落語』『マジック』『パントマイム』『創作ダンス』『弾き語り』『フラメンコ』『切り絵』『似顔絵』『詩吟』『演劇』『舞踏』『人形劇』などなど。たくさんの種類の団体・個人が参加し、例年、数にして60~90団体、参加人数は600~800人にもものぼる。年齢的にも児童会館で活動している小学生のダンスサークルから、昔遊びを伝えてくれるシニアボランティアサークルまで、特に年配の人の参加が多いのは予想外に思われる方もいるようだが、年齢に関係なく、多くの人が同じ時間、同じ空間、同じ思いの中でそれぞれの技を披露している。何年も続けて参加してくれる方も多く、このイベントに参加するのを楽しみにしている、との声も聞こえるようになった。市内に限らず道内、道外からの参加者も増えてきており、東京や九州からはるばる参加するパフォーマーも多い。



来場者数も2日間で70,000人~100,000人程のイベントとなり、年々知名度も増じてきている。

平成10年度からは、似たような内容をもつイベント、北海道新聞社主催の「Sapporo Art Paradise(さっぱり)」と同時開催するようになり、全国で活躍中の技術的にもすぐれたパフォーマーや海外からのゲスト、会場内に設置する大小さまざまな造形物も出現し、内容全体の幅も広がり、より楽しい催しとなっている。

星 空 同 好 会

1988年度より始めた『星空同好会』は、星・天文に興味を持ちながら、身近に語り合い行動を共にする人のいない方を対象に、同好者が集う機会を提供するだけでなく、サークルとして育てていくことを目的としている。

形態としては、初年度(6~7ヶ月)の星空同好会Ⅰ(以下、星空Ⅰ)とその修了者の中での希望者が任意に参加する継続年度の星空同好会Ⅱ(以下、星空

Ⅱ)からなる。従って星空Ⅱにはそれぞれの期の星空Ⅰ修了者が、それぞれプールされていくことになる。星空Ⅰは教養としての意味合いが強いが、10~15回の例会ではそれに終始するのではなく互いの会話を促している。ただ、長期間に及ぶ例会ということもあり、一方的な「授業」だけを目的に応募した人は、次第に足が遠のいてしまうようだ。

星空同好会の特質は、星空Ⅱに強く現れている。星空Ⅱは前記したように各期の元星空Ⅰのメンバーを内包しているが、同時に自主性・主体性を育み、5~6年経った時点で正真正銘のサークルとして独立してもらおうよう働きかけている。実際、93年には初めての独立サークルとして『星空同好会ポラリス』が誕生した。このサークルは当時20歳代のメンバーが多かったこともあって非常に活動的で、天体観望・観測だけでなく、雪像作りや「流れ星を見よう」ではボランティア活動をするなど道内有数のサークルになっている。

現在の星空Ⅱはポラリスとは特に世代構成が異なっている。これはとりもなおさず近年の星空Ⅰでの応募状況が反映されたもので、中高年の割合がかつてより高くなっている。天文に対する興味・関心は年齢に関係なく、そのため生涯学習・世代間交流を図らずも実現していると言える。2000年4月、この星空Ⅱも独立し『星空散歩』となるが、その後の活動は先輩のポラリスとは当然異なるものになっていくだろう。

以上のようにほかの事業には見られない特徴を持つ星空同好会であるが、このような事業が実施できたのも、職員の発案を施設・設備の利用と併せてバックアップするという当協会なればこそという印象を持つ。

こぼれ話 アッ!

星空同好会の応募者は幸い定員を上回っているが、応募動機は結構漠然としている人が多い。天候に恵まれて星を見ることができたとしても、それで定着するとは限らない。それは、「趣味」として天文への接し方が多種多様であることの証左でもあろう。せっかく集まったんだから、最後まで一緒にやろうと思うのは担当者側の気持ちではあるが、参加する側としては「接し方」の押し売りに感じてしまうと足が遠のいてしまうのかもしれない。もちろん押し売りするつもりはないものの、参加者全てに受け入れられる接し方がないのも事実で、毎回試行錯誤の連続である。

(もとヒゲさん)

『札幌市青少年センター』



- 【住 所】札幌市中央区南9条西14丁目1-30
- 【電 話】532-0200
- 【開設年月日】昭和57年2月21日
- 【敷地面積】1,755㎡
- 【延床面積】3,241㎡
- 【建築構造】鉄筋コンクリート3階建
- 【交通機関】市電西線9条より徒歩1分

【地域状況】

現在の札幌市青少年センターは、移転して8年を迎える。札幌都心から市電を利用12分、西側には藻岩山を望み四季折々の色を楽しめる位置にある。近隣は大型マンションが建ち並び、また、若干の商社にも囲まれ当センター事業にご理解とご協力を得ている。

センター前は、交通量の多い菊水・旭山公園通（南9条通）が通り、全体的に活気のある状況である。

【事業】

青少年の社会参加が叫ばれている現在、青少年センターの存在をPRすることは、もちろん様々な形で社会参加を促進する事業、人と人とのふれあいの場となる事業に取り組んでいる。

① 地域交流事業

センター周辺の地域住民とレッツ、センター利用者、ボランティアの方々などの協力を得て実施。青少年センター夏まつり／クリスマスコンサート／お正月あそび“あそぶ子どもに福来る”／パッチ大会／空とぶおもちゃフェスティバル／工作会など

② 社会参加推進事業

事業目的の1つは、青少年の啓発の場とすると共に、社会参加の一助になること。2つめは、親子のふれあいと将来的なサークル活動の支援。トーク&トーク年2回／遊育塾1999年に4回

③ 青少年活動についての情報収集と提供

センターからの情報紙として、話題性のある内容や青年が興味をもてる内容などをキャッチし、文字にして提供。さらに、センターロビー「オアシス」にて北海道市町村にある社会教育施設の紹介パネルを展示。「スタジオ&ホールリスト」2,000部配布／機関紙「フロム」5,000部発行各公共施設へ配付／市町村の社会教育施設を北海道地図上にしるし、各市町村の位置付けとパンフレットを展示。

④ オアシス開放事業

サークル活動の発表の場としてオアシスを提供。12月には、大人のためのクリスマスカード展示会。音楽バンドのライブポスターの掲示などで活用。



【講座】

札幌市青少年指導者養成講座（GW）

この講座は、その課題に取り組む手法としてグループワークを取り上げ、専門知識を持ち実践的に活動のできるグループ・ワーカーを育成する。受講資格は、25歳未満でボランティア活動に意欲的な青年、週1回で年40回程の講座に参加可能者である。今年度修了生は、記念すべき20期生になり、20年間に渡って活動を続けたこと、また、続けられたことを誇りとし、21世紀に向け、変わることなく活動することが当協会の使命である。



【利用者状況】

数	年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
利用者数		61,048	53,254	30,931	42,743	38,908
数	年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
利用者数		38,028	42,115	46,748	51,239	57,596

※H3年度は12月で閉館

※H4年4月1日に現青少年センターオープン

新青少年センターは *****
 〔住所〕札幌市西区宮の沢1条1丁目札幌市生涯学習総合センター内に平成12年8月に移転、オープンする

「札幌市中央勤労青少年ホーム」 ～レッツ中央～



- 【住 所】札幌市中央区南4条東4丁目1
- 【電 話】241-8439
- 【開設年月日】昭和39年6月11日
- 【敷地面積】1,468.85㎡
- 【延床面積】1,087.654㎡
- 【建築構造】鉄筋コンクリート3階建
- 【交通機関】地下鉄東西線バスセンター前駅より
徒歩8分

【地域状況】

札幌中心部より最も近いことから、仕事帰りの青年が利用しやすい施設である。創成川の東側に位置し、繁華街の喧騒とはうってかわり、昔ながらのたたずまいとマンションが乱立する中に存在する。近くを流れる豊平川河川敷では、時期になるとよさこいソーランチームやマラソン研究会のかっこうの練習の場となっている。

【青年の様子】

レッツ中央は、集いの場として今も昔もこの施設をこよなく愛する青年によって支えられている。その特徴としては、祭り好きという一言に要約される。館内行事として行われる花火&焼肉パーティーでは、1畳ほどもある大型鉄板で焼き上げるが、豪快な焼きそば作りが一部の職員の趣味から、ラーメン職人を巻き込み、さらに新たな青年へという具合に受け継がれている。その伝統は、各所で評価され、青少年センター祭、ふれあいフェスタ、音楽サークルHave A Good Time!大通ライブでの出張屋台サービスが好評を博している。

レッツ中央のサークルが所属している連絡協議会では、クリスマスパーティー、餅つき大会、連絡協議会総会などの行事を催し、サークルの枠を越えた交流を図っている。時には、オールナイトで活動する企画もあり、青年と職員が夜明けまで語り明かすこともあるほど。

また、毎週金曜日に開催しているハートナビゲーションをきっかけに自分の生き方を見つめ直す青年も現れて現代青年の意外な一面をうかがうことができる。

【講 座】

●平成遠友夜学校研究会シリーズ

かつての遠友夜学校を現代版に蘇らせようとした企

画。当初、40名程度の大人数であったが、ニーズの多様化と青年一人ひとりの「やりたい!」という声を現実化することを目的に、現在は少人数、月1回程度で様々な研究会が存在する。内容はビリヤード、聞き方話し方、マラソンARASI、豆腐作り、キャンプ、お菓子作りなど。

●ボランティア活動体験講座

「これもボランティア!？」

自分たちにできることって一体何なのか?肩肘張らずに、「自分以外の人のために動いたこと」を話し合うディスカッション、グループごとの街角ウォッチングをとおして、新しいボランティアのあり方を模索する講座。



【サークル活動】

文化系、スポーツ系合わせて13サークルが活動している。

●Have A Good Time!

将来は、野外ライブをやりたいという夢を持ってスタートした音楽サークル。バンド・Soul Artを中心に2年目に大通公園ライブを実現。レッツ中央ロビーでのマンスリーライブをはじめ、多方面で活躍している。平成11年9月からは、プラスバンド経験者からなるアーティストック・ソウル・オーケストラが仲間入りした。

●ボランティア「I」

レッツのボランティア講座をきっかけに平成10年春に結成。老人保健施設訪問をスタートに、現在は「星を見に行く会」などレッツ近郊に住む子どもを対象とした活動を行っている。

このほかにも、青年のアイデアあふれる活動が発見に行われている。

【利用状況】

年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
利用者数	24,233	21,385	18,810	19,699	20,476
登録者数	666	769	591	918	945
年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
利用者数	22,729	23,603	24,566	28,516	24,296
登録者数	1,208	1,158	1,097	1,289	1,199

●遠友夜学校記念室

遠友夜学校の精神と、人類愛に満ちた新渡戸稲造の理想を受け継ぐこの記念室は、平成6年夜学校開設100年を機に新しく生まれかわった。ボランティア活動の先駆けとも言える働きをこの目で確かめたいと今も来訪者が絶えない。

「札幌市円山勤労青少年ホーム」 ～レッツ円山～



- 【住 所】札幌市中央区北8条西24丁目1-25
- 【電 話】631-7647
- 【開設年月日】昭和44年1月15日
- 【敷地面積】1,256㎡
- 【延床面積】702㎡
- 【建築構造】鉄筋コンクリート2階建
- 【交通機関】地下鉄東西線二十四軒駅より徒歩8分

【地域状況】

レッツ円山は中央区に位置するが、西区に隣接し緑豊かな地域の中にあり、正面には車の往來の激しい環状線とそれに続く中央卸売市場など活気あふれる地区と、閑静な住宅街とがバランス良く整備されている。

また、円山公園、動物園、球場も徒歩圏内にあり、「豊かな自然」と「人と街のふれあいの場」という、恵まれた環境の中にある。

【青年の様子】

青年たちはサークル協議会を組織し、自分たちでサークルを運営している。地域参画活動、ボランティア活動にも興味を示し、行事の企画・運営と自分たちの力で新しいことにチャレンジする楽しさも体験している。

レッツ円山の特徴は「アットホーム」。青年たちの長所が円山の協議会に反映され、青年たち同士、サークルの枠にとらわれることなくひとつの「仲間」として行事、サークル活動などに励んでいる。

また、反面どんな時にも「遊び心」を忘れないがモットーで楽しいことが大好き。新規の利用者への対応もサークル協議会の中で話し合わせ、初めて来た青年が仲間に入りやすい環境作りなど細かな点にも配慮している。

【講座】

「誰でも気軽に」を合い言葉に、各種講座が展開されている。

最近行われた講座

- 「ピストロレッツ」～一日料理講座。サークル員も一般の青年も一緒に料理をつくってワインで乾杯！～
- 「洋裁講座」
～自分だけのフリース地のパーカーをつくろう！～
- 「ウエイトトレーニング講座」
～クリスマスまでに引き締まったボディをつくる～

●「ゴスペル講座」

～みんなでつくり出すハーモニーを体験しよう～
など、気軽に参加できる盛りだくさんな内容となっている。また、体験アウトドア、花見などの季節を楽しむ多彩な行事も行っている。



【サークル活動】

レッツ円山の登録サークルは現在10サークル。月曜日から土曜日まで元気に活動中。体育室がないためスポーツ系は講堂での格闘技系が多い。円山の特徴としてはサークルの枠を越えた活動が盛んであり、一日に色々なサークル活動が行われている。

サークル間交流も日常的に行われ、いつもにぎやかな状況である。サークル間交流でのエピソードはたくさんあるが、特に料理サークルの時にサークル員の2倍以上のメンバーが食べている姿は圧巻。作ったサークル員の食べる物がなくなり、最後には笑い話になることが日常茶飯事。しかし、そこはアットホームな雰囲気です。いつも笑い声の絶えることのない明るい雰囲気に包まれている。



【利用状況】

年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
利用者数	15,806	15,556	15,295	16,153	14,756
登録者数	452	426	426	343	384
年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
利用者数	11,971	12,729	11,844	10,842	10,072
登録者数	391	444	433	451	322

【時間外開放】

レッツ円山は住宅街に位置するためか、地域の様々な方に利用され親しまれている。

特に茶道、リズム体操などのサークル（団体）が10年来の利用でこのほかに詩吟、卓球、ヨガ、人形劇団などに幅広く使われている。

「札幌市アカシア勤労青少年ホーム」 ～レッツアカシア～



- 【住所】 札幌市東区北22条東1丁目1-20
- 【電話】 752-7959
- 【開設年月日】 昭和47年1月23日
- 【敷地面積】 1,322.35㎡
- 【延床面積】 901.14㎡
- 【建築構造】 鉄筋コンクリート2階建
- 【交通機関】 地下鉄南北線北24条駅より徒歩7分

【地域状況】

レッツアカシアは札幌の北部、北区と東区の境に位置している。近くには北24条駅や北区役所などがあり利便性も良く、「すすきの」に次ぐ繁華街は活気にあふれている。また、近隣にはポプラ並木と広大なキャンパスで有名な北海道大学や専門学校も多く、若者の街といった雰囲気もあり、勤労青少年はもとより、専門学校生などの利用が多いのも特色である。

【青年の様子】

アカシアの利用者と言えば「祭り好き」。明るく元気で個性豊かな青年たちの集まりである。アカシアの伝統行事のひとつ「オタムフェスティバル」では全ての内容の企画、準備を青年たちの手により行い、作り上げている。各サークルの発表やダンス、バンド演奏など様々な企画で盛り上がり、フェスティバルをとおして多くの出会いや交流が深まり、アカシア全体がひとつになる瞬間でもある。また、アカシアの特色のひとつとして、サークル活動日以外でもやって来る青年が多く、みんなの憩いの場となっている。いつの間にか仲間が集い笑いが絶えないアットホームな関係が、アカシアの青年たちの最大の魅力でもある。

【講座】

青年たちのニーズを取り入れた魅力ある講座を実施している。講座をとおして新規利用者の開拓を目指し、レッツへの理解を深めてもらうと共に、個々の個性と創造力を伸ばすものを実施し、仲間作りを進めている。「手話講座」「着付け講座」「アレンジメントフラワー講座」など、サークル員が企画サポートする講座や、職員が講師役となり、様々な分野（ガラスアート、燻製作り、リース作りなど）を極める「匠の世界」と、幅広いニーズに応えられる企画を目指し取り

組んでいる。



【サークル活動】

サークル活動をとおして多くの仲間との交流が図られて、現在14サークル同士での交流が深まっている。中でも「カラオケサークル」は、それぞれが我が道をゆく個性的な青年たちの集まりで、行事の実施にあたっては、一致団結し大きなパワーを発揮する。アカシアの名物サークルと言える。

また、「手話サークル」は、アットホームな雰囲気が魅力で、講座をとおして新規サークル員も増え活発に活動を行っている。その活動はほかのホームの手話サークルとも交流を図るなど、着実に広がりを見せている。



【利用状況】

年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
利用者数	22,640	24,216	22,854	23,407	23,841
登録者数	1,373	1,551	1,516	1,257	1,164
年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
利用者数	24,727	23,728	23,874	23,446	24,133
登録者数	1,078	1,005	987	857	690

【時間外開放】

現在、定期的に、バレーボール、バドミントン、健康体操など13サークルの利用があり活発に活動している。今後も開放をとおして、地域と密着した施設作りを目指す。



「札幌市ポプラ勤労青少年ホーム」 ～レッツポプラ～



- 【住 所】札幌市白石区平和通1丁目南2-1
- 【電 話】862-8802
- 【開設年月日】昭和49年1月8日
- 【敷地面積】4,198㎡
- 【延床面積】841㎡
- 【建築構造】鉄筋コンクリート2階建
- 【交通機関】JR白石駅より徒歩10分
地下鉄東西線白石駅より徒歩15分
地下鉄東西線白石駅より
市営バス(白23)白石中央下車徒歩5分

【地域状況】

施設の周辺には温水プール・地区会館などの公共施設が建ち並び、その一角にある公園は緑にあふれ季節の移り変わりを、五感で感じ取ることができる。また敷地内にある大きなポプラの木が施設のシンボルとして地域の方々に親しまれている。

【青年の様子】

公共の交通機関を利用しての来館には不便な面があるが、青年たちは自転車や車の乗り合わせなど様々な手段で来館している。来館するきっかけとして友人の紹介や広報を見て来館するのが大半であり、サークルを見学したり、講座、行事に参加してレッツの魅力を感じて定期的に利用している。

平日は、サークル活動（スポーツ、文化系）が中心である。週末には、行事への参加だけでなく、サークルリーダーやサポート役の青年が中心に新しい仲間を引き入れながら、季節に合わせた種々の自主活動やイベントに参加をしている。また、サークル内の交流だけでなく、サークル間の交流や、ほかのレッツとの交流など幅広く活動が行われている。

【講座】

写真、陶芸、茶道、英会話、スポーツチャンバラや護身術、サッカー、セバタクロウなどNewスポーツを含め、技術や知識の向上のために外部講師を依頼している。内容によってはレベルで分け継続的な講座を数回に渡り実施している。季節限定でテニスやスノーボードがあり、継続した活動が繰り返されている。また、留学生やボランティア講師を招き、世界の料理や手話、

ボランティアなどの国際交流と社会福祉に視野を向けている。ほかには、サークル員が講師やサポート役となり新規サークル員の獲得を図っている。また、内容によっては異年齢交流や地域還元型講座も実施している。



【サークル活動】

スポーツ系サークルは、屋内ではバドミントン、バレーボール、サロンフットボール、カラテエクササイズ、セバタクロウが活動している。屋外にはテニスコートが設置されており、夏季限定で全レッツのテニスサークル活動の拠点となっている。中でも特色のあるのは、多目的スポーツサークルで、前記のスポーツ以外にもミニバレーボール、バスケットボール、インディアカ、卓球、ドッジボールなど幅広いジャンルのスポーツに取り組み活動を行っている。

文化系サークルは、写真（一眼レフ）、茶道（裏千家）、手話、料理、陶芸のサークルが活動している。中でも写真サークルは、週末にいろいろなところで撮影を行い、年に数回作品展に出品するほど対外的にも活発に活動を展開している。



【利用状況】

年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
利用者数	19,210	19,649	18,999	17,932	17,932
登録者数	802	820	1,037	876	853
年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
利用者数	20,095	18,392	16,564	17,139	17,709
登録者数	708	808	826	840	1,161

【時間外開放】

地域の主婦や老人クラブ、子ども会活動、スポーツ少年団などがバレーボール、ミニバレー、卓球、ミニボウリング、バスケットボールなどの種目で体育室を利用することが多い。そのほか、料理愛好会や社会復帰活動の養護施設でのレクリエーション活動などがある。

『札幌市豊平勤労青少年ホーム』 ～レッツ豊平～



- 【住 所】 札幌市豊平区豊平8条11丁目3-5
- 【電 話】 823-5256
- 【開設年月日】 昭和54年1月21日
- 【敷地面積】 1,394.01㎡
- 【延床面積】 959.232㎡
- 【建築構造】 鉄筋コンクリート2階建
- 【交通機関】 地下鉄東豊線豊平公園駅より徒歩2分

【地域状況】

レッツ豊平近隣にはマンションや住宅が建ち並び、近くには北海学園大学や専門学校などが位置する。徒歩約3分のところに豊平公園があり、緑豊かな環境である。最近では、豊平公園の隣りに道立体育館（きたえる）がオープンしたばかりである。

【青年の様子】

レッツ豊平は、ほかのレッツに比べて専門学校生の利用が多い。特にサロンフットボールやインラインホッケーのサークルでは、専門学校生が過半数を占めているため行事なども若い年齢層のニーズにあった内容としている。主な行事として、インラインホッケーの交流会、ホーム祭、毎年恒例のサイクリングキャンプ、スキー・スノーボードツアーなどがあげられる。その中でもホーム祭は短い準備期間にも関わらず、サークル、同好会が一丸となって取り組み、地域密着型のホームを目指して地域住民子ども向けイベントやチャリティバザーを行った。その結果、当日は雪が舞うあいにくの天候であったにもかかわらず、800人を超える人が来館する盛況ぶりであった。これは地域の利用者と青年たちとの交流といった点でも大成功といえる。今後も青年たちのニーズを取り入れた行事はもちろん、このような地域に根ざした行事も積極的に行っていきたい。

【講座】

年間でいくつかの講座が行われているが、その内容はスポーツ系、文化系とあり、内容は多岐にわたっている。具体的には、スポーツ系で夏に行われるスキューバダイビングや冬に行われる初級スノーボードや中級スノーボードがあるが、いずれも青年たちのニーズを反映した講座である。また文化系では、陶芸、点字、茶道や生け花など様々なジャンルの講座を開催し

ているが、その中には季節限定のクリスマスリース作りや夏のゆかた作りなどもあり毎年好評である。平成11年からは全サークルに講座開催の機会が与えられ、各サークルの特色を生かし、利用者自らがより主体的に講座を実施する傾向が強くなっている。



【サークル活動】

現在18サークルが活動しており、文化系からスポーツ系まで幅広い種類の活動内容となっている。活動歴の長いサークルや充足したばかりの同好会など、たくさんの青年たちが交流のきっかけとして参加している。特徴あるサークルとして、スキューバダイビングやチアリーディングサークル、サロンフットボールサークル、またアート同好会などがあげられる。その始まりは講座修了生がサークルを作ったものや、自ら広報活動をしメンバーを集め同好会を発足したものなど、スタートのあり方は様々ながら、どのサークルも積極的に活動している。

現在、利用者運営会が存在し、全サークルが会議を行い、部屋割りや行事の計画をとおして、18サークル全てがつながりを持てる働きかけを行っている。



【利用状況】

年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
利用者数	17,579	17,963	19,633	21,430	21,430
登録者数	1,212	1,121	1,418	1,514	1,499
年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
利用者数	23,989	23,392	24,570	19,430	21,413
登録者数	1,459	1,371	1,441	1,541	1,531

【時間外開放】

利用者は主に地域の主婦で構成するスポーツサークル、ダンスサークル。このほか、高齢者のダンスサークルの活動にも使われている。

『札幌市発寒勤労青少年ホーム』 ～レッツ発寒～



- 【住 所】札幌市西区発寒6条12丁目4-35
- 【電 話】665-2629
- 【開設年月日】昭和57年1月31日
- 【敷地面積】1,964.3㎡
- 【延床面積】1,057.8㎡
- 【建築構造】鉄筋コンクリート2階建
- 【交通機関】地下鉄東西線宮の沢駅より徒歩5分

【地域状況】

発寒しらかば公園、保育園、地区会館に囲まれ、歩いて10分のところに児童会館があり、様々な方々の交流の起点となるような環境が整っている。また、平成11年には地下鉄が開通し、他区からの利用者が急増している。

【青年の様子】

レッツ発寒で10年以上続いている伝統の行事「手稲この実察との交流会」を紹介したい。手稲この実察は西区平和にある知的障害者の更生施設である。

この行事は、募金活動から始まり、交流行事の企画、プレゼント作りなど2カ月もの準備期間を経て実施。自己紹介から始まり、寮生と一緒に餅つきとカラオケ大会、お食事をし、寮生に施設を案内してもらおう。青年たちが考えたレクリエーションを行い、そして最後にプレゼント交換と盛りだくさんな内容となっている。

最初とはまどっていた青年と寮生の距離が、帰る頃には肩を組み合って一緒に写真を撮る仲になっている。一度この交流会に参加した青年は、2年、3年と継続的に出席している状況で、発寒の利用者協議会も力を入れている。心優しい素朴な青年が多いホームであることがここからもうかがえる。



【講座】

西区土木部の「西区ふれあい街作り事業」と共同で行っている「ガーデニング講座」は、平成11年で3回目を迎え西区役所・レッツ発寒・地下鉄宮の沢駅にイギリス式ポーターガーデンを作ってきた。青年たちを地域にどう結びつけていくかをキーポイントとして、花壇の企画・実際にその場所での苗の植え付けを行った。植え付けを行っている時、そこを通る様々な人から声をかけられる。会話がかわされ良い出会いの場が、毎年花壇に咲く花の数だけ生まれている。



【サークル活動】

毎週金曜日に活動している音楽サークルは、音楽室があるにも関わらず、メインの活動場所はロビーという、ちょっと変わったサークルである。フォークギターを鳴らし、タンバリンをたたき、ロビーに陣取って、周りを巻き込んで音楽を楽しむメンバー。行事が近づくと、楽器をマジックペンや絵筆、かなづち、のこぎりに持ちかえ作業に没頭する。館の祭りでは最後まで酒を飲み、語り合い、誰彼かまわず仲間に引き込んでいたそんな姿に、サークルの原点を感じることができる。

【利用状況】

年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
利用者数	30,653	26,677	24,238	20,507	20,507
登録者数	695	699	652	527	585
年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
利用者数	19,955	20,027	19,940	22,367	22,422
登録者数	648	552	782	994	1,042

【時間外開放】

定期的に活動している団体は、17団体もあり、ミニバレー、卓球、バスケット、ジャズバレエ、バレーボール、ヨガ、ダンス、茶道、詩吟と内容も豊富で、地域に根ざした館となっている。

平成12年8月の新青少年センターのオープンに伴い、近接する地理条件のため一定の役割を終え閉館。

協会の事業と施設 2



(女 性)

札幌市女性センター

札幌市中央区大通西19丁目

Tel. 6 2 1 - 5 1 7 7

札幌市女性センターは、女性の生活文化の向上と女性活動の推進を図り、女性の福祉増進を目的として昭和56年12月に開館した、全市民的な女性のための中心施設である。開館当時は「札幌市婦人文化センター」の名称で親しまれてきたが、「婦人」という言葉の持つイメージが利用者の範囲を限定している、また「婦人」の対となる男性を表す言葉がないなどの理由による全国的な名称変更の流れを受け、平成4年4月に現在の名称に変更した。

平成元年6月に市社会福祉総合センターが隣接して建設され、その1階部分に別館として5部屋をオープンした。併せて本館の改築も行い、要望の高かった幼児室の増設と和室の増設を行った。また、平成11年度にはボランティア・ビューロー内に授乳コーナーを設置し、授乳を希望する多くの女性に活用されている。

近年では年間利用率が7割強と、多くの方々にさまざまな用途で利用されている。

施設 の 概 要

【開設年月日】 昭和56年12月1日 別館オープン 平成元年6月1日

【敷地面積】 2,326.2㎡ 【建築面積】 1,645.9㎡

【建築延面積】 3,047.6㎡ 【別館専用面積】 322.0㎡

【構造】 鉄筋コンクリート造 地下一部1階、地上2階

【交通機関】

- ・地下鉄東西線 西18丁目駅下車1番出口（徒歩1分）
- ・市バス西58番 北5条線長生園行 長生園前下車

【主要施設】

◎本館：ホー ル	(500名)	第2研修室	(60名)	第3研修室	(30名)
第1研修室	(100名)	第1和室*茶室兼	(30名)	第2和室	(30名)
第4研修室	(30名)	第4和室	(25名)		
第3和室	(25名)	音楽室兼視聴覚室	(40名)	料理実習室	(48名)
フィットネスルーム	(25名)	ボランティア・ビューロー			
幼児室(A・B)	(各20名)	給湯室			
資料閲覧コーナー		◎別館：サークル活動室A	(30名)	サークル活動室B	(20名)
		洋和裁室	(30名)	工芸室	(40名)
		L.L.研修室	(20名)	給湯室	



フィットネス



サークル活動室B



施設外観



幼児室

事業の紹介

【1 女性問題啓発事業】

●ティータイムサロン

女性の学習、知識の向上を図るために、さまざまな角度から女性の生き方、女性問題について考える機会として実施した。お茶を傾けながら質疑応答を行うサロン形式で参加者と共に作る講座として好評だった。

(昭和59年～平成3年)

●女性学セミナー

ティータイムサロンの内容をより深く学習するため、女性学の視点を連続講座の中で学び、これまで「当たり前」だと思っていた事柄を改めて見つめ直すことにより、女らしさよりも自分らしさを輝かせていくよう実施している。

特にこの10年間に女性を取り巻く状況は、世界的にも大きな変化の中にあり、セミナーでも、仕組みの変化を理解し、変わりにくいとされる意識や慣習についてテーマとすることが増えてきている。

また座学中心ではなく実践活動に結びつくよう、セミナー終了後受講者にグループ化を働きかけ、結成したグループが自主的に問題の本質を深く理解するための学習会を開いている。

(平成4年～)

●男の生活学

男女の固定的な性別役割分担意識を見直そうと、とりわけ男性の家庭生活のありようを考え、男性の生活的自立を目指して実施した。家事（料理やアイロンがけ、育児）、介護問題、健康（ストレスやエチケット）、地域活動などの幅広い内容で取り組んだ。

(平成5年～平成9年)



●男女共同参画セミナー

「女性学セミナー」や「男の生活学」でそれぞれが考えてきた、これから目指すべき社会のありようを男女が共に考える場として始まった。

女性と男性があらゆる分野に参画し、共に作り上げる豊かな社会を目指して固定的性別役割分担意識にとられることなく、男女が良きパートナーとして、意識の中にある「当たり前だと感じること」を再点検し、意見を交わしあい、共に協力し、よりよい社会を目指し実施している。

働いている人が参加しやすいように、土曜日（日曜日）の午後に開催し、名称も「土曜ティータイムサロン」など柔らかな雰囲気を出すようにしている。

(平成10年～)

●婦人通信講座

種々の事情から、外出が困難な方、働いていて講座

の受講が無理な方が、家庭に居ながらにして時間的な制約を受けずに学習する機会として実施した。

(昭和57年～平成4年)

●婦人団体リーダー研修会

婦人団体、サークル、PTA、町内会婦人部などに属して活動を続けている方を対象に3種類の内容で実施した。

○婦人リーダー研修会

○広報担当者研修会

○レクリエーション研修会

(昭和57年～平成4年)

●母と子のあそびの学校

現代社会の中で忘れられかけている「遊び」について今一度振り返ることで、親子のふれあいを見つめ直し、親子関係について学び、体験研修を通じて子どもの集団性及び協調性を養っていくことを目的として実施した。

(昭和57年～平成3年)

●子育て講座（子育ては自分育てセミナー）

性別役割分業の矛盾を見つめ直し、性別にとらわれず、積極的に育児にかかわっていくことの必要性や、家族とその関係について考えた。併せて参加者のネットワークを広げ、孤立した育児状況から起こる育児不安を解消するきっかけとして実施した。

(平成4年～平成9年)

●おんなの心とからだセミナー

女性が、自身のからだの仕組み（特に性や生殖に関すること、女性特有の病気など）について知識を得、主体的に自分自身のからだに向き合うことを目的として実施している。また心の病の原因を自分で見い出せるよう心理学の手法を使って学習している。

(平成8年～)

●センターだより“せんのき”

開館以来、年4回各5,000部をセンターだよりとして発行してきた。

(昭和56年～平成3年)

●S・W・ing（さっぼろウイング）

センターだより“せんのき”を平成4年に名称と形を変更し、年4回毎回6,000部を発行している。女性を取り巻く環境が変化する中で、キーワードとも言える概念について、私たちの暮らしのどこに当てはまるのか、具体的に読み解いていくことを目的としている。紙面での法律相談や本の紹介、女性の健康に関する読み物など、幅広い内容を掲載している。また女性学セミナーなどの講座抄録を掲載した号は問い合わせが多く、問題の所在を明らかにするための情報の必要性や関心の高さが感じられる。

(平成4年～)



【2 女性活動推進事業】

●女性活動支援事業

年間8団体のグループが行う事業について支援している。支援する事業の性格は、女性問題の解決が視点にあることである。一般公募による募集は平成8年からで、これまで夫婦間暴力に関する講演会、北京での世界女性会議で採択された行動綱領の学習会、介護の社会化を考える学習会、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点による性の電話相談など、延べ38団体に、会場の確保や広報活動そして支援金の交付といった支援をしてきている。(平成7年～)

●女性センターフェスティバル

12月1日の開館日を記念して行っている。開館15周年を迎えた平成9年からこの名称で事業をしている。女性問題の解決に取り組む学習グループが問題提起・意見交換の場として開く「ワーク・ショップ」や、貸室利用グループによる茶道、工芸、舞踊や健康体操などの活動発表、講演会・映画会などさまざまな催しが3～4日間にかけて行われる。(昭和56年～)



【3 就業支援事業】

●再就職準備講座

過去に働いたことがあって、例えば結婚や出産で仕事を辞めた女性が、再就職をしようと考えている時、「自分には出来ないかもしれない」と自信を失っていることが多いようだ。講義の中から具体的な目標を定めることの大切さや、再就職のための情報収集などを始めることの必要性などを学んでいる。

また、この講座を受けた方が多様な働き方(在宅ワーク、自営の経理事務など)を実現したり、眠らせていた自分の夢(絵本作家、茶道師範など)の実現に向けて歩み出している。

(平成2年～平成3年、平成10年～)

●共催：「仕事と育児両立支援セミナー」

仕事と育児の両立に困難を感じている人が、その両立のために必要な情報と勇気を得られるよう、(財)21世紀職業財団とタイアップして事業を開催している。託児の必要な受講者が多く、女性センターでの託児が必要不可欠な要素となっている。(平成8年～)

●共催：「保育サポーター養成講座」

(財)21世紀職業財団が「保育ママ」制度を推進するために開催している。子育ての経験がある女性にとって、何かを始めるきっかけとして好評である。また、講座後は起業に近い形で、託児の必要な人に保育サービスを提供している。(平成10年～)

●共催：「女性起業家セミナー」

起業する際に必要な知識やノウハウを学ぶために札幌市経済局中小企業支援センターが必要なカリキュラムを提供している。実際に起業し成功した女性の体験談なども豊富に聞くことができる。(平成11年度～)

【4 生活・文化・教養事業】

●初心者のためのワープロ/パソコン講座

パソコンを使用したワープロ講座。札幌市母子寡婦福祉連合会が管理するOA研修室で行っている。実施のたびに定員(20名)を大きく上回る応募があり、抽選によって受講者の決定をしている。平成11年度にはパソコンの基本操作を学習する機会として募集したところ、定員に対し約20倍の申し込みを受けた。

(平成元年～)

●英会話講座

別館新設に伴うLL研修室の開設と同時に、語学学習等へのニーズに応えるよう開催した。また、近年では異文化から女性問題解決の学習視点を学ぼうと語学講座を開催している。

(平成元年～平成7年、平成11年～)

●料理講座

料理を作るだけでなく、食文化についても学ぶ機会として実施した。

(昭和56年～平成7年)

●家庭の経済学(暮らしの経営学)

暮らしに役立つ知識を広げ、さらに日常生活に潜在的に隠されている男女の固定的役割分担意識を明らかにしよう開催した。

(平成7年～平成8年)

●健康講座(スポーツ講座)

女性の健康増進を図るために実施している。

(昭和57年～)



【5 ボランティア活動推進事業】

●託児ボランティア養成講座／研修会

主催事業時に、2歳（講座によっては1歳6カ月）以上就学前幼児の託児をするボランティアを養成している。保育園見学等を含む講座を終えて、登録ボランティアとなった方々は、事業運営の力強いパートナーとして活動している。また、研修会はボランティアの技能向上や意見交換を目的に行っている。

（平成5年～）



●ボランティア・スクール

昭和50年に札幌市が開講したこの講座は、地域、施設などでボランティア活動を実践したいと考えている女性を対象に始まった。

昭和56年の婦人文化センター（現女性センター）開館に伴い、この事業が活動協会に委託された。通算42期を終了したところで、ボランティア一般にかかわる事業を集約する札幌市のボランティア施策を受け、事業の積極的解消をした。

各期の修了生は、各期を単位としてあるいは個人で、地域や施設のさまざまな分野で活躍している。

（昭和50年～平成10年）

●ボランティア・ビューロー研修会

ボランティア・スクール修了生のボランティア活動を質的に高めていくことを目的として、講演会や講義、体験研修など、年1回実施してきた。

（昭和56年～平成10年）



●ボランティア機関紙

「ぬくもり」

女性のボランティア活動促進を目的として、ボランティア・スクール修了生が編集委員となり、ボランティア・スクール修了生をつなぐ機関紙として、紙面による啓発・情報提供をしてきた。「ぬくもり」を関係機関に設置することで、多くのボランティア活動に携わる人たちの意識啓発に効果を上げてきた。平成10年のボランティア・スクール終了に伴い、「ぬくもり」の発行も終了した。

（昭和56年～平成10年）



●編集ボランティア養成講座

平成11年から始まった。女性センターからの情報発信が積極的に出来るよう1年間の講座の中で、女性学や男女共同参画社会を目指した取り組みなどの情報収集の視点を学び、情報の加工・発信技術を身につけられるよう実施している。女性センター機関紙「さっぽろウイング」の編集などにも参加する予定。

（平成11年～）

【6 国際交流推進事業】

●異文化フォーラム

平成11年から始まった。札幌在住の外国人をパネリストとして迎え、テーマに沿って議論を進め、参加された方々との直接的な意見交換をしている。相互の文化的背景の理解や、個々人の生活それぞれが「その人らしさ」であるにとらえ、理解していくことを目的としている。

（平成11年～）

●外国人のための日本語講座

コミュニケーションをとることは異文化理解の第一歩。札幌在住外国人に対して、講座担当ボランティアスタッフが日常的な日本語会話の習得を目指して実施した。

（平成4年～平成11年）

【7 女性相談事業】

●一般相談

毎週2回、女性の悩み事を電話・面接にて女性の相談員が受けている。平成9年から夜間の相談時間も設定し、幅広く相談を受け付けている。（昭和56年～）

●法律相談

毎週1回、女性弁護士が法律にかかわる相談を受けている。平成9年から夜間の相談時間を設定したことで、働く女性にとっても相談しやすくなったと好評である。（昭和57年～）

●女性のための心とからだ相談

毎週1回、女性医師（精神科・神経科、産婦人科）による心とからだの相談を行っている。

（平成10年～）

札幌市女性センター利用方法

1 使用申込受付時間

- (1) 平日 午前8時45分～午後5時15分。
- (2) 土曜日、日曜日、祝日、休日及び休館日（春と秋の各2日間）は申し込みが出来ない。

2 使用申込の受付開始日及び受付期間

- | | |
|---|------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 4月～5月使用分は、2月 6月～7月使用分は、4月 8月～9月使用分は、6月 10月～11月使用分は、8月 12月～1月使用分は、10月 2月～3月使用分は、12月 | 受付開始は毎偶数月の初日（平日）
使用する前の日までが受付期間 |
|---|------------------------------------|

- (2) 女性のために行う事業で、次に該当する事業の場合は、使用月の4カ月前の月の1日（初日）から使用日前日までが申込期間となる。

- ① 札幌市及び他の公共団体の主催事業
- ② 札幌市共催事業
- ③ 上記に準ずるもので、特に市長が必要と認める事業

3 使用申込の受付方法

(1) 抽選会

- ① 受付開始日（偶数月の1日）に抽選を行い、それによって決まった順番に申し込み。
- ② 受付開始日が土・日曜日の場合は、翌月曜日。休日の場合は翌日が受付日となる。
- ③ 電話予約・窓口での申込は、受付開始日の翌々日からとなる。

(2) 窓口

- ① 来館者及び電話申込者の先着順。
- ② 電話による仮予約が可能。
- ③ 電話で予約をした日を含めて3日以内に、利用料金を添えて申し込み。

●貸室利用料金及び利用時間

種別	区分	利用料金			
		午前 午前9時から 正午まで	午後 午後1時から 午後4時まで	夜間 午後5時から 午後9時まで	全日 午前9時から 午後9時まで
ホー ル	女性	4,600	5,700	6,800	13,700
	(半面)	2,300	2,800	3,400	6,800
	一般	9,200	11,400	13,600	27,400
	(半面)	4,600	5,700	6,800	13,700
フィットネスルーム	女性	1,600	1,900	2,200	4,600
	一般	3,200	3,800	4,400	9,200
第1研修室	女性	1,900	2,200	2,600	5,400
	一般	3,800	4,400	5,200	10,800
第2研修室	女性	1,200	1,400	1,700	3,500
	一般	2,400	2,800	3,400	7,000
第3研修室	女性	650	750	850	1,800
	一般	1,300	1,500	1,700	3,600
第4研修室	女性	850	950	1,100	2,300
	一般	1,700	1,900	2,200	4,600
和室	女性	650	750	850	1,800
	一般	1,300	1,500	1,700	3,600
音楽室兼視聴覚室	女性	1,200	1,400	1,700	3,500
	一般	2,400	2,800	3,400	7,000
料理実習室	女性	3,400	3,700	3,900	10,000
	一般	4,800	5,100	5,400	14,200
工芸室	女性	1,000	1,200	1,300	2,800
	一般	2,000	2,400	2,600	5,600
洋和裁室	女性	850	950	1,100	2,300
	一般	1,700	1,900	2,200	4,600
サークル活動室A	女性	850	950	1,100	2,300
	一般	1,700	1,900	2,200	4,600
サークル活動室B	女性	900	1,000	1,200	2,500
	一般	1,800	2,000	2,400	5,000
L.L.研修室	女性	900	1,000	1,200	2,500
	一般	1,800	2,000	2,400	5,000

●備付物件利用料金表

物件	単位	利用時間			
		午前 午前9時から 正午まで	午後 午後1時から 午後4時まで	夜間 午後5時から 午後9時まで	全日 午前9時から 午後9時まで
ボーダーライト	1列	900	900	900	2,700
サスペンションライト	1列	900	900	900	2,700
アッパーホリゾンライト	1列	900	900	900	2,700
フロントサイドスポット	一式	550	550	550	1,650
フォロースポット	1台	220	220	220	660
グランドピアノ	1台	1,700	1,700	1,700	5,100
L.L.システム	一式	2,200	2,200	2,200	6,600
ビデオプロジェクター	1台	1時間ごとに650円			
16ミリ映写機	1台	1時間ごとに450円			
物品格納庫	1台	1月当たり 大型1,100円・小型550円			



▲L.L.研修室



▲和室

料理実習室▼



協会の事業と施設 3



(子 ども)

リトルキャンプ

キャンプ事業の中でもっとも人気のあるキャンプ。小学校1年生から3年生を対象にしたリトルキャンプは昭和59年に初めて実施され、現在まで継続されている。定員は60名に設定しているが、2期制で実施しているにも関わらず新規・リピーター合わせて各期80名から100名程度の応募がある。幸いキャンプ実施場所の滝野自然学園は受け入れに余裕があるため、定員を上回る申し込みがあっても全て参加してもらっている。



リトルキャンプはまず開塾式から始まる。保護者から離れて2泊、低学年の子どもたちにとってはそれだけで冒険といえるし、新1年生や初めて保護者と離れて宿泊する子どもたちにとってはかなりの緊張と不安が伴うと想定される。その不安を解消するために、グループメンバー・リーダー・スタッフたちと顔を合わせ、グループ活動をとおして仲間意識が芽生えることを期待しての開塾式。グループ活動の内容はその年により様々だが、主にキャンプに向けての名札作り・グループの命名・自己紹介・キャンプのテーマに沿った工作などを行う。子どもたちのグループ活動の間、同伴の保護者の方々にはスタッフから活動協会についての説明とリトルキャンプの概要を説明し、子どもたちをキャンプに送り出す準備について理解を得ている。

夏休みも半ば、8月初旬のキャンプには期待と不安で胸を膨らませた子どもたちが再び集合し、保護者の見送りのもとキャンプへ出発。子どもたちの体力を考慮し、リトルキャンプでは1日目をテント泊、2日目を学園内で宿泊している。アウトドアブームの最近ではテント泊の経験がある子どもは少なくないが、自分たちで建てたテントに1泊するとなると興奮はかなり高まってくるようだ。更に野外炊飯では薪割り、野菜切りなどの体験を経て、グループで協力して作り上げた食事の味はまた格別なようだ。

夏の暑いシーズンの一番の楽しみはなんと言っても2日目の水遊び。学園から歩いて10分ほどの厚別川へ出かけ、川遊びを楽しむのだが、最初のうちはおっかなびっくりでなかなか川に入ることができずにいる子どもも、時間がたつにつれ次第にみんな歓声を上げ全身びしょぬれになって川遊びを楽しんでいる。

グループのメンバーは1・2・3年生の混合で編成されているが、リトルキャンプ経験者や3年生はグループの中でリーダーシップを発揮してグループのまとめ役として活躍してくれている。中には毎年参加をし、スタッフともすっかり親しくなっている子どもたちも少なくない。

キャンプといえば夏というイメージがあるが、リト

ルキャンプは夏休みだけではなく「リトルキャンプ（冬）」の名称で春休み期間中にも実施している。

昭和61年から始まったリトルキャンプ（冬）は、夏のリトルキャンプ同様に小学1～3年生を対象として実施している。

家の中にこもりがちな冬、北海道ならではの雪を利用して、スノーキャンドル作りやかまくら作り、雪中基地作りや雪合戦などを主に行っている。その中でも例年行われる人気のプログラムとしては滝野自然学園裏山でのチューブ滑りである。地下鉄のタイヤチューブを利用したチューブ滑りは2人～4人がひとつのチューブに乗り、坂の上から下の畑へ一気に滑り降りるもので、雪煙で前が見えないほどのスピードを楽しむことができる。

チューブからこぼれ落ちないように子どもたちと、がっちり腕を組み合い、スリルとスピードを楽しむ。転んだり雪にまみれたりしながら楽しむ子どもたちの笑顔はとびきり輝いて見える。

昭和59年から活動協会が冒険的に始めた低学年のリトルキャンプだが、始める当時は様々な心配があったようだ。「あまり小さくてはキャンプに耐えられないのではないか?」「危険が伴うので指導面で問題があるのではないか?」「社会性がまだ身に付いていない低学年では集団活動は無理ではないか?」これらの理由でなかなか始められなかったとのこと。しかし、初回の募集では定員30名に対し3倍の応募があり、次の年には定員を60名に設定したものの、それでも対応しきれないほどの応募数であった。その後毎年たくさんの子どもの応募、参加を得て現在に至っている。

これからも食事作りやグループ活動、仲間遊びなどのたくさんの経験を経て、友だちの大切さや、仲間と協力する事で生まれる素敵な力を体で感じてもらえるよう実施していきたいと考えている。

こぼれ話 アッ!

炊事の注意事項で包丁の使い方の説明をしていたときのこと、突然泣きだした子がいました。訳を聞くと「包丁=危ない=切れる=血が出る」という普段お母さんからの注意を思い出してのことのようでした。

初めての体験だからこそスタッフはどうやったら子どもたちに安全に楽しく炊事の体験をしておらうかと細心の配慮をしていたのですが思いもかけない状況でした。

このことは逆に子どもを取り巻く環境の中で大人の姿勢を考える一つのきっかけにもなりました。言葉は一時のものではなく、深く心に刻まれるからこそ大事なものであることも…。(k o r o ちゃん)

道新健康村

北海道新聞社、道新観光との共催で実施されている全道の小学校高学年対象キャンプ事業。

協会と健康村の出会い、昭和56年1月の冬休み健康村（2泊3日）からで、同年7月には夏休み健康村（3泊4日）、57年3月からは春休み健康村（2泊3日）が加わり、それぞれの季節に応じた遊びと、グループ活動をとおして自分の役割を再発見できるようなプログラムを提供してきた。主な内容として、夏は炊事やキャンプファイヤー、水鉄砲合戦、近くの農園を借りての芋掘り体験、森を利用したグループフィールドゲームなど、冬と春は真狩の深い雪を利用した雪中レクリエーションやかまくら作り、チューブ滑り、スノーキャンドル作りがある。子どもたちは、それぞれのプログラムをグループリーダーやグループメンバーと協力しながら共に楽しんだが、特に冬は腰まで雪につかりながらの遊びに、歓声を上げる姿が多く見られた。

多い時でプログラムを4期実施したこともあったが、その後ファミリーキャンプの普及や、子どもたちの生活環境が大きく変化する中で春は昭和61年度、冬は平成元年度でそれぞれの役割を終えた。夏は現在も継続して行われ、たくさんの子どもの思い作りと仲間作りに一役かっている。

健康村のもう一つの特徴としてグループリーダーの存在がある。このキャンプでは各グループに、「札幌市青少年指導者養成講座（グループ・ワーカー養成講座）」の受講生や修了生を実習として配置しグループ活動を援助しているが、子どもたちと共に生活し、共に笑い、共に悩み、共に楽しむことは、講義では決して得ることができない貴重な体験であり、健康村はリーダーの養成にも大きな役割を果たしている。

会場は、平成7年度まで虻田郡真狩村羊蹄自然の村野営場で実施されたが、平成8年度からはニセコアンヌプリ（メイン会場：ホテル日航アンヌプリ）、平成10年度は徳別町営キャンプ場、現在は日高少年自然の家で行われている。

参加者は若干減少傾向にあるものの、相変わらずリーダーも健康村。今年もどんな「顔」に出会えるか楽しみである。

こぼれ話^{アッ!}

「健康村の思い出」

う～んやっぱり3泊4日4期長くて辛かったなという思い出が強いキャンプでした。

その当時上司のSさん旧姓Mさんとチームを組み真狩の山を駆けずり回ったものです。

寝不足が続き朝起きられない私を、Mさんはいつもやさしく肩をゆすって起こしてくれました。色々な思い出がある中の一つを紹介しましょう。

「リーダーのいたずら」

道新スタッフとの打ち合わせを終え部屋へ戻り自分の布団に入った時何か固い物が。中にはガムテープ、ハンガー、マジックがいっぱい。リーダーたちの「いたずら」まわりを見るとみんな爆睡状態、私も苦笑いしながら布団に入りおもいきり頭を枕にのせたとたん、ゴンという音と共に激痛が。なんと枕の中に「マナ板」が！（ダンディー〇）

よつ葉わんぱくカントリー

平成11年度新たに加わった小学5年、6年生対象のキャンプ事業。よつ葉乳業が主催し、過去に12回の開催実績を持つこのキャンプは、毎年国設然別湖畔北岸野営場を会場に3泊4日で実施されている。これまでの12回は、学校的要素の強いプログラムで実施されてきたため、13回目から新しい要素を取り込みたいという主催者の要望で当協会に依頼された。そこで、全体のプログラム目標を「グループ活動をとおして、集団における自分の役割を再発見すること」、「遊びの中で自然そのものを体感し、自然への理解を深めること」の2点にし、過去の流れも踏まえながら実施することにした。

会場までの移動に列車、バスを乗り継いで半日かかることから、キャンプ場での活動は午後の入村式から始まる。その後、グループメンバーと協力して大きなテントをたてたり、本部スタッフ招待の野外炊事を行う。夜は小さな火を囲みながら歌や手遊びをして楽しんだ後、ネイチャーセンターの方に然別の自然についてお話を聞いて、自然理解へのきっかけを作り1日目を終える。2日目はグループの結束を固める一日ということで、スタッフとのゲームを楽しみながらの登山の後、料理コンテストやスタンツの発表会などを行い、グループメンバー同士の交流を深めている。3日目は、ベースキャンプ地から移動しての熱気球体験やカヌー体験、グループを離れての交流場面を設定する目的で近隣の「山田温泉」で入浴をし、同性同士裸の交流を図っている。夜は2度子どもたちに招待されたスタッフが、子どもたちにお返しをするということで、露店形式のお店を出して子どもたちを招待し、野外ならではの夕食をとった後、3日間の総決算として全体ファイヤーを行って楽しんでもらっている。最終日はテント撤収をしてキャンプ場を後にし、よつ葉の工場見学をして札幌に戻り、全てのキャンププログラムを終える。

期間中は、札幌市青少年指導者養成講座（グループ・ワーカー養成講座）の受講生がグループリーダーを務め、グループ活動の援助を行っているが、他のキャンプ事業に比べて移動時間が長い分リーダーに求められるものも大きく、参加した受講生にとっても大変良い経験になるキャンプである。



児童会館 ～受託背景と運営～

1. 歴史と受託背景

戦後の混乱期の昭和24年に子どもの安全な遊び場の確保を目的に全国に先がけて中島公園内に中島児童会館が誕生。

当時の市長から進駐軍（GHQ第11空挺師団）保有のかまぼこ型兵舎の貸与の請願文書が出され、4棟を譲り受け108坪（児童図書館、音楽室、工作室、集会室）で同年7月に開館した。その際に配布されたパンフレットには「会館は、皆さんの良き遊び場であり、共に学ぶ所です。…集会室は、自分たちで会をするときに利用して…」と、子どもたちの主体性を尊重した施設であることを伝えている。しかし、集会室を除く部分は無料としながらも、児童以外からは使用料を徴収するなど一般市民にとっては必ずしも開かれた施設とはいえなかった。

その後、昭和35年12月に2番目の新生児童会館が開館するまで1館の状態が続くが、この間の活動が現在の児童会館の運営の基盤となっている。

以後、月寒（昭和36年、昭和49年に月寒公民館に吸収）、円山（昭和38年）、豊平、手稲東（昭和40年）、白楊（昭和43年、昭和49年北区民センターに吸収）と散発的に建設され、児童の社会教育施設としての役割が次第に市民に認められていくと同時に、市民からの児童会館建設に関する請願、陳情が活発化する。

これらの公立児童会館建設の陰で、昭和31年に地域住民の手による児童会館運営がなされていたことは、特筆すべきことである。現在の菊水やよい児童会館で私有地301.98㎡を借用して開館し、昭和50年の老朽化に伴う再建築によりその幕を閉じるが、地域住民が児童育成に関わる意気込みは本来的な望ましい姿だけに実に評価されるべきことである。

昭和45年札幌市長期総合計画で児童会館の建設計画が初めて策定検討され、昭和47年から毎年1館ずつ（土地2,000㎡、面積400㎡、各区3館、センター館1館）建設の予定。

昭和49年に地域行政とより密着するため教育区委員会所管から区役所、区民センターに移管。

昭和51年、新札幌市長期総合計画で近隣地区（全市地区が60～65区）の小学校単位が3～4校毎に1館建

設整備することになる。

昭和61年、当協会のこれまでの青少年教育の専門的活動が認められ、宮の森、太平児童会館の管理運営を札幌市より委託される。

昭和63年、児童会館長期総合計画により、1中学校区に1館建設（土地1,200㎡、面積480㎡）が策定され、児童会館建設が急速に進むと共に、委託の会館数も増加。

同年、児童会館運営が学校教育と連携を図るため、教育委員会に一元化となる。

児童会館100館建築構想の達成を目前に控え、小学校単位の建設を要望する声の高まりを受け、平成9年に小学校の空き教室を利用したミニ児童会館が南、菊水小に開設。

平成11年に全国的な子育て支援行政の流れの中、保健福祉局に移管。

同年6月、児童会館運営の効率化を図ることと、これまでの児童会館運営の実績により札幌市から全館を受託。（101館とミニ児童会館5館）



2. 児童会館の運営

札幌市の児童会館の設置目的は『児童の文化的素養を培い、その福祉を増進するため』であり、児童の校外生活において、異なった年齢集団での遊びを通じて、地域における児童の交流をより一層深めることを目的とした児童健全育成施設。

その趣旨は、子どもの発達段階に応じた遊びや諸活動を通じて、社会性と自立心に富む子どもの育成であり、生命を尊重し安全で健康な子どもの育成と積極的に問題解決に取り組む子どもの育成である。具体的には豊かな心・たくましい身体・的確な判断力を備えた子どもを育てることである。そのためには、学校、家庭、地域と連携を保ち、子どもたち自身の自主的な参画のもとで、より開かれた魅力ある児童会館を目指すことが大切である。

〔事業展開の基本としては〕

- ①子どもの自由な活動を通じて、自主性、自立性の育成を図り、会館の運営には子どもの意向を十分に反映させる
- ②異年齢集団の形成、集団活動を通じて子どもの社会性を育む



- ③遊びや各種クラブ活動を通じて、スポーツ、科学文芸などに対する子どもの興味、関心を深めさせ、文化的な素養を育てる
- ④地域に根ざした子どもの活動の拠点として、運営委員会、関係機関及び関係者との連携を密にした事業を展開する
- ⑤児童クラブを通じて留守家庭児童の安全確保と健全育成を図る
- ⑥札幌の市民であることに誇りを持ち、郷土愛に満ちた子どもを育成する
- ⑦国際感覚豊かな環境づくりを推進するため、国際交流に対する子どもの理解と積極的な参加を図る



3. 児童クラブ

昭和30年当初は民間有志や父母の相互協力により学童保育が実施されていたが、昭和34年に市の単独事業として小学校や地区会館に設置された民営の施設7か所に運営費補助をしたのが始まりである。それ以後民生部の補助事業として昭和40年まで継続。

その後留守家庭児童会の増設の請願・陳情が相次ぎ、昭和52年に留守家庭児童のみを限定育成するのではなく、それらを含めた一般児童の健全育成を推進すべきとして一括趣旨採択された。同年に建設された清田児童会館に清田留守家庭児童会を吸収統合したのが、現在の児童クラブの始まりである。昭和62年度末で50館となった児童会館の整備計画に伴い、様々な問題を解決しながら児童クラブが開設され、平成9年度から新たな取り組みとして、ミニ児童会館の中でも児童クラブを開設したことで、札幌市の留守家庭施策は「児童会館児童クラブ」「学校施設方式児童育成会」「民間施設方式児童育成会」の3方式となった。



【児童クラブの状況】

対象 小学1～3年生

数	年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
児童数		54,182	52,371	50,654	49,498	49,119
クラブ員数		1,672	1,903	2,178	2,651	3,062



4. 今後に向けて

子どもを取り巻く環境の急激な変化は、現状の児童会館運営に様々な課題をもたらしている。こうした中での児童会館の全館委託は市民の多様化する要求を捕らえ、柔軟な対応が望まれる現状から実施されたといえよう。この記念誌の発行にあたっては、作業の進捗状況により全館掲載ができなかったが、全館委託によって協会の今後の事業が広がりをもって、全ての世代対象に展開できる地域の拠点を持たせたことは実に喜ばしいことである。また市内全域での協会事業のPRが容易に行え、市民の声を身近に聞ける利点を生かすことで地域と一体になった児童健全育成を実施していくことができる。

これらの基本姿勢は「子どもと家庭と地域のために開かれた児童会館」を目指すことであり、時代に即した児童会館の活性化を常に心がけ運営することが求められるであろう。



『2000年に流行していた遊び』

《その1 復活ボンバー》

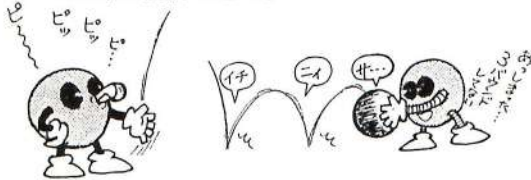
『復活ボンバー』とは、従来子どもたちが行っている“かたき”を原形にしたものである。そのかたきに学年差や男女差を考慮したハンドルールなどを付け加えたものである。

ハンドがあることから柔らかいボールを使うということで、小学生から大人までがまた、女の子も男の子も関係なく十分に楽しめるボール遊びである。

『復活ボンバー』という名称にしたのは“かたき”という言葉の印象がよくないことと、テレビ番組で流行していた言葉を引用したものである。

ルール

1. スタート時、参加者はそれぞれ体育室（器具室以外）のどこにいても良い。
2. 審判がコート中央でボールを投げる。
3. 投げ上げられたボールが3バウンドしたら、誰が取っても良く、スタートとなる。
4. 3バウンドする前に、ボールに触れた場合はアウトになり、この場合、3バウンドスタートをもう一度やり直す。アウトになった者はスタートの後、最初のアウト者がでた時に復活できる。



《その2 一輪車》

昭和50年頃から体育室の遊びのひとつとしてまた子どもの体力の増進と平行感覚を養うことを目的に導入した一輪車は、今では大半の会館で所有し子どもたちに人気のある遊びのひとつとなっている。

それぞれの会館が行う独自の検定会を覗いて見ると例えば、壁づたいから始まった子どもたちが練習を重ね、1年間の間に前進走行はもとより後方走行も簡単に行えるようになる。上級者は、タイヤ乗りや片足走行、縄跳びやフラフープなどの道具を使った技を次々と習得している。

ブレーキがないため、路上での走行ができないこと都市化により公園などが少なくなった現在では、児童会館は唯一の一輪車の練習の場といえよう。



児童会館のおたより



児童会館

『宮の森児童会館』

【住 所】 札幌市中央区宮の森2条5丁目2-21
 【電 話】 641-9710
 【開館年月日】 昭和60年3月25日
 【敷地面積】 342㎡
 【延床面積】 322.44㎡（共有部分含む）
 【建築構造】 鉄筋コンクリート3階建
 【交通機関】 地下鉄東西線西28丁目駅より徒歩6分



【地域状況】

市内で初めて町内会館と併設で建てられた会館。地下鉄西28丁目駅から近く、交通量も多い。近隣には一戸建てとマンション・アパートが混在して建ち並び、住民の出入りは比較的激しい。会館の向かいにはジャンボ公園、ほかにもいくつか大きな公園が点在している。また、子ども会や隣接の宮の森保育園と合同で、もちつき会などを行う中で、地域との交流を図っている。

【利用状況】

宮の森小学校、向陵中学校を中心に、三角山小学校、日新小学校の子どもたちが利用している。幼児から高校生までが一緒になり、ドミノや集団遊びを行うなど異年齢の関わりが豊富でアットホームな雰囲気が魅力である。中でも、体育室での復活ボンバーの人气が高く、狭い空間を最大限に利用しながら会館独自のルール設定や遊具を用い、様々な遊びを展開している。

【特色のある事業・遊び】

「宮の森記者クラブ」では、クラブ員が地域や会館のニュースを取材し、隔月で手作り新聞を発行している。また、子どもスタッフによるフリーマーケットやゲーム大会などを盛り込んだ「宮の森カーニバル」を行い地域へのPRを図っている。



【児童クラブ】

開設されていない。

【時間外開放利用者件数】

町内会館があるため開放はしていない。

『太平児童会館』

【住 所】 札幌市北区太平8条7丁目2-1
 【電 話】 771-6324
 【開館年月日】 昭和61年2月28日
 【敷地面積】 1,151㎡（施設全体）
 【延床面積】 420.18㎡
 【建築構造】 鉄骨平屋建
 【交通機関】 JR百合ヶ原駅より徒歩1分
 【地域状況】

古くからある住宅地の中に建っており、地域的には高齢者世帯が増えている。古い地域のため町内会活動が活発で、子ども会や青少年育成委員会の活動のもと、子ども祭りなどが実施されていたが、近年子どもの減少と共に減ってきている。徐々に2世帯住宅や新築マンションが増えている状況であり、乳・幼児の増加を期待している。連絡所・地区会館との複合館。

【利用状況】

利用児童は主に、太平南小学校、太平小学校の2校となっている。この他栄緑小学校との3校の校区の端に位置するため、自転車が使用できない冬期間は利用が減少する。ここ2年程ボール遊びが大流行し、小・中学生が入り交じり遊びを展開している。また、最近では1・2年生を中心とした、ごっこ遊びや一輪車などが盛んに行われている。



【特色のある事業・遊び】

毎年11月に「子どものみの市」という子どもスタッフが運営するリサイクル市を実施している。子どもたちがおもちゃを持ち込むほか、毎月の工作会などで作った手作りおもちゃも並び、幼児から大人までが楽しみ、地域への大きなPRにもなっている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
				2	7	12	15	17	12	17

※3校区の端に位置し、子どもの足で学校から30分かかかるためか人数は少なく、1年生が中心となっている。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	0	0	0	0	0	123	213	165	171	189

※地区会館が隣接されているため、開放しているのは体育室のみである。主に剣道、空手、少林寺拳法が定期的に利用しているほか、町内会などが利用している。

『麻生児童会館』

- 【住 所】 札幌市北区北39条西5丁目3
- 【電 話】 757-0185
- 【開館年月日】 昭和61年11月1日
- 【敷地面積】 726㎡（施設全体）
- 【延床面積】 858.88㎡（共有部分含む）
- 【建築構造】 鉄筋コンクリート2階建
- 【交通機関】 地下鉄南北線麻生駅より徒歩3分



【地域状況】

地下鉄の駅に近く、周辺に大型スーパーや商店街が近接している。緑地公園を利用したの行事や交流を行っており、地域のイベント会場として平成12年春には整備された公園が開放される。現在、近隣にはマンションが建設中、一方では畜産農家が一軒残っている。

老人福祉センターと連絡所、麻生緑の相談室の複合館。

【利用状況】

和光小学校、新琴似小学校の子どもたちが利用の中心となっている。利用者OBの来館もあり、中・高校生との関わりをもっている。復活ボンバーや一輪車では、学年に関係なく子どもたちの輪をつなげ広げている。

子育て支援の成果も大きく、サークルの結成や午前中の利用も増加している。

【特色のある事業・遊び】

継続性を持たせた「チャレンジゲーム」や「検定会」にスタッフ育成のおたすけマンを導入し、行事で活躍している。また「人形劇クラブ」を結成し劇場での発表会を経験し、自信をつけ頑張っている。

また、世代間交流をねらいとした事業として、老人福祉センターとゲートボール、お茶会、盆踊り、作品展などを実施。日常からも、声を掛け合いふれあう機会を大切に、楽しみを共有できる取り組みを心掛けている。



【児童クラブ】

開設されていない。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	0	0	0	0	0	173	288	281	296	305

※新体操、剣道の利用のほか、社交ダンス地域町内会の利用が中心となっている。

『厚別南児童会館』

- 【住 所】 札幌市厚別区厚別南1丁目15-10
- 【電 話】 894-1710
- 【開館年月日】 昭和62年3月14日
- 【敷地面積】 1,695㎡（施設全体）
- 【延床面積】 453.23㎡
- 【建築構造】 鉄筋2階建（児童会館は1階のみ）
- 【交通機関】 地下鉄東西線ひばりが丘駅より徒歩5分
- 【地域状況】

サイクリングロードと厚別西通の交差する場所に位置する。また、近くには交通量の多い南郷通があり、新さっぽろへは徒歩圏内である。利用者は市営住宅やマンション住居者が多い。連絡所・厚別南会館との複合施設のため、常に各町内会長・地域住民の方が事務室を訪れている。地下鉄ひばりが丘駅からも近く、交通の便が良いため貸館・時間外利用も多い。

【利用状況】

共栄小学校、ひばりが丘小学校、大谷地東小学校の利用が主で、児童クラブ員入会者が多く、そのためか高学年は低学年の面倒見が良い。各種検定（こま・一輪車・けん玉）に参加したり、ドッジボールを楽しみにしている。一方で、ごっこ遊びも根強い人気がある。

午前中の幼児の利用も多く、子育てサロン親子行事への参加も回を重ねるごとに増加している。



【特色のある事業・遊び】

「いっばにほさんぽ」という四季を通じて自然に触れ親しんだり、地下鉄を利用して出掛ける行事が好評。幼児向けの「よみきかせの会」は地域ボランティアサークル『はらぺこあおむし』の協力で行われ、たくさんのお話、手遊び、工作を楽しみにしている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
				25	42	46	32	31	39	60	81

※3校の児童が入会している。平成11年度から登録者数が倍増し、近隣の保育園卒園児童の入会が多い。

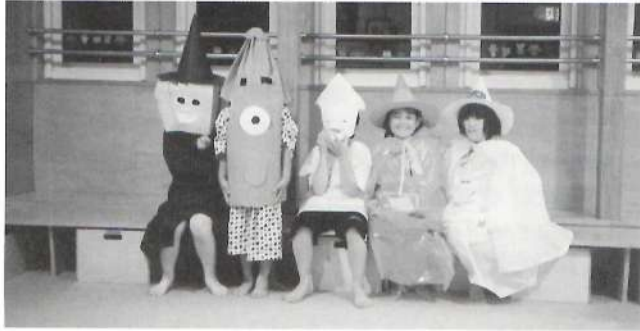
【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	0	0	0	0	0	63	102	108	114	124

※少年剣道、地域町内会の卓球が定期的に利用している。ほかには、少年野球、サッカーチームの利用もある。

『南の沢児童会館』

【住 所】 札幌市南区南沢4条2丁目6-21
 【電 話】 571-2909
 【開館年月日】 昭和63年3月5日
 【敷地面積】 1,272㎡
 【延床面積】 401.85㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄南北線真駒内駅より市営バス
 (南・環96) 南沢4-2下車徒歩1分



【地域状況】

自然に囲まれた緑豊かな地域の中で、会館の向かいにはえいと公園があり子どもから大人までが利用している。小学校は、徒歩5分の近隣にあり、隣には南の沢幼稚園、会館前の幹線道路は、交通量の増加に伴い平成12年度拡張工事。このほか、毎年町内会主催の仮装盆踊大会に、子どもたちとユニークな仮装で参加し、地域の方々とのふれあいを大切にしている。

【利用状況】

利用児童は、南の沢小学校の子どもたちが中心で、日々にぎやかな声が響き渡っている。現在会館では、復活ボンバーの人气が高く、「ボンバータイム」を設け低学年から高学年までが一緒になり毎日白熱したゲームを展開している。また、パッチも人气があり、友達同士で対戦を繰り返し、腕を上げている子どもたちも多く、楽しそうな笑顔が見られる。

【特色のある事業・遊び】

「みなみのさわ探検隊」として、隊員が毎月自分の足で歩き、地域の様々な事を調査している。今まで気づけなかった「南の沢」での小さな再発見を喜んでいる。また、子どもスタッフ運営の「チャキチャキまつり」を開催し、地域へのPRも図っている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					9	17	21	26	55

※開設当初、学童保育からの移行児童が多く、父母会からの強い要望により、「おやつ」の時間が設けられ現在も続けられている。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
117	165	137	147	123	101	125	126	124	119

※少女バトントワリング、少年空手が定期的に利用し、そのほか、少年剣道・地域町内会などの利用があり、幅広く活用されている。

『あけぼの児童会館』

【住 所】 札幌市手稲区曙9条1丁目9-40
 【電 話】 685-4821
 【開館年月日】 昭和63年3月5日
 【敷地面積】 1,200㎡
 【延床面積】 467.13㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 JR手稲駅よりJRバス曙9-1
 下車徒歩1分

【地域状況】

札幌市の境界線近くに位置し、左は小樽市右は石狩市となり、時には風に乗って潮の香りさえする地域である。会館の両脇は、空き地になっており夏には昆虫採集、冬には雪遊びと絶好の遊び場となっている。裏手には、さんの幼稚園があり、会館と共に絶えずにぎやかな声が響き渡っている。

【利用状況】

利用児童は、手稲山口小学校の子どもたちが中心となり、毎日にぎやかに活動している。現在一番人気の遊びは“天下”であり、低学年から高学年までが一緒になり時には中学生や高校生も参加し『天下王』を目指し白熱した戦いを展開している。ほかには、一輪車も人气があり、上手になろうと一生懸命になっている姿が、とても印象的である。



【特色のある事業・遊び】

地域の方の協力を得て「あけぼのわらしべ長者」として子どもたちが会館で育てた野菜を持ち歩き、物々交換をしている。地域の方と子どもたちが直接触れ合う良い機会となり、子どもたちは持参した物が何に変化するのか楽しみな様子で、笑顔があふれている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
22	27	41	29	26	20	29	36	41	40

※長期休み期間を利用して夏にはハイキング、冬には演劇鑑賞など日常会館では体験できないものを実施し、思い出作りの場としている。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
239	210	278	294	327	345	324	335	329	319

※なぎなた、フォークダンス、ミニバレーなどが定期的に活動を行っている。また、各町内会総会や子ども会などの利用も盛んである。

『中の島児童会館』

【住 所】 札幌市豊平区中の島2条3丁目8-1
 【電 話】 811-5215
 【開館年月日】 昭和63年4月6日
 【敷地面積】 2,500㎡（施設全体）
 【延床面積】 466.79㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート2階建
 【交通機関】 地下鉄南北線中の島駅より徒歩8分



【地域状況】

近隣は、アパート、マンション及び商店街で、一戸建ては少ない。会館の真向かいに中学校があり、また中の島神社、公園が隣接している。小学校から会館までは、地下鉄中の島駅を挟み約1kmとかなり離れている。会館裏手には、交通量の多い幹線道路があり、向かいから来る子どもたちのために、ユニークな地下歩道が設置されている。

【利用状況】

利用児童は、中の島小学校の子どもたちが中心で、男の子が多くとてもにぎやかである。現在会館では、「かたき」の人气が高く、高学年の男子を中心に盛り上がっている。また、女子は竹がえしやごっこ遊びなど自分たちで色々な遊びを考えながら楽しく遊んでいる。ほかに、日常行事として毎月様々な種目に挑戦する「チャレンジランキング」も好評である。

【特色のある事業・遊び】

老人福祉センターとの複合館の特色を生かし、開館当初から様々な合同行事を年数回実施している。その中でも、毎年夏の終わり頃に行う「ふれあい遠足」では、子どもたちとお年寄りが野外炊事や交流ゲームをとおして、地域の世代間交流を図っている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
37	37	28	30	24	22	20	21	17	24

※開館と同時に、中の島小学校児童育成会から移行。クラブ員の保護者で組織する父母会の要望により、毎日「おやつ」の時間を設けている。また、父母会による「クリスマス会」や「お別れ会」などを実施している。



【時間外開放】

運営委員会がなく、開放していない。

『丘珠たから児童会館』

【住 所】 札幌市東区北35条東23丁目7-10
 【電 話】 784-8095
 【開館年月日】 平成元年2月18日
 【敷地面積】 1,303㎡
 【延床面積】 475.25㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄東豊線新道東駅より市営バス(東76)北34東23下車徒歩3分

【地域状況】

札幌新道と丘珠空港に挟まれた一戸建て住宅地の中にあり、大型店舗が近接するなど便利な立地条件。

小学校は、徒歩15分と離れた所にあるが、会館の隣りには、たから公園があり幼児から大人まで多くの人に利用され遊びの拠点となっている。また、年一回の開館記念行事ではもちつきを行い、地域の方の協力で子どもたちとの交流を図っている。

【利用状況】

利用児童は、栄南小学校の子どもたちが中心であるが栄南中学校の子どもたちもバスケットを目的に来館している。午前中は、地域開放を行い、ミニバレーやバドミントンなどの利用でにぎわっている。

現在会館では、復活ボンバーの人气が高く、合同行事にも取り入れられ、それを目的に来館する子どもも多く、大勢で楽しんでいる。



【特色のある事業・遊び】

開館記念行事「たからカーニバル」としてもちつきやゲーム・マーケットなど多くの方が楽しめる内容を子どもスタッフと共に行い、地域へのPRを図っている。

「施設との交流会」では、老人保健施設を訪問し、お年寄りとのふれあいの時間を設けている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
14	13	16	14	21	14	10	11	18	23

※発足より、学校方式の考えが強く「おやつ」の時間が設けられていたが、平成5年度に、遊びの中断や持ち帰りなどの理由から中止となった。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
243	250	158	138	145	231	173	184	263	159

※少林寺、スポーツチャンバラなど子ども対象の種目が多く定期的に利用され、地域の方にも幅広くまた頻繁に活用されている。

『栄西児童会館』

【住所】 札幌市東区北46条東5丁目3-13
 【電話】 752-8363
 【開館年月日】 平成2年1月19日
 【敷地面積】 1,325㎡
 【延床面積】 481.54㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄南北線麻生駅より
 中央バス(27)北45東8下車徒歩5分



【地域状況】

住宅街にあり、栄中学校、栄北小学校が目前にある。会館の敷地も広く、春には桜が見事に咲き、秋にはトンボやバッタ採りが出来るなど自然に恵まれた環境にある。平成12年には10周年を迎えるため、パート1として11年9月に「栄西まつり」を行い楽しんだ。また、12年1月には、記念行事を実施し、地域の方々にも参加してもらい10周年を祝った。

【利用状況】

栄中学校、栄北小学校が目前にあることから2校の子どもたちが多く、栄東小学校、栄緑小学校からの利用もある。遊びは、ドッジボール・かたき・一輪車、中学生はバスケットボールと体育室はいつもにぎわっている。また、ドミノも人気があり、色々と工夫を凝らして並べている。中学生の来館も多いが小学生と仲良く遊ぶ姿も見られ、大変活気にあふれている。

【特色のある事業・遊び】

3のつく日は「みんなであそぼ」ということで主に鬼ごっこ。次の日の「みんなであそボール」では主にボール遊びを行っている。月に2~3回ではあるが、回を重ねるごとに参加者が増え活気づき日常活動にもつながっている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		26	22	26	27	27	24	31	38

※栄北小、栄東小、栄緑小、栄西小の4校から来ている。後片付けは苦手だが、とても元気が良くたくましい子どもたちが揃っている。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
65	98	126	227	265	271	251	229	253	265

※剣道、空手、地域町内会とほぼ毎日利用があり、幅広く活用されている。

『厚別東児童会館』

【住所】 札幌市厚別区厚別東3条4丁目4-13
 【電話】 897-4425
 【開館年月日】 平成2年1月20日
 【敷地面積】 1,316.00㎡
 【延床面積】 484.08㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 新さっぽろバスターミナルより
 市営バス(白35)厚別中学校前下車
 徒歩5分

【地域状況】

副都心新さっぽろから徒歩圏にありながら緑豊かな住宅地にあり、会館からは北海道百年記念塔が近くに見える。小学校は徒歩8分、中学校は徒歩3分の所にある。会館周辺は、カトリック幼稚園や教会、商店が並び、近隣のくりの木公園は多くの子どもたちに利用されている。最近、高層分譲マンションが建設され、新規の利用が増えている。

【利用状況】

小野幌小学校の児童の利用が多く、低学年を中心に日々にぎわっている。現在は、こまやパッチといった伝承遊びの人気が高く、友達同士で上達を目指して日々奮闘中である。また、体育室では一輪車やミニサッカーに人気があり、検定会を実施している。厚別中学校が近隣にあるため、中学生の利用も多く、主にバスケットボールを楽しんでいる。



【特色のある事業・遊び】

地域ボランティアの庭瀬コラズンさんの協力で、開館当初から行われている「ハローイングリッシュ」は、毎月1回異国の遊びや英会話を紹介する人気行事。また、年1回地域の協力を得て、「もちつき会」を実施し、広く参加を呼びかけている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
				5	9	10	22	24	38

※平成6年度に開設以来、数年で登録者数が大きく増加している。水泳や英語などの習い事をしている子どもが多く、会館前からバスで通う子どもも多くみられる。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
88	70	102	103	85	112	94	97	116	228

※少年剣道が定期的に利用するほか、ほぼ毎日町内会のスポーツ利用で盛んに活用されている。子ども会や老人クラブなど幅広く活動している。

『新川中央児童会館』

【住 所】 札幌市北区新川3条3丁目3-21
 【電 話】 762-8433
 【開館年月日】 平成2年2月17日
 【敷地面積】 1,241㎡
 【延床面積】 491.11㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 J R学園都市線新川駅より徒歩10分



【地域状況】

新道の近くのため交通量が多く、住宅は戸建てよりもマンション、アパートなどが多い。公園は多いが、会館付近にはなく外遊びには苦慮している。

また、小学校、中学校とも徒歩5分と近接している。

年1回、地域の方の協力を得て実施している「こどもえんにち」には、たくさんの参加があり地域とのふれあいの場ともなっている。

【利用状況】

利用児童は、新川中学校、新川中央小学校の子どもたちが中心である。体育室では、バスケットボール、かたき、一輪車の人気が高く、いつもにぎやかである。また、カードゲーム、紙飛行機作りも人気があり、子どもたち同士で良く遊ぶ工夫の情報交換をしている。こま、けん玉に挑戦する子どもも多く、日常活動の遊びとして定着している。

【特色のある事業・遊び】

集団遊びをテーマにした「みんなであそぼう」や工作をテーマにした「ちゃおちゃおつくっちゃお」の行事の中で、仲間作りや異年齢交流を行い、手作りの良さを楽しんでいる。また、毎年実施している開館記念行事では、人形劇などの公演も行っている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			29	26	25	34	36	44	42

※近隣の新川保育園の卒園児童の入会が多いため、クラブになじみやすい。クラブに対するニーズは高く定員を超える年度もある。

【時間外開放利用件数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
184	325	332	283	312	272	239	270	341	295

※スポーツ少年団、子ども会、町内会などの利用があり、幅広く活用されている。

『発寒児童会館』

【住 所】 札幌市西区発寒7条7丁目7-30
 【電 話】 666-0206
 【開館年月日】 平成2年12月18日
 【敷地面積】 1,200㎡
 【延床面積】 482.76㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 J R発寒中央駅より徒歩15分
 地下鉄東西線宮の沢駅より徒歩15分

【地域状況】

地下鉄宮の沢駅の開通に伴い、大きなマンションが建ち並び、大型スーパーが建設され、交通量も増加するなど地域の状況に大きな変化が見られる。会館から徒歩5分程の所に小学校、中学校、西区体育館、開拓の様子を知ることができる「みとべ記念館」などがある。また、会館の向かいには、岩でできたみとべ公園があり、毎日子どもたちの歓声にあふれている。

【利用状況】

午前中は、幼児と保護者の遊びと交流の場として、午後からは、発寒西小学校の子どもたちを中心として利用されている。館内では、こま、けん玉、将棋、なりきりごっこ遊び、一輪車などの遊びが盛んに行われている。現在は、天下の人気が高く、小学1年生から高校生までと一緒に、毎日の「天下タイム」を楽しみ交流を深めている。



【特色のある事業・遊び】

低学年から中学生までの子どもたちが企画実施する会館夏まつり「発寒自由ランド」。もちつきやゲームなどを子ども会リーダーを中心に行う地域子ども会との交流事業「発寒っ子の輪」などが行われ、地域で育つ多くの子どもたちの関わりを深めている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
15	25	30	32	39	35	37	34	34	49

※平成11年度よりクラブの父母主催の事業を始め、1回目は「きもだめし」を行った。クラブの子どもたちはもちろんのこと、一般来館児童にも好評だった。

【時間外開放利用件数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
15	74	79	38	80	80	192	231	150	201

※地域子ども会打ち合せ、町内会会議、西区新体操クラブなどの利用があり、地域の人々に多く利用されている。

『柏丘児童会館』

- 【住所】 札幌市白石区平和通8丁目北3-44
- 【電話】 865-7520
- 【開館年月日】 平成2年12月20日
- 【敷地面積】 1,200㎡
- 【延床面積】 485.39㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄東西線南郷7丁目駅より
市営バス(白25)平和通8下車徒歩10分



【地域状況】

閑静な住宅街と企業が混在する地域の中に、保育園や中学校などの文教施設に囲まれた一角にある。近くには、平和通などの幹線道路が走り交通の便に恵まれている。会館の向かいには緑豊かな平和通公園があり、子どもたちの歓声が響いている。また、この公園で町内会主催の運動会をはじめ、盆踊り大会などの行事も行われ町内会活動も活発な地域となっている。

【利用状況】

利用児童は、近隣の本通小学校の子どもたちが中心となっている。ドッジボールをはじめスポーツやトランプゲームなどを小学生だけでなく、中学生と一緒に遊び館内に子どもたちの歓声が響いている。

また、午前中は、子育て支援事業から誕生した子育てサークルが、毎日のように利用し活動している。

【特色のある事業・遊び】

平成11年度の開館記念行事の発表に向け、歌や踊りを練習する「柏丘アフターズスクール」が週1回開かれ、メンバーは練習に熱が入っている。また、1日5回のバスケットシュートをし成功数を記録する「フリースローランキング」も盛んに行われている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	17	39	36	36	32	20	22	25	28	

※保護者からの要望で開設直後は「おやつ」の時間があったが、今はなくなっている。毎年20数名が入会し、楽しい時間を過ごしている。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	1	38	58	149	49	46	50	65	72	68

※少年剣道、野球の冬期練習が主な利用となっている。このほかに、子どもを対象とした町内会や子ども会活動などにも利用され、活用されている。

『いなづみ児童会館』

- 【住所】 札幌市手稲区前田4条4丁目2
- 【電話】 684-3072
- 【開館年月日】 平成2年12月22日
- 【敷地面積】 1,075㎡
- 【延床面積】 482.16㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 JR 稲積公園駅より徒歩15分
- 【地域状況】

近隣には、ていねプールや野球場、テニスコートなどを有する手稲稲積公園があり、地域の人々の憩いの場となっている。小学校は徒歩7分、中学校は徒歩3分の所にあり、また小学校の近くにはスーパーなどの大型店がある。現在のところ町内会に子ども会はないが、団地ごとなどで子ども向けの行事を年に数回行っている。

【利用状況】

利用児童の中心は、稲積小学校の子どもたちで「あそぶでござる」という毎日の遊びやボール遊びなどを楽しみに来館している。特に「あそぶでござる」は、数年行っていることもあり定着している。

また、ボール遊びでは、復活ボンバーが大人気で異年齢交流を深めている。そのほか、子育て支援事業により幼児と保護者の利用が増加してきている。



【特色のある事業・遊び】

「あそぶでござる」では、月ごとに工作やチャレンジゲームなどを設定し、参加する度に個人のポイントが増えるという内容で行っている。また、毎年実施している開館記念行事は、平成11年度からフリーマーケットの形態で行い、地域との交流を図っている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	26	46	46	44	46	43	29	23	35	32

※男女の区別なく仲よく遊ぶ姿が多く見られる。また、行事などにも積極的に参加し、楽しんでいる。



【時間外開放】

運営委員会がなく、開放はしていない。

『清田中央児童会館』

【住 所】 札幌市清田区清田6条2丁目10-1
 【電 話】 884-9610
 【開館年月日】 平成3年3月12日
 【敷地面積】 1,127㎡（施設全体）
 【延床面積】 502.26㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート一部鉄骨2階建
 【交通機関】 地下鉄東豊線福住駅より
 中央バス（福85）清田5-3下車
 徒歩3分



【地域状況】

比較的一戸建ての多い住宅地であり、古くから住んでいる方も多く、また地形的に独立した感もあり、まとまりのある地区である。防犯に積極的な地区として清田中央地区児童・生徒事故防止合同対策協議会が平成11年に組織された。以来「子ども110番の家」設置の呼びかけに多くの家庭が協力し、また、子ども向けに講習会を行うなど防犯対策に取り組んでいる。

【利用状況】

暑い夏の間は、プレイルームで静かに過ごすことが多い子どもたちも涼しくなるにつれ体育室へと足が向かうようになる。最近、復活ボンバーが人気となり柔らかいボールを使用することで、ほかの球技を恐がる低学年の女の子たちも進んで参加している。途中、休憩を取りながら汗びっしょりになり走り回っている。

【特色のある事業・遊び】

「ダンスクラブ」として、区の祭りやふれあいフェスティバルへの参加を楽しみに練習を行っている。その楽しさを感じ日常、自主的に練習をする姿も見られ、クラブ員以外の子どもたちも一緒に音楽に合わせて体を動かし楽しんでいる。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						6	8	20	23	26

※平成7年度より開設され、年々登録者数が増えている。長期休み期間には、館外活動も行われ、子どもたちも楽しみにしている。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	0	0	0	0	25	14	14	21	22	12

※連絡所・総合会館との併設のため、町内会の会議などの利用は少ない。体育室を使用するよさこいソーランや剣道などの練習に利用されている。

『北光児童会館』

【住 所】 札幌市東区北18条東5丁目18-42
 【電 話】 753-6353
 【開館年月日】 平成3年4月13日
 【敷地面積】 1,500㎡（施設全体）
 【延床面積】 480.88㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート一部2階建
 【交通機関】 地下鉄南北線北18条駅より
 市営バス（東62）北18条東4下車
 徒歩1分

【地域状況】

北光らいらっく公園に隣接し、徒歩5分程の所には美香保公園もあり、遊びの環境には恵まれている。

会館前は北18条通で、交通量は多い。北光連絡所、北光会館、お年寄り憩いの家と同一建物にある複合館である。平成9年より、北光会館を利用している地域の老人クラブ「光寿会」との合同行事を持つなど交流を深めている。

【利用状況】

利用児童は、美香保小学校の子どもたちが多く、大半をしめている。最近、復活ボンバーに人気があり体育室は毎日元気な声で一杯である。また、毎日午後4時30分からは「みんなで遊ぶ時間」を設け、体育室でレクゲームやスポーツなどをして遊んでおり、定着してきている。小学1年生から中学生までが全員で遊ぶため、異年齢交流も活発である。



【特色のある事業・遊び】

地区会館との複合館である特性を生かし、地域のお年寄りとの交流会を持っている。「ありがとうおじいちゃん、おばあちゃん」と題し敬老の日前後に行っている。一緒にゲームを行ったりクラブの発表をしたり、お年寄りの方にも楽しんで頂き大変喜ばれている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		33	34	23	28	22	26	33	39	33

※親子行事などにも積極的に参加する姿が見られる。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		0	0	0	0	192	223	226	210	195

※北光連絡所で管理、運営している。

空手、少林寺拳法、中国武術などの利用がある。

『宮の沢児童会館』

- 【住所】 札幌市西区宮の沢1条5丁目11-25
- 【電話】 666-5323
- 【開館年月日】 平成3年12月19日
- 【敷地面積】 1,518㎡
- 【延床面積】 482.86㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄東西線宮の沢駅より徒歩15分
JR 発寒駅より徒歩15分



【地域状況】

古くからの住宅地で、高齢者の人口が多く老人クラブ、町内会の活動が盛んである。昔は畑、牧場地が多く、今でもポプラ並木に囲まれた道路やレンガ作りのサイロから名残が感じられる。反面、平成11年3月に地下鉄宮の沢駅が開通したことにより、マンションや大型スーパーなどが増えており、今後若い世代の家族が増加すると思われる。

【利用状況】

利用児童は、西小学校、手稲宮丘小学校の子どもたちが中心で、近年は幼児の利用も増えている。

こま、けん玉などは学年を問わず常に人気があり、最近ではマンカラが人気沸騰中である。また、外遊びも盛んで、土を掘りおこして大きな川を作ったり宝探しをしたり、冬には迷路やかまくら作りなど元気に遊んでいる。

【特色のある事業・遊び】

探偵修行として行っている「お宮探偵事務所」では地域を探検して大人の方の協力も得ながら、様々な事を体験し解決していく中で仲間作りをしている。また、クラブ活動やお祭りなど子ども自身が中心となり行っている行事も多く取り入れている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
登録者数			9	14	20	22	28	32	43	59

※この数年で、登録者数が増加している。西小の児童がほとんどで、手稲宮丘小からは距離があり、30分以上も要するため、利用が少ない。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
利用件数		30	130	146	143	105	130	120	120	118

※剣道、空手が定期的に利用している。また、地域の行事や敬老会などでも利用され始めている。

『里塚児童会館』

- 【住所】 札幌市清田区里塚2条3丁目12-23
- 【電話】 881-4822
- 【開館年月日】 平成4年3月18日
- 【敷地面積】 1,365㎡
- 【延床面積】 482.86㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄東豊線福住駅より
中央バス(福96)桂台団地下車徒歩5分

【地域状況】

旧36号線から少し入った住宅街にあり、会館付近は高齢者が多い。地域内には団地が点在し、また開発が進められている地域には、小さな子どものいる家庭が多く見られる。小学校、中学校、幼稚園などはいずれも徒歩15~20分程の所に位置している。また、祭りや伝承遊びなどの行事には、地域のお年寄りが積極的に参加し、子どもたちとの交流を深めている。

【利用状況】

利用の中心は平岡南小学校の子どもたちであり、現在中・高校生の利用は少ない。子どもたちは人なつこく物おじしない子が多く、行事や新しい遊びに積極的に挑戦している。特に、最近ではダンス系の遊びに人気があり、音楽に合わせて楽しそうに踊る姿が見られる。静的な遊びでは、ドミノやブロックに人気があり様々な大作を作って楽しんでいる。



【特色のある事業・遊び】

月1回ボランティア活動などを行う「それゆけ！さとふれ隊」を実施。病院内のデイケアセンターを訪問しお年寄りやゲームをしたり、空き缶収集などを行っている。また、毎年9月頃には子どもスタッフと地域の方の協力による祭りを実施し喜ばれている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
登録者数			26	36	37	38	39	47	43	50

※登録児童の多くは近隣の市営住宅に住んでおり、毎年登録者数は多い。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
利用件数			0	26	21	52	29	76	46	80

※社交ダンス、空手サークルが定期的に利用している。各町内会毎に会館を持ち活動しているため、会館を利用する団体は少ない。

『月寒児童会館』

- 【住 所】 札幌市豊平区月寒西1条6丁目3-21
- 【電 話】 851-6433
- 【開館年月日】 平成4年3月21日
- 【敷地面積】 700㎡
- 【延床面積】 499㎡
- 【建築構造】 鉄筋コンクリート一部2階建
- 【交通機関】 地下鉄東豊線月寒中央駅より徒歩5分



【地域状況】

月寒地区の中央部に位置し、国道が近くを走っていることもあり交通量が多く、地下鉄駅も真近にあり一戸建て、マンション、アパートなどの住宅地となっている。また、国道沿いは商店街であり大型スーパーなど大規模な商業施設も多い。近隣には、月寒公園をはじめ比較的大きな公園があり、地区公民館、連絡所や交番、消防署、月寒体育館などの公共施設がある。

【利用状況】

月寒小学校、南月寒小学校の児童が中心であり、毎日子どもたちの元気な声が響いている。ごっこ遊びやサッカー、ゲームなど思い思いの遊びや一輪車を頑張る姿も多く、行事を目的に来館する子どもたちも見られる。

常時ぬりえや簡単な紙工作ができるため、時間をかけて取り組む子どもたちも多い。また、午前中の親子の利用も多く、楽しそうに遊ぶ姿が見られる。

【特色のある事業・遊び】

様々な種目に挑戦する「ギネスにチャレンジ」、自由な発想を大切にしたい工作「できるかな」など、子どもたちは積極的に挑戦し真剣に取り組んでいる。また、地域での子育てを考えるための「つきさむ子育てセミナー」の開催により、地域や親との連携を図っている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		25	34	37	45	49	44	57	54

※開設以降登録者数が毎年増え、特に地下鉄東豊線の開通による人口の増加もあり、定員を超える状況となっている。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		27	123	137	144	130	229	161	104

※少林寺拳法、空手の定期的な利用のほかに、地域のスポーツ少年団、サークル活動、子ども会活動などの利用があり幅広く利用されている。

『西岡高台児童会館』

- 【住 所】 札幌市豊平区西岡4条11丁目2-20
- 【電 話】 581-5394
- 【開館年月日】 平成4年12月15日
- 【敷地面積】 1,200㎡
- 【延床面積】 471.87㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄東豊線月寒中央駅より中央バス（月82）西岡3-8下車徒歩5分

【地域状況】

水源地通りより少し中に入った会館周辺は、核家族と一・二世帯の一戸建てが多く、静かな環境である。そのため水源地沿いには小・中学校をはじめスーパーや金融機関、病院なども多い。また、近隣には西岡高台公園やぬまた公園を中心に、会館正面からは西岡水源地が見渡せる位置にあり、子どもたちの遊ぶ用地が整い、幅広い年齢層の憩いの場となっている。

【利用状況】

西岡南小学校、西岡小学校の子どもたちが来館し、様々な遊びを展開している。静かに遊ぶ子どもたちは、プレイルームでのゲームを楽しんだり、最近はやとりや竹がえしなどの伝承遊びも流行している。

その反面、体育室ではボールなどを使った遊びを好み、風船バレーやスポンジボールを使ったかたきなどの活動的な遊びもよく行っている。



【特色のある事業・遊び】

「高台協力隊」では、“できることから始めよう”をテーマにリングプルや古切手などを集めたり、体の不自由な人の立場を考えるなど遊びを取り入れながら活動している。最近では、活動が地域に周知されたためか、リングプルなどを持って来て、協力してくれる動きもある。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			19	14	16	9	18	23	30

※とても個性的で、パワーあふれる子どもたちが多い。行事にも積極的に参加し、楽しむ様子が見られる。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		4	54	95	121	138	157	171	162

※少年剣道、絵画教室、地域の方たちの社交ダンスが、定期的に利用している。町内会活動など地域の方も有効に利用している。

『常盤児童会館』

- 【住所】 札幌市南区常盤 2 条 2 丁目 17-23
- 【電話】 592-6091
- 【開館年月日】 平成 4 年 12 月 16 日
- 【敷地面積】 1,680㎡
- 【延床面積】 482.87㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄南北線真駒内駅より
中央バス（101）常盤中学校前下車
徒歩 5 分



【地域状況】

石山陸橋から国道453号線沿いに約3kmに渡って一戸建て中心の住宅が続く。近年住宅地開発が始められた地域で、滝野すずらん丘陵公園や真駒内川に代表されるように、自然が色濃く残っている。また、札幌芸術の森、市立高等専門学校など芸術関連施設が設置され、住民の芸術に関する関心も高く芸術関連の工房も多数存在している。

【利用状況】

小学生の利用は、常盤小学校の児童がほとんどで、中学生も比較的多く来館する。地域柄、保護者の車で送り迎えで遊びに来る子どもも少なくない。

体育室では、復活ボンバー、バスケットボールが盛んで、プレイルームでは日常の検定をきっかけに、こま遊びが流行している。また、会館横の広い空き地を利用しての外遊びも充実している。

【特色のある事業・遊び】

日常の遊びとしては毎日、こま、けん玉、一輪車の検定を行っており、たくさん子どもたちが挑戦している。また、年間をとおして“自然”をテーマに、「ときわ自然ワールド」を開催している。

【児童クラブ年度別登録者数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			11	13	13	16	14	14	20

※開設当初学童保育からの移行の関係で、長期休み期間中に限定はしているが、「おやつ」の時間を設けている。

【時間外開放利用件数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		1	12	110	107	56	62	48	88

※地域で、無料で使用出来る町内会館などが多く、利用は少ない。

『エルムの森児童会館』

- 【住所】 札幌市北区北27条西12丁目1-35
- 【電話】 737-3974
- 【開館年月日】 平成 4 年 12 月 17 日
- 【敷地面積】 2,520㎡（エルムの森公園の敷地内）
- 【延床面積】 489.68㎡
- 【建築構造】 木造モルタル一部2階建
- 【交通機関】 地下鉄南北線北24条駅より徒歩15分
- 【地域状況】

エルムの森公園内に建設された会館であり、周囲の住宅形態は、マンション、アパートなどの集合住宅が主である。会館周辺の交通量も多い。

午前中は、体育室を利用する地域の方のスポーツや幼児サークルの活動が盛んである。

【利用状況】

来館児童は、小学校の低学年を中心にスポーツや遊びに積極的に取り組む姿も見られる。また、中学生はバスケットボールを目的に来館している子どもが多い。



【特色のある事業・遊び】

「エルムまつり」では、会館の誕生日を祝うと共に会館に対する愛着心を育てる機会として、開館記念行事を実施している。地域の協力と参加を呼びかけ、地域の方との交流を図っている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			23	37	37	39	43	48	66

※白楊、新陽、北陽小学校3校に位置し各学校の児童が登録している。人数も常に定員数を超え、多くの子どもが登録している。

【時間外開放利用件数】

H 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		28	176	231	240	228	239	248	234

※ミニバレー、剣道、社交ダンス、空手、少林寺拳法が定期的に利用している。

『栄通児童会館』

- 【住 所】 札幌市白石区栄通 6 丁目 19-12
- 【電 話】 853-5706
- 【開館年月日】 平成 4 年 12 月 18 日
- 【敷地面積】 1,640㎡
- 【延床面積】 482.87㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄東西線南郷 7 丁目駅より徒歩 8 分



【地域状況】

会館横には、サイクリングロード、正面にはアサヒビール工場があり、地下鉄沿線にあるためマンションが立ち並び市営住宅や民家などが混在する。南白石小学校に通う子どもの多くが、サイクリングロードを利用して登下校している。

また、近所には白石区体育館があるため、多くの子どもたちが利用している様子が見られる。

【利用状況】

利用校の主体は南白石小学校、南郷小学校の 2 校の児童が利用の 9 割以上を占めている。

行事のほかに、常時行える、「チャレンジコーナー」と「手芸コーナー」を設けている。特に、手芸コーナーは持ち帰ることができるということで人気がある。また、午前中も子育てサークルなどが連日來館し、にぎやかな交流の場となっている。

【特色のある事業・遊び】

親子行事の「ピヨピヨタイム」では、年間プログラムに沿って実施し、毎回好評を得ている。

高学年を中心に“天下”が人気である。また、敷地の広さを生かしての外あそびが 1 年をとおして盛んである。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			7	8	21	15	25	15	15

※毎年傾向であるが、入会児童が少ない。

近隣 2 校に育成会があり、ほか 1 校は児童数が少ないことが理由と考えられる。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		23	150	188	118	181	159	165	140

※空手、社交ダンスを中心に利用されている。また、よさこいソーランのグループの練習会場としても利用されている。

『平和児童会館』

- 【住 所】 札幌市西区平和 1 条 5 丁目 1-27
- 【電 話】 667-3359
- 【開館年月日】 平成 4 年 12 月 22 日
- 【敷地面積】 1,200㎡
- 【延床面積】 471.76㎡
- 【建築構造】 木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄東西線発寒南駅より市営バス（西42）平和 1-5 下車徒歩 1 分

【地域状況】

周囲は自然にあふれ、ピノキオ公園、風の子橋公園、西野南公園、中州橋公園などの公園に恵まれている。また、冬には雪にも恵まれ遊びには事欠かない環境である。そのほか、地域との交流として運営委員会、地区連絡所、町内会女性部、子ども会などと連絡を密にすることで協力体制を図っている。その一つとして、町内会主催の仮装盆踊りへの参加がある。

【利用状況】

利用している子どもたちは、平和小学校を中心に福井野小学校、西野第二小学校、福井野中学校、西野中学校、そして地域の高校生である。現在会館では、行事をきっかけに高学年がリーダーシップを発揮する場面が見られ、ドッジボールを中心に中学生を含め異年齢での遊びを楽しんでいる様子である。



【特色のある事業・遊び】

「自然とあそぼう」と題し、ティピー作りや水鉄砲作りなど自然を利用し日常遊びへと展開している。

また、「子どもまつりフリーマーケット」では、子どもスタッフ、子ども会、子育てサークルの 3 つの枠で実施するなど地域が参加できる事業を担っている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			11	16	23	27	26	26	23

※保護者の関心も高く、できる範囲で運営に協力を得ている。

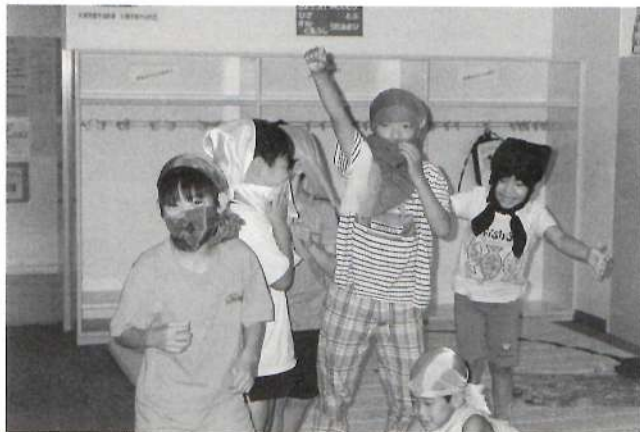
【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		32	191	174	160	176	160	158	158

※剣道、少林寺拳法などが利用し、地域の注目を集めている。また、地域町内会や子ども会などの利用があり、幅広く活用されている。

『天神山児童会館』

【住所】 札幌市豊平区平岸1条19丁目2-55
 【電話】 816-0388
 【開館年月日】 平成5年12月16日
 【敷地面積】 1,440㎡
 【延床面積】 480.63㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄南北線澄川駅より徒歩7分



【地域状況】

会館の裏手には、天神山緑地があり四季おりおりの花々が咲き、来館者の目を楽しませている。

小学校2校は近隣に位置し、徒歩10分程度の距離である。また、中学校は真近にあるためか、小学生より中学生の利用が多い日も見られる。

【利用状況】

午前中は、子育てサークルの利用が盛んであり、土曜日を除く全ての日が活用されており、幼児たちの元気な声が響いている。

午後になると、体育室では、サッカー・復活ボンバー・バスケットボールなどが盛んである。一方、プレイルームでは、トランプや将棋などの遊びが行われ、小学生から高校生までが一緒になり遊ぶ姿が見られる。

【特色のある事業・遊び】

会館の敷地内にて、地域の方々と子どもたちが一緒に「畑作り」を行っている。植え込みから収穫まで、参加した全員が植物の成長を楽しみにし、水まきや雑草取りなどを、積極的に行う姿が見られる。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					10	12	16	13	27	30

※近隣2校の小学校の児童が入会している。
 天気の良い日は、全員が外遊びを楽しんでいる。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					88	89	69	75	77	119

※ミニバレー、少林寺拳法の利用が多く、最近は、町内会での会議などの利用もある。また、冬期には、少年野球のトレーニングの場として活用されている。

『東苗穂児童会館』

【住所】 札幌市東区東苗穂5条2丁目2-10
 【電話】 786-3191
 【開館年月日】 平成5年12月22日
 【敷地面積】 1,345㎡
 【延床面積】 480.52㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 バスセンターより市営バス（東6）東苗穂4-3下車徒歩5分

【地域状況】

道路を隔てて東苗穂小学校があり、毎日元気な声が響いている。会館当初は、玉ねぎ畑に囲まれた会館であったが、ここ数年の間に会館正面にマンションなどが建ち並び、下校時の子どもたちの姿が見えづらくなり残念である。徒歩2分の所に東苗穂公園があり、季節を問わず築山、グラウンドなどを利用して遊んでいる。

【利用状況】

午前中は、子育てサークルの利用があり、朝早くからにぎわっている。午後は、東苗穂小学校の子どもたちを中心に、様々な遊びが繰り広げられている。復活ボンバー、こま、パッチ、ぬりえなどに人気が集まっている。また、札幌中学校の生徒もバスケットボールを目的に来館しているが、その時間以外は小学生とボールを楽しんだり、ダンスを踊る姿もよく見られる。



【特色のある事業・遊び】

「ひなぼんず」と題し、木工作とダンスのクラブを実施。ダンスクラブは回を重ねるごとに上達し、館全体を巻き込みダンスブームを巻き起こした。また、会館記念行事「ひなぼんフェスティバル」も毎年好評で、子どもたちと地域スタッフが一体となり取り組んでいる。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					6	13	17	24	21	32

※年を重ねるごとにクラブの存在が地域に浸透し、登録者数が増えてきている。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					10	54	147	119	85	52

※隣の小学校で学校開放を実施していることもあるのか利用は少ない。しかし、春になると、よさこいソーランの練習などで活用されている。

『真駒内五輪児童会館』

【住 所】 札幌市南区真駒内泉町3丁目1-6
 【電 話】 581-1823
 【開館年月日】 平成6年3月10日
 【敷地面積】 800㎡
 【延床面積】 480.82㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート一部2階建



【交通機関】 地下鉄南北線真駒内駅より徒歩10分
 【地域状況】

公営団地とマンションと一戸建てが建つ住宅の中にある。特に公営団地が大変多く、転出入も多い。近隣には、区民センター、福祉会館、町内会館などの公共施設が多くあり、公園も数多くある。

野外映画会、もちつき大会などで、地域の方々との交流をしている。

【利用状況】

来館児童は、真駒内小学校、真駒内緑小学校、真駒内南小学校の子どもたちが中心である。また、真駒内駅の近くにあるため、藤野方面の高校生もバスへの乗り継ぎの待ち時間に利用している。

障害を持った子どもたちの利用も多く、養護学校、特殊学級の児童も保護者同伴で遊んでいる。

【特色のある事業・遊び】

けん玉、まりつき、ジターリングなどの検定は常時行っている。また、一日30分程来館者全員でゲームを行い、異年齢の交流を図っている。お泊まり会には80名以上の参加があり、平成11年度はそれに加え定山溪自然の村での高学年対象の宿泊行事も実施した。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					12	30	30	36	47	62

※3小学校から来ているが、真駒内小は遠いこともあり、2～3年生になると退会する児童が多い状況。

【時間外開放利用件数】

※運営委員会がなく、時間外開放はしていない。公共施設が多いため、地域では特に必要としていないようである。



『もみじ台ふれあい児童会館』

【住 所】 札幌市厚別区もみじ台東7丁目9-1
 【電 話】 897-4760
 【開館年月日】 平成6年12月15日
 【敷地面積】 1,080㎡
 【延床面積】 480.43㎡
 【建築構造】 木造一部2階建
 【交通機関】 地下鉄東西線新さっぽろ駅より市営バス(白28)もみじ台団地下車徒歩2分

【地域状況】

閑静な住宅地の中央に位置し、落ち着いた立地ではあるが、会館周辺の住宅は高齢者のみの世帯が圧倒的であり、子どもたちは少し離れた市営住宅から来館している。小・中学校共に児童・生徒数は年々減少傾向にある。会館に対する地域のバックアップ、協力体制がとても強力であり、地域の方々とのふれあい交流が非常に盛んである。

【利用状況】

幼児からお年寄りまで幅広い年齢層の利用者たちであり、3世代に渡り利用されているというのも珍しい。現在会館では、かたきが流行しており、低学年から中学生までが連日、汗をびっしょりかきながらも一緒に楽しんでいる。異年齢間の交流、遊びがごく自然に行われ、アットホームな雰囲気の中、子どもたちのにぎやかな声が響き渡っているという状況である。



【特色のある事業・遊び】

行事の大半は、地域の方々を巻き込んで行っている。特に「ふれあい工房」は地域在住者より講師を発掘し、昼は子ども向け、夜は大人向けにワークショップを実施。もちつき、パークゴルフ大会、フリーマーケットやお泊まり会など地域の協力なしでは実施できない内容である。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						9	11	19	20	32

※長期休み期間には、クラブ行事として「わくわくどきどきごーどおでかけツアー」を実施。公共の乗り物を利用し出掛けている。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					39	107	165	145	142	164

※毎週水曜日を無料開放の日とし、囲碁、将棋、卓球、俳句などで利用されている。また、ダンス、剣道、地域町内会など幅広く活用されている。

『円山西町児童会館』

【住 所】 札幌市中央区円山西町8丁目1-50
 【電 話】 611-1980
 【開館年月日】 平成7年3月14日
 【敷地面積】 687㎡
 【延床面積】 480.80㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート一部2階建
 【交通機関】 地下鉄東西線円山公園駅より
 市営バス(西15)円山西町2下車
 徒歩1分



【地域状況】

円山公園風致地区に位置し、自然豊かな環境の中にある。古くからの住宅地で一戸建ての多い静かな地域だが、会館前の道路は交通量が多い。小学校は、徒歩30分の所にあり、道のりは起伏が激しいため、冬の利用は減少傾向にある。隣には、小公園があり来館児童も有効に利用している。

【利用状況】

大倉山小学校の児童の利用が主であるが、小学校区の端に会館が位置するため来館できる子どもは限られている。現在の遊びの流行は、復活ボンバーを中心に体を動かすものが人気である。午前中の幼児と保護者の利用はあまり多くはないが、会館の行事や子育てサークルでの定着した利用が見込まれ、そのほかの日常の利用も少しずつ増加してきている。

【特色のある事業・遊び】

「まる西体験隊」として、「自分たちの住む地域を知ろう」と円山西町、宮の森地区を様々なテーマを持って訪ね、学び楽しんでいる。校区が広いため、初めて知る場所や事柄も多く子どもたちも、毎回意欲的である。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						2	8	9	13	17

※開設当初より登録児童は多くはないが、年々少しずつ増加している。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					3	25	157	60	47	30

※開館当初は利用数も多かったが、平成9年に町内会館が建ったこともあり、現在は減少傾向にある。定期的な利用は町内サークル、野球少年団のみである。

『上篠路児童会館』

【住 所】 札幌市北区百合が原9丁目9-11
 【電 話】 774-2050
 【開館年月日】 平成7年3月15日
 【敷地面積】 957㎡
 【延床面積】 480.24㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート一部2階建
 【交通機関】 JR篠路駅より徒歩10分
 【地域状況】

住宅街に位置する会館は、昔は地域一帯が農耕地だったため、今でも会館の裏手には畑が広がっている。会館周辺の住宅は築年数が経った家が多いが、少し離れた地域には新興住宅街が次々と作られている。

会館から小・中学校は徒歩30分程あり、近いとはいえないが、近隣子どもたちや時間内利用の方々にとっては、大切な交流の場となっている。

【利用状況】

来館児童は、上篠路小学校の子どもたちが中心となり、毎日元気に遊ぶ声が館内に響いている。小・中学校から離れていることもあり、利用人数は多くはないが、異年齢での遊びが盛んである。特に、人気のある遊びは、体育室での復活ボンバーやかたき、プレイルームでは、トランプなどのゲームがよく見られる。



【特色のある事業・遊び】

毎年恒例となっている「ポポントまつり」では、子どもスタッフが中心となり企画や準備、当日のコーナーや出店の運営をしている。毎年多くの方々に参加し、地域に根ざした行事となっている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						9	13	17	15	15

※小学校から離れた場所にあるため、登録者数はやや少なめだが、子どもたちにとっては大切な生活の一部になっている。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						102	104	87	109	161

※平成11年度から利用が増え、地域の方々がミニバレー、少林寺拳法、よさこいソーランなどの練習で頻繁に利用している。

『美しが丘児童会館』

【住 所】 札幌市清田区美しが丘5条6丁目1-5
 【電 話】 885-9766
 【開館年月日】 平成7年12月15日
 【敷地面積】 1,280㎡
 【延床面積】 480.29㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄東豊線福住駅より
 中央バス(88)美しが丘5-6より
 徒歩1分



【地域状況】

里塚霊園まで50mという場所にあり、緑も多く大小様々な公園に囲まれた地域にある。近隣の小学校は徒歩50歩という近さにあり、このほかに幼稚園や小学校、中学校など教育施設も多い。ここ数年で急激に人口が増え開発も進み、平成13年には、更に250世帯の増加が予定されている。また、町内会との共催行事としてパークゴルフなどを実施している。

【利用状況】

新興住宅街ということで、若い家族が多く会館を利用する子どもも多い。来館者の中心は小学生、中でも低学年の利用が半数を占めている。スポーツ、伝承遊び、ゲームなど遊びに対する興味が強く、自分たちで遊びを発展させる力もある。現在会館では、復活ボンバーが人気で、低学年から中学生までが参加し汗を流している。

【特色のある事業・遊び】

「みんなであそぼう」として、集団遊びやスポーツを低学年から高学年までが一緒に行っている。子どもたちからのリクエストなども取り入れながら、毎日内容を変化させながら実施している。また、工作会では身近な素材を利用し制作する楽しさを体験している。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						25	37	50	54

※保護者の多くがフルタイム勤務のため、午後5時以降に帰宅する子どもたちが多い。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					4	89	155	157	149

※少年少林寺拳法、空手、スポーツチャンバラが定期的に利用し、そのほか子ども会の利用がある。

『八軒北児童会館』

【住 所】 札幌市西区八軒8条西6丁目1-20
 【電 話】 644-3643
 【開館年月日】 平成7年12月19日
 【敷地面積】 1,138㎡
 【延床面積】 480.23㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄東西線琴似駅より
 市営バス(西40)八軒6西5下車
 徒歩7分

【地域状況】

落ち着いた住宅街の中で、会館は八軒北小学校と北っ子公園に隣接して建ち、八軒中学校も近隣にある。農試公園が近く、夏場はちゃぶちゃぶ広場を利用しての水遊びが盛んである。町内会の活動では、新川左岸通りをはじめ会館前の通りにも花が植えられ「コスモスロード」として親しまれている。子どもたちも、花壇の手入れを行事をとおして体験している。

【利用状況】

来館児童の中心は八軒北小学校の子どもたちである。低学年の来館が多く、毎日元気な声が館内に響き渡っている。午後4時30分からは、みんなで遊ぶ時間を設け低学年から高学年までが一緒になり、復活ボンバー、ドッジボール、鬼ごっこなどを楽しんでいる。中・高校生の利用は少ないが、バスケットボール以外でも小学生と一緒に遊ぶなど和やかな雰囲気である。



【特色のある事業・遊び】

毎年夏至の日に「ゲッシーカーニバル」を行い、閉館時間を日没時刻とし様々なプログラムを展開している。また「発見タウンタウン」では子どもたちが地域に出向いたり、地域の方々を会館に招くなど、交流を図りながら地域への関心を高めている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						8	7	13	26

※八軒北小の児童が大部分を占め、1年生が7割を超える。3年生は少なく、退館時刻が早い子どもが多い。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
					3	77	120	180	259

※ダンス、ヨガ、空手サークルが定期的に利用するほか少年バスケットボールチームや町内会の活動の場として、利用が年々増加している。

『新発寒児童会館』

【住所】 札幌市手稲区新発寒6条4丁目15-1
 【電話】 685-7343
 【開館年月日】 平成7年12月20日
 【敷地面積】 1,233㎡
 【延床面積】 480.03㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄東西線宮の沢駅より
 市営バス（西75）新発寒地区センター
 下車徒歩10分



【地域状況】

交通量が多い道路に囲まれた新発寒の住宅街に位置し、近隣には新陵東小学校、新陵中学校、新発寒地区センターがある。発寒公園などの遊び場も多く、子どもたちを取り巻く環境は良い。毎年恒例の地区センター主催の祭りでは、ステージ用大型壁面を子どもたちが担当するなど、地域とのふれあいが盛んである。

【利用状況】

新陵東小学校、新陵小学校、新発寒小学校の3校の子どもたちが利用しており、日々にぎやかな声が響き渡っている。現在会館では「なわとびマラソン」を低学年から高学年までが一緒になり頑張っている。

また、サッカーなどの球技を楽しむ子どもたちも増えており、高学年の利用が増加しつつある。

【特色のある事業・遊び】

開館当初から実施している「ちよろずの館」では、毎月テーマを設け、それに基づく遊びや工作などを行っている。地域の祭りの壁面作りや基地作りなどの大きな物の制作に人気があり、開館記念行事などでは意欲的に活動している。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						25	29	35	37

※比較的保護者は協力的であり、父母会や行事にも関心を持つ方が多く参加率もよい。また、習い事をしている子どもが多い。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						167	207	238	262

※空手、エアロビクス、少林寺拳法、社交ダンスなど毎日利用があり、地域の方々に幅広く活用されている。

『丘珠ひばり児童会館』

【住所】 札幌市東区北丘珠4条1丁目12-5
 【電話】 785-6137
 【開館年月日】 平成8年12月18日
 【敷地面積】 1,247㎡
 【延床面積】 479.22㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 地下鉄南北線北34条駅より
 市営バス（東76）丘珠中学校下車
 徒歩10分

【地域状況】

市内でも開拓の歴史が古く、玉ねぎ農家が多い地域である。小学校への通学方法としては、ほとんどの小学生がバス通学であり、住宅団地地域から学校までかなりの距離がある。教育機関としては、保育園、中学校、高校、専門学校があり、公共施設では、連絡所、さっぽろさとらんどがある。

【利用状況】

主に丘珠小学校の子どもたちが利用している。高学年を中心に体育室では復活ボンバーの人気の高い。低学年の女の子は、創作遊びを楽しむ場面が多く、自分たちで遊びを展開している。最近では、伝承遊びのこまが流行の兆しを見せ始めているため、今後の伝承遊びの幅の広がりが楽しみである。



【特色のある事業・遊び】

開館記念行事として「ひばりまつり」を実施。年1回の行事ではあるが、子どもスタッフによる準備やプログラムの進行があり、参加者との交流をとおして役割の達成感を感じている様子で、その後の日常活動行事でスタッフ的役割を意欲的に行うことが多い。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
							12	13	14

※共働きの家庭が多いものの、民間学童保育も近隣に設置されているため、登録者数は多くない。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						2	4	48	106

※ダンスサークル、卓球同好会、子ども会、町内会の利用があり、そのほかに、空手サークルが定期的に利用している。

『山鼻かしわ児童会館』

【住 所】 札幌市中央区南15条西8丁目1-20
 【電 話】 533-0622
 【開館年月日】 平成8年12月19日
 【敷地面積】 981㎡
 【延床面積】 480.23㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 市電行啓通より徒歩5分



【地域状況】

東屯田通、行啓通に囲まれた商業地域に位置し、周辺はマンションやアパートが建ち並ぶ住宅街。開拓当時から住人と交通の利便性から通勤族、単身者との混在地域。町内会活動のほか、行啓通商店街振興組合山鼻青年団などの古くからの地域活動が活発で、6月15日の「ふれあい広場まつり」は、札幌で唯一の歩行者天国にしての路上祭りでは会館も参加している。

【利用状況】

来館児童は山鼻小学校の子どもたちが大半で、曙小学校からもクラブ入会がある。また、柏・中島中学校の生徒も利用し小学生と共にボール、ゲームなどをおして異年齢交流が日常的に行われている。会館内では、復活ボンバーが盛んで低学年から高校生までが汗だくでボールを追いかけている。また、子ども同士で玩具を持ち込み遊び合う微笑ましい光景も見られる。

【特色のある事業・遊び】

開館記念行事「冬なのに縁日」では、子どもたちがスタッフとして1ヵ月以上も準備に取り組み、地域へのPRと運営協力も呼びかけている。また、都会の中で畑を作り「じゃがじゃが畑隊」の熱心な活動で例年盛大な収穫祭を実施している。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
							24	32	37

※近隣に学童保育所もあるが、クラブ員の9割は山鼻小児童で、曙小からも毎年入会している。学校は異なっても、保育園時代からのつながりで仲良く遊んでいる。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
						10	27	104	136

※スポーツチャンバラ、少年少女少林寺拳法サークルのほか平成11年度から、空手とサッカー少年団も加わり、連日満員御礼の利用状況となっている。

『金山児童会館』

【住 所】 札幌市手稲区金山3条2丁目1-30
 【電 話】 695-0919
 【開館年月日】 平成9年12月16日
 【敷地面積】 1,225㎡
 【延床面積】 480.23㎡
 【建築構造】 木造平屋建
 【交通機関】 JR星置駅より徒歩15分
 JRバス星置の滝下車徒歩3分

【地域状況】

鉱山として親しまれ歴史のある金山は、手稲山に続く登山道や乙女の滝、星置の滝があり、自然があふれる地域である。会館に隣接して公園があり、徒歩3分の所には手稲小学校、手稲西中学校がある。手稲ルカ病院、神愛園、星置ハイツ、道立肢体不自由総合療育センター、手稲養護学校などもある。また、会館の丘陵下を高速道路が走り200m先は小樽市である。

【利用状況】

来館児童は、手稲西小学校の子どもたちがほとんどで異年齢交流が自然に行われている。午前中は、幼児と親の利用があるほか、体育室を開放し地域の方が卓球やバドミントンに汗を流している。開館から2年を迎え、地域に会館の存在が浸透してきている。子どもたちは、工夫して新しい遊びやルールを生み出しては確立させようとする姿が見られる。



【特色のある事業・遊び】

「おまかせください親の出番」では、親の気持ちを知る、仕事の大変さと面白さを知ることなどを目的に、地域の方を講師に招き講演会を開催している。今までに星置交番の署長や看護婦をしているクラブ員の母親が講師を努めてくださった。

【児童クラブ年度別登録者数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
								21	38

※開設以前から近隣に学童保育があり、学童保育の子どもたちも会館に頻りに遊びに来ており友好関係を保っている。

【時間外開放利用件数】

H2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
							12	67	150

※大正琴、エアロビクス、ミニバレーの利用が定期的にあるほか、子ども会やミニバスケットボールの少年少女団も利用がある。幅広く活用され件数も増加している。

『あいの里ひがし児童会館』

【住 所】 札幌市北区あいの里3条7丁目9-1
 【電 話】 778-2358
 【開館年月日】 平成10年12月17日
 【敷地面積】 1,298㎡
 【延床面積】 485.34㎡
 【建築構造】 木造平屋建（ソーラーシステム導入）
 【交通機関】 JRあいの里公園駅より徒歩10分



【地域状況】

幅広い年齢層が居住する新興住宅街。教育大学などもある文教地区で子どもたちの育成にも熱心な地域。自然にも恵まれ、会館の隣のあいの里公園は、蛍の養殖やトンボの生息地としても知られている。

地域との交流も盛んで、夏まつりやマラソン、スノーフェス、そのほかにも各町内会での活動も多く、会館としても参加している。

【利用状況】

復活ボンバーやプレイルームでのゲームなど、子どもたち自ら異年齢での活動を楽しんでいる。

平成10年に開館したばかりのため、日常の遊び方やルールを子どもたちと考えながら進めている。毎日午後3時30分から15分程、子どもたちの話し合いで内容を決める「なんかしタイム」を多くの子どもたちが楽しみに来館している。

【特色のある事業・遊び】

継続したクラブや一輪車、毎日行うチャレンジゲームや伝承遊びに夢中になる子どもが多い。また、自然に恵まれた環境を生かしキャンプを実施している。地域の方々との協力による工作会や地域交流まつりへの参加などは、会館のPRにつながっているようである。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
										60

※開館前から問い合わせが多く、定員を超えている。新興住宅街で人口も増加しているため、今後も入会希望者が多いと思われる。

【時間外開放利用件数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
									40	139

※定期的には、空手、バイオリンの2団体が利用している。そのほかには、町内会、サッカー少年団などで、週に2～3回程の利用がある。

『南小ミニ児童会館』

【住 所】 札幌市南区南31条西9丁目2-1
 【電 話】 581-0191
 【開館年月日】 平成9年9月1日
 【敷地面積】 12,386㎡（学校全体）
 【延床面積】 130㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート4階建
 【交通機関】 地下鉄東西線西11丁目駅より市営バス（南4）南33西11下車徒歩5分

【地域状況】

付近に藻岩山、豊平川があり、間を割るように国道230号線が通っている。大小5つの公園が学校を囲むように点在しており、住民に広く利用されている。

南小学校の児童のみが対象の施設であることから、地域との交流や町内会とのつながりは今のところないが、子ども会や野球やサッカーなどのスポーツ少年団の活動をとおして、地域に溶け込んでいきたい。

【利用状況】

学校内に設けられた施設で、直接来館を認めていることから、毎日多くの子どもが来館し、活動室を中心に体育館、グラウンドなどで活発に活動している。体育館が広いことで、複数の遊びが同時に楽しめる利点もあり、低・高学年共に人気の活動場所となっている。

帰宅後に遊びに来る会館とは違い、学校での6・7時間目を過ごしているような印象を受ける。



【特色のある事業・遊び】

学校のグラウンドを利用した外遊びが充実している。サッカー、野球といった人数を要する遊びが気軽に楽しめることや風上げなどのスペースを要する遊びも容易に行えるため、行事の中だけでなく日常の遊びの中でも積極的に取り入れている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
								16	8	11

※直接来館を認めているため、一般来館児童との違いがほとんどない。



『菊水小ミニ児童会館』

【住 所】 札幌市白石区菊水元町2条3丁目2-14
 【電 話】 872-3310
 【開館年月日】 平成9年9月1日
 【敷地面積】 13,034㎡ (学校全体)
 【延床面積】 130㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート4階建
 【交通機関】 地下鉄東西線菊水駅より
 JRバス6・7番菊水元町2-2下車
 徒歩2分



【地域状況】

学校は、北に豊平川、南西には環状線が走り、西側のJR函館本線に囲まれた古くから拓かれた住宅地にある。歴史ある街の新しい学校内に設置された会館である。隣接する公園では、夏は遊具や砂遊び、冬は築山でのそり滑りを楽しむことができる。夏休みには、15分程歩いて豊平川河川敷へのミニ遠足もでき、多様な遊びが展開できる地域である。

【利用状況】

来館は菊水小学校の児童に限られ、多くの子どもたちでにぎわっている。A室ではゲームや読書、お絵描きなどの静的な遊びが、B室ではドミノや大型ブロックを組み合わせての基地やお店ごっこなどの動的な遊びが展開されている。こまが一番の気分で、より難しい技へと挑戦する子どもたちも多い。また、百人一首への関心が高まり、毎日熱心に取り合う姿が見られる。

【特色のある事業・遊び】

身近な材料を使い工作をする「つく～るランド」。「紙芝居ミーニー座」の後の簡単な紙工作。備え付けのゲームなどに興味を奪われがち子どもたちに、手作り遊具の楽しさに気づかせ遊びの幅を広げられるよう意図的に行事に組み込んでいる。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
								7	14	32

※登録者数の年々の増加は、就労家庭の増加と開館時間延長や身近で安全・多彩な異年齢交流の特徴が理解されてきたからではないか。



『富丘小ミニ児童会館』

【住 所】 札幌市手稲区富丘1条6丁目4-1
 【電 話】 685-3797
 【開館年月日】 平成10年10月1日
 【敷地面積】 16,144㎡ (学校全体)
 【延床面積】 130㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート4階建
 【交通機関】 JR稲積公園駅より徒歩10分
 【地域状況】

四季の変化に富む手稲山を間近に、JR函館本線沿いに位置する環境、交通共に良い条件に恵まれている。小学校区には、プールをはじめとする運動施設や遊具を備えた稲積公園など子どもたちの活動の場が点在している。地域は新興住宅街であり、野球、サッカーなどの少年団活動が盛んで、父母は応援や支援に力を注ぐなど、子どもたちを温かく包んでいる。

【利用状況】

富丘小学校の児童が、かばんを持って直接来館する。利用は主に低学年が多い。子どもたちは館内の遊具で遊んだり、体育館やグラウンドで遊ぶのを楽しみにしている。毎日午後4時頃に、全員で遊ぶ時間を設けており、子ども同士が話し合い低学年からもリーダーを選び、遊びを進めるなど異年齢交流を図る貴重な時間となっている。



【特色のある事業・遊び】

伝承遊びを中心に独自の検定表を作って展開しており、竹がえし、まりつき、こまなどに人気がある。また、「季節の祝い」として行事を準備から取り組み、子どもたちの意見を取り入れながら行い、みんなでゲームをするなどの活動に発展させている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
									6	11

※直接来館が可能のため、登録せずを利用する子どもが多い。人数が少ないこともあってか、クラブを意識せず楽しく遊んでいる。



『西野第二小ミニ児童会館』

【住 所】 札幌市西区西野8条7丁目1-1
 【電 話】 671-0205
 【開館年月日】 平成10年10月1日
 【敷地面積】 11,474㎡ (学校全体)
 【延床面積】 130㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート4階建
 【交通機関】 地下鉄東西線発寒南駅より
 市営バス(西43)西野8-8下車
 徒歩2分



【地域状況】

三方を山に囲まれた緑豊かな地域である。昔は「西野米」として有名な米の産地であった。昭和47年頃宅地化が進み現在では静かな住宅地である。会館横の広島通の西側には商店街が並び人通りが多く、交通量も増えている。また、この通りには西野中学校がある。公園などの施設が多く環境には恵まれている。共働きの家庭が増加の傾向にある。

【利用状況】

西野第二小学校の児童を対象にした会館で、1日平均50名前後が来館してくる。2つの活動室のほかに、体育館をはじめグラウンドや視聴覚室などを利用している。また、活動室を学校やPTAの行事などで貸与するなど互いに協力し合っている。比較的低学年の利用が多く、一斉に「ただいま」と元気いっぱい来館してくる姿は微笑ましい。

【特色のある事業・遊び】

「つくりま専科」では、毎月季節感を取り入れた工作をしている。スペースなどに制限はあるが、ドッジボールや野球などの遊びも行う。また、自然環境を生かし、近隣の公園探策や発寒川河畔公園での川遊びを楽しむなど、野外での活動も取り入れている。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
									18	33

※一般来館の子どもたちもかばんを持って来館できるため、当初は子どもたちの中で混乱する様子も見られた。



『札幌小ミニ児童会館』

【住 所】 札幌市東区東苗穂7条2丁目3-1
 【電 話】 781-2818
 【開館年月日】 平成10年10月1日
 【敷地面積】 15,587㎡ (学校全体)
 【延床面積】 130㎡
 【建築構造】 鉄筋コンクリート3階建
 【交通機関】 バスセンターより
 市営バス(東6)札幌小学校前下車
 徒歩1分

【地域状況】

交通の便利な場所にあり、南側には公園や市営住宅東側にはスーパーがある。また、学校の前は三角点通であり交通量の激しい道路である。現在は、札幌小学校の児童のみを対象としているため、地域とのふれあい活動はあまり無いが学校との関わりが多くある。

【利用状況】

来館する子どもたちは、札幌小学校の児童に限られているが、日々にぎやかな声が響き渡っている。常時、40~60名の来館があり行事や体育館の使用日によって低・高学年の割合は変化する。最も人気があるのは、復活ボンバーであり低・高学年が交じり合い、みんなで楽しんでいる。また、こまやパッチもよく行われているので、子どもたちは腕を上げている。



【特色のある事業・遊び】

週に1回は体育館が利用できるため来館した子どもたちは、バスケットボールやバドミントン、ミニバレーなどを楽しんでいる。そのほか、特活室がありスポーツや行事に利用できる。

【児童クラブ年度別登録者数】

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
										20

※クラブという枠にとらわれず、異年齢で遊ぶ姿が見られる。



施 設 一 覧

区名	会館名	所 在	電 話	開 館 年 月
中 央 (10)	中島	中島公園	511-3397	昭和24.7(昭和60.2改築)
	円山	北1条西23丁目	621-0325	" 38.5(平成6.3改築)
	山鼻	南24条西13丁目	561-6220	" 44.11(平成4.3移築)
	緑丘	南10条西23丁目	562-1283	" 58.12
	宮の森	宮の森2条5丁目	641-9710	" 60.3
	桑園	北7条西15丁目	641-7008	" 61.3
	苗穂はるにれ	北1条東10丁目	221-2271	" 63.4
	幌西	南14条西16丁目	563-2263	平成1.1
	円山西町	円山西町8丁目	611-1980	" 7.3
	山鼻かしわ	南15条西8丁目	533-0622	" 8.12
北 (9)	新琴似	新琴似11条7丁目	761-7501	昭和48.12(平成3.8増築)
	篠路	篠路4条9丁目	772-9292	" 53.12
	新川	新川4条11丁目	764-3664	" 55.12(平成6.12増築)
	屯田	屯田5条6丁目	772-7130	" 57.11
	太平	太平8条7丁目	771-6324	" 61.2
	麻生	北39条西5丁目	757-0185	" 61.11
	新琴似西	新琴似9条13丁目	762-6632	" 61.12
	篠路西	篠路6条4丁目	771-2191	平成1.1
	新川中央	新川3条3丁目	762-8433	" 2.2
	幌北	北17条西6丁目	727-6225	" 3.3
	エルムの森	北27条西12丁目	737-3974	" 4.12
	光陽	新琴似6条12丁目	765-6141	" 5.12
	上篠路	百合が原9丁目	774-2050	" 7.3
	あいの里	あいの里1条3丁目	778-3755	" 8.3
	あいの里ひがし	あいの里3条7丁目	778-2358	" 10.12
新琴似南小ミニ	新琴似1条3丁目	762-3666	" 11.10	
東 (14)	新生	北8条東7丁目	711-1339	昭和35.12(昭和60.12改築)
	ひのまる	北38条東9丁目	752-1551	" 49.12(平成3.8増築)
	伏古	伏古10条3丁目	782-5620	" 52.11
	苗穂	苗穂町5丁目	711-8433	" 58.12
	札苗	東苗穂9条3丁目	791-5200	" 59.12
	元町	北21条東18丁目	784-6664	" 61.12
	丘珠たから	北35条東23丁目	784-8095	平成1.2
	栄西	北46条東5丁目	752-8363	" 2.1
	北光	北18条東5丁目	753-6353	" 3.4
	東苗穂	東苗穂5条2丁目	786-3191	" 5.12
	北栄	北30条東6丁目	711-3755	" 8.3
	丘珠ひばり	北丘珠4条1丁目	785-6137	" 8.12
	元町南	北16条東16丁目	785-6148	" 8.12
	札苗小ミニ	東苗穂7条2丁目	781-2818	" 10.10
白 石 (10)	北郷	北郷4条4丁目	871-2770	昭和47.12(平成3.8増築)
	菊水やよい	菊水1条4丁目	841-5150	" 50.11(平成1.7増築)
	東札幌	東札幌5条3丁目	822-5811	" 59.3
	北東白石	川下3条5丁目	875-1311	" 63.2
	東白石	本通13丁目南	863-8833	" 63.3
	菊水元町	菊水元町8条2丁目	873-1610	" 1.1
	柏丘	平和通8丁目北	865-7520	" 2.12
	栄通	栄通6丁目	853-5706	" 4.12
	菊水小ミニ	菊水元町2条3丁目	872-3310	" 9.9
	北白石小ミニ	北郷6条3丁目	871-6100	" 11.10
	厚 別 (9)	もみじ台	もみじ台西6丁目	897-0775
厚別西		厚別西2条4丁目	891-7237	" 59.12
厚別南		厚別南1丁目	894-1710	" 62.3
厚別東		厚別東3条4丁目	897-4425	平成2.1
青葉		青葉町7丁目	895-9962	" 3.12
しなの		厚別中央4条5丁目	891-2025	" 4.3
上野幌		上野幌1条2丁目	895-9749	" 4.12
もみじ台ふれあい		もみじ台東7丁目	897-4760	" 6.12
もみじ台小ミニ		もみじ台北5丁目	898-8686	" 11.10

区名	会館名	所 在	電 話	開 館 年 月
豊 平 (11)	豊平	豊平6条7丁目	811-1376	昭和40.11(昭和59.3改築)
	西岡	西岡3条6丁目	852-8113	" 57.3
	平岸	平岸3条9丁目	812-2493	" 57.11
	東月寒	月寒東3条16丁目	853-9741	" 59.12
	福住	福住1条1丁目	855-0350	" 62.1
	中の島	中の島2条3丁目	811-5215	" 63.4
	美園	美園6条5丁目	824-5440	" 63.12
	月寒	月寒西1条6丁目	851-6433	平成4.3
	西岡高台	西岡4条11丁目	581-5394	" 4.12
	天神山	平岸1条19丁目	816-0388	" 5.12
清 田 (8)	あやめ野	月寒東4条10丁目	857-5862	" 8.12
	清田	清田1条4丁目	882-2960	昭和52.11(平成4.12増築)
	平岡	平岡8条1丁目	881-9766	" 61.2
	北野	北野4条2丁目	884-6992	平成2.4
	清田中央	清田6条2丁目	884-9610	" 3.3
	里塚	里塚2条3丁目	881-4822	" 4.3
	北野台	北野4条5丁目	882-9640	" 6.12
	美しが丘	美しが丘5条6丁目	885-9766	" 7.12
	平岡みどり	平岡公園東10丁目	884-6866	" 12.3
	南 (10)	澄川	澄川4条6丁目	831-5150
藻岩		川沿8条2丁目	571-8616	" 56.12(平成4.12増築)
藤野		藤野2条8丁目	592-1532	" 57.11
真駒内		真駒内本町3丁目	584-3336	" 59.3
南の沢		南沢4条2丁目	571-2909	" 63.3
石山		石山2条4丁目	591-7730	平成2.4
常盤		常盤2条2丁目	592-6091	" 4.12
真駒内五輪		真駒内泉町3丁目	581-1823	" 6.3
みすまい		廉舞3条6丁目	596-3911	" 9.3
南小ミニ		南31条西9丁目	581-0191	" 9.9
西 (11)	手稲東	西町北10丁目	661-7332	昭和40.12
	八軒	八軒7条東1丁目	631-7061	" 56.12
	西野	西野7条3丁目	663-6355	" 57.11
	発寒北	発寒13条4丁目	664-9710	" 60.12
	山の手	山の手6条5丁目	642-0118	" 61.12
	二十四軒	二十四軒4条3丁目	644-4730	平成2.4
	発寒	発寒7条7丁目	666-0206	" 2.12
	宮の沢	宮の沢1条5丁目	666-5323	" 3.12
	平和	平和1条5丁目	667-3359	" 4.12
	八軒北	八軒8条西6丁目	644-3643	" 7.12
	西野第二小ミニ	西野8条7丁目	671-0205	" 10.10
手 稲 (11)	手稲前田	前田2条12丁目	682-2070	昭和53.12(平成2.12増築)
	稲穂	稲穂3条5丁目	684-0901	" 60.3
	あけぼの	曙9条1丁目	685-4821	" 63.3
	富丘	富丘3条6丁目	685-9393	平成1.4
	西宮の沢	西宮の沢2条4丁目	681-6940	" 2.4
	いなづみ	前田4条4丁目	684-3072	" 2.12
	前田しらかば	前田8条15丁目	694-2474	" 5.12
	星置	星置2条7丁目	684-4610	" 7.12
	新発寒	新発寒6条4丁目	685-7343	" 7.12
	金山	金山3条2丁目	695-0919	" 9.12
	富丘小ミニ	富丘1条6丁目	685-3797	" 10.10
合計 110館(内、ミニ児童会館 8館)				

※各施設の紹介については、作業上平成10年度末までに受託したものを掲載(網かけ)。
平成11年度末には市内の全ての児童会館及びミニ児童会館の委託を受けている。

協会の事業と施設 4



(野外活動事業)

父と子のサバイバルキャンプ

平成元年「父と子のアドベンチャースクール～野草に挑戦～」というタイトルで始まったキャンプ事業。親子間（特に父親と子ども）のふれあいが希薄になっている現状を背景に、父子の絆を深めようと小学生以上の子どもとその父親を対象に実施した。

1年目は、ゴールデンウィーク期間の1泊2日、滝野自然学園を会場に自然散策をしながら野草を採り、非常食として調理する方法を学んだり、レクリエーション活動をとおして親子の関係を深めるといった内容で行った。

翌年（平成2年）には、叻公園緑地管理財団と共催で行い、滝野すずらん丘陵公園内溪流ゾーンでの夕食や、滝めぐりも加えて実施した。

その後8年間のブランクを経て、平成10年「父と子のサバイバルキャンプ」となって生まれ変わり、タイトルどおり以前よりキャンプの条件を厳しくして再開した。



会場も、南区常盤の森の中にある「ドンガバ村」に移し、電気がないキャンプ場でテント設営から野外炊事（3食共）まで親子で協力して行った。父子の協力やふれあいの中で、今まで見ることの少なかった「お父さんの力強さ」や「子どもの頑張り」などの新しい一面の発見と、それを認め合う信頼関係が生まれ、厳しい条件も協力することで楽しくできるという認識を親子で感じることができたキャンプであった。

平成11年は会場を滝野自然学園に戻し、「父と子のソフトサバイバルキャンプ」と変更、キャンプ経験の少ないお父さんにも参加しやすい状況を作り、野外炊事を1回に、宿泊も施設内（希望者はテント泊）にして、火おこしや沢下り体験、キャンプファイヤーなどを楽しんだ。前年から引き続き参加する親子も多く、「お父さんの方が楽しみにしている」との声も聞かれている。

ファミリードライビングキャンプ

平成11年度新たに実施した「ファミリードライビングキャンプ」は、参加対象をファミリーに限定し、夏休みを前に楽しい余暇の過ごし方を提供すると共に、親子・家族間の交流とふれあいを促進することを目的にしている。

平成11年度は、1歳の子どもの持つファミリーから60代半ばのご夫婦までの総勢35家族・118人が参加してキャンプを楽しんだ。

このキャンプは、当日宿泊するキャンプ場を参加ファミリーには一切告知しないで、出発前に渡される地図を頼りに、途中にあるクイズや仕掛けに答えながらそれぞれの自家用車で目的地を探し出すというロードゲームと、それにかかる時間を競うタイムトライアルの両形式で行っている。クイズの問題は、車内で解ける問題から、車を止めて降りてみないと解けない問題など様々で、観光地や名所、道路標識、橋、トンネルなどを中心に作成した。

今回宿泊したキャンプ場は、洞爺湖の湖畔に面した壮瞥町の仲洞爺キャンプ場で、湖を使ったカヌー体験プログラムには、ほとんどのファミリーが参加し楽しんだ。

また、キャンプ場横にある町営温泉の協力を得て、入浴券を参加者全員に配布し、夜や翌日の帰り際に入浴してもらうことにした。

夜のプログラムは、家族単位の時間を大切にして欲しいとの配慮で、自由参加のプログラム（キャンプファイヤー、星空ウォッチング、野外シアター）にしたが、ほとんどの家族がこれに参加していたのが印象的であった。

2日目のプログラムは、竹材を使ったパームクーヘン作りやバードコール作り、ストーンペイント、グランドゴルフなどを用意したが、どのプログラムにもたくさんの方が積極的に参加し、参加者の意欲の高さに驚かされた。

現在、協会キャンプ事業には、家族を対象にしたものがほかにないため、今後に向けても家族間のふれあいや交流、余暇活動の提供を目的とした事業の必要性を考え、実行に移していきたい。



ソリリング大会

昭和63年度に「滝野すずらん丘陵公園」でスタートしたこの事業は、普段は「ゴミ」として捨てられてしまう段ボールを利用してソリを作り、家の中にこもりがちな冬の1日を家族やグループ、職場仲間と共に楽しむことと、参加者同士の交流を目的に実施されたものである。

大型のものや、金銭的にかかなりの負担をかけなければ参加できない事業が多くなる中で実施されたこの大

会は一見地味であるかのように思えたが、ソリを作るためのアイデアや飾り付けなど、作る過程を楽しめるという点で人気を集めた。また、滑走面にプラスチックや木材、鉄板などは使わず、飾り付け以外はあくまでも「段ボール」という素材にこだわったことも、気軽に参加できる大会として、終了までの10年間、札幌市民のみならず実に多くの方に参加して頂いた大きな要因といえる。



またその参加の方法も単に「ソリに乗って滑る」だけでなく、中には炊事道具を持ち込んで、食事をとりながら出走を待つチームなども見られ、参加する方々が自ら楽しむ形を作ったこともこの大会の特徴のひとつであろう。

出走チームのソリはどれもユニークなものが多く、飾り付けや「仕掛け」などそれぞれのチームの工夫が随所に見られ、参加する方だけでなく、見ている方も楽しめる大会であった。

その後、道内各地で同種の大会が開催されたことでその役割を終えたが、この大会は一方的なプログラムの提供だけでなく、「参加者と共に作る」事業として協会事業の新たな方向性を示した。



あそびのフェスティバル

「あそびのフェスティバル」は、伝承遊びをテーマにして平成3年に開始した事業。平成5年からは、北海道電力株式会社札幌支店の「ほくでんこんにちは旬間」の関連イベントとして北電主催となり、北電社員の皆さんと遊びのスペシャリスト集団である「そびあの会」のメンバーで実施している。

会場は中島公園内の札幌市中島児童会館前広場で、毎年たくさんの方が楽しい1日を過ごしている。

昔から子どもたちは、知らず知らずのうちに集団での遊びをとおして「生きていくための技術」や「生活の知恵」を学んでいたが、時代が進む中、集団で遊ぶ子どもの数が減少し、世代間のつながりが途切れて、親たちが遊んでいた「あそび」がいつの間にか子どもたちに伝わらなくなっているのが現状といえる。

子どもたちの「やってみよう」という気持ちを大切にしながら、子ども本来の遊びを取り戻したい…。これが「あそびのフェスティバル」の原点といえる。

実際、このフェスティバルに参加した子どもたちは、初めて見るコマやけん玉名人の妙技に圧倒されながらも1日いっぱい遊びに熱中し、上達し、そんな自分に満足している。

さらにお父さん、お母さんも一緒に「あそぶ」ことで、遊びの世界が様々な形に広がりを見せているといえる。



フェスティバルは、毎年6月第1週の日曜日午前10時30分から午後3時30分まで行われ、特設ステージでの名人芸の披露や人形劇、パントマイムなどの楽しいショーもプログラムされている。幼児から高齢者まで楽しめる内容で、遊びの幅が広いこともこのフェスティバルの魅力である。

昔ながらの遊びの風景が、地域の中で見られることを願って、この事業を続けていきたいと考えている。

こぼれ話^{アッ!}

あそびのフェス悲しい話

何時のフェスだったんだろうか……気になる親子が遊びに来てたなあ。

1・2年生と思われる男の子が母親に向かって叫んでた「いつまで昔のあそびをするの?もういやだ!こんな昔の人のあそびなんか!」…ってね。「古臭いあそびなんかしたくない。」とも叫んだ!!!!

親の思いと子の思いのギャップの激しいこと。子どもにとってここは苦痛の何者でもないのだろうか。なんと悲しいことか ふう……。 (つぶやきKa)

ジュニアアートキャンプ



「INTERNATIONAL JUNIOR ART CAMP (国際ジュニアアートキャンプ)」は、1987年から実施されている国際交流キャンプ事業である。

主催は、北海道・札幌市・北海道新聞社で組織する実行委員会で、活動協会は第11回からキャンププログラムの担当として関わることになった。

海外の子どもたちを集め、日本の子どもたちと共に様々なアートワークを行うキャンプであるが、年々規模も大きくなり、99年にはアメリカ・カナダ・タイ・中国・ドイツ・大韓民国・ニュージーランド・シンガポール、8カ国9地域から約80人の子どもたちが集まって実施された。

このキャンプは、夏休み期間を利用して1週間の日程で行われ、前半は札幌市内の芸術の森でのアートワークと日本の生活体験をするホームステイ、後半は日本のジュニアを加えてのキャンプ(97年はトマム、98・99年は日高少年自然の家)を実施している。

グループリーダーには、活動協会職員やグループ・ワーカー養成講座の受講生があたるが、言葉や文化の違いを肌で感じながらも、一生懸命取り組んでいる姿に参加している海外ジュニアも感激しているようだ。



滝野スノーフェスティバル

㈱公園緑地管理財団が主催して、昭和61年度から滝野すずらん丘陵公園を会場に毎年実施され、公園の利用者に対し冬の遊びの楽しさを提供することを目的に行われている冬季事業。当協会は、第1回目からチャレンジゲームコーナーを担当し、「雪」を素材にしたトレールゲームを企画実施している。

カードを持った参加者が、各コーナーを回りながらゲームに挑戦し、高得点を目指すという単純なものだ

が、そのほとんどが「運」によるものであるため、大人も子どもも点数にはほとんど差がでないことから、毎年たくさんの人が楽しんで参加している。

準備は大よそ2週間前からで、協会職員一日あたり15名程度の動員をかけて行い、天候の良し悪しと気温に左右されながらも、8コーナーから10コーナーのゲームを製作している。滑る、凍る、冷たいなど冬の特徴を生かしたものを中心に、投げる、飛ばす、蹴る、転がすなどの要素を取り入れ、参加者が近くの公園でもできるような素材も含めて提供している。会場は初め、丘陵公園入り口側の「溪流口広場」で実施していたが、公園内整備とスノーパーク(スキー場)オープンの関係で、現在は高台にある「つどいの森」に移して実施している。「つどいの森」は広さ的には問題ないが、その分「風」が強くと吹き、天候の悪い日には地吹雪に見舞われることもあるため、風対策も考慮に入れながら製作を行っている。

公園利用者の中には、毎年行われるこの事業を楽しむにしている人も多く、期間中毎日遊びに来る方もいるほどである。声を拾うと、「遊びの内容は変わらないが、スタッフが毎日変わるので、関わり方に変化があって楽しい。」とのこと。雪まつり期間と重なっているにもかかわらず、毎年多くの方が参加されるのはこんなところにも理由があるのかもしれない。



こぼれ話^{アッ}

嵐の晩に生まれたものは……。

1997年8月、3泊4日、場所はトマム、世界10カ国の子どもたちが集まったジュニアアートキャンプは、集中豪雨&雷という最悪の状況の中で始まった。

あらかじめ、用意されていたプログラムは、ガタガタと音を立てて崩れ、宿泊するテントは、強風でスタッフを中に閉じこめたまま、次々にテントサイトを転がっていった。全員、集会スペースに避難、寝るのも遊ぶのも食べるのもこのスペースしかない。

しかし子どもたちは強かった。アートで用意していたスケッチブックをフル活用し、言葉を越えて会話を生み出し、関係を作り出していった。最終日、だれかれともなく抱き合っ
涙を流す子どもたち……。

降りしきる雨に感謝。(ピャッコ)

定山溪自然の村

札幌市南区定山溪（豊平峡ダム下流国有林野）

Tel. 598-3100

- 【開設年月日】平成10年6月27日
- 【敷地面積】6.27ha
- 【延床面積】1,270㎡
- 【建築構造】鉄筋、木造
- 【交通機関】定山溪車庫前より定鉄バス
豊平峡温泉下車徒歩2.0km

【施設状況及び目的】

自然の村は、四季折々の自然や動植物とのふれあいをとおして幼児から高齢者まで、親子や小グループが一緒になって楽しく学び、キャンプ体験ができる野外教育施設である。村内には、宿泊体験をとおして家族の語り、グループ間の交流ができるコテージ・テントハウス・テントサイトの3タイプの宿泊施設を用意している。また、コテージ・テントハウス各1棟は、バリアフリー仕様になっている。

【地域状況】

支笏洞爺国立公園内にある豊平峡ダムの下流に広がる国有林野に位置する。札幌の奥座敷といわれる定山溪温泉街より車で5分ほどの距離で、周辺を緑豊かな山々に囲まれた場所である。春は花、夏は森林浴、秋は紅葉、冬は雪景色の自然美を楽しむことができる。



【利用状況】

●貸館状況（平成11年度）

区分	件数	利用人数
コテージ	1,507	6,515
テントハウス	347	1,882
テントサイト	354	1,416
宿泊施設の利用総数	2,208	9,813
見学者		2,443

●利用者の様子

自然の村は、国立公園内にあり車の乗り入れを規制しているため、利用者は駐車場から荷物をリヤカーに積み替え林の中の遊歩道を歩いて進む。途中、冷水沢川のせせらぎの音を聞きながら、さらに奥に進むと山々に囲まれた自然の村に到着する。

季節によって様々な景色や体験プログラムを楽しむことができ、一度自然の村で過ごした人が「また遊びに来たい」と思う魅力がここにはある。

春は、まだ雪が所々に残っていて肌寒い日もあるが新緑が目眩しく野外での活動を心待ちにしていた方が来村する。自然の村で貸し出しているMTB（マウンテンバイク）で定山溪の温泉街までサイクリングをしたり、水の広場では、村周辺の水たまりで見られるオタマジャクシやサンショウウオの卵に触れてみるなどいろいろな発見に利用者は驚いている。天気の良い日曜日や祝日は、退村時間を延長してハイキングに出掛けたり、日帰りでテントサイトを利用してバーベキューを楽しむ家族も見られる。

夏は、自然の村ならではの体験プログラムが盛りだくさんであり、その中でも木や自然の素材を使用する工作会は大人気。毎回多勢の参加者があり、時には子どもよりもその親の方が作る喜びに浸っている。

夜は、太陽の広場でキャンプファイヤーが実施され、職員とともに毎晩楽しいレクリエーションを繰り広げ夜空に参加者の歌声と笑いが響いている。

また、道外や札幌市外地からの家族旅行者やツーリングの若者の利用も多く、自然の村を拠点にして観光に出掛ける連泊の利用者もいる。

秋は、村内の樹木が一斉に黄色や赤に色づき始め、子どもたちがバッタやトンボなどの昆虫を採集し、学習室にある図鑑で名前や種類を調べ、観察した後は自然に返している。このほかに、自然の村の照明を極力少なくする事で、夜空に瞬く星々を利用者に堪能してもらうよう配慮している。月1回開催している「星空観察会」では、天体望遠鏡を使い、月のクレーターや、木星・土星などを興味深く観察することができる。

冬は、ワイルドコースというソリやチューブ滑りのコースで利用者は歓声と雪煙を上げ全身で雪遊びを体験したり、凜と澄んだ空気の中、美しい雪景色を眺めながら「歩くスキー」や「スノーシュー（西洋かんじき）」で林の中を進み、時々狐やウサギの足跡を見つけては厳しい冬を過ごす動物たちに思いを馳せることも。冬の夜も、スノースクリーンを使っての野外ビデオ上映会を楽しむと同時に、幻想的なスノーキャンドルの揺らめくろうそくの灯が凍える心を和やかにしてくれる。このほか、ふれあいルームでは一年をとおしてコマやけん玉、ダルマ落としなどの伝承遊びの遊具があり、お祖父さんやお父さんが子どもに教える姿も見られるなど親子や仲間同士の交流の場になっている。

学習室には、昆虫や草花、野鳥や星など自然に関する図書や、アウトドアライフに必要な情報が載っている雑誌が数多く揃っており、職員が常駐し利用者からの問い合わせに対応できるようになっている。

自然の村周辺の木々には、シマリスやエゾリスが住んでいて、運が良ければ見ることができる。リスたち



はあまり人間を怖がらず、食料のドングリや松ぼっくりを拾いに村にやってくる。利用者も驚かさないうる静かに観察をするので良い関係が保たれている。

【講座及び主催事業】

●体験工作会

毎回多くの参加者でにぎわっている体験工作会は、自然の村周辺に成育している樹木（アカエゾ松、白樺、桜木など）を伐採し、輪切りにした木材を使ってペンダントやブンブンゴマ・キーホルダーを作ったり、竹を小刀で削り錐で穴を開け音を出すウグイス笛や、小枝を自由に組み合せボンドで接着しながら立体的な昆虫や動物の形にするウッドクラフト、そして割り箸を使ったガリガリトンボ作りなど、そのほか自然の素材（石、葉など）を上手に使った体験プログラムとなっている。

参加費は一人100円、約1時間ほどで出来上がる。親子での参加がほとんどで子どもより大人の方が夢中になったり、子どもが工作している様子をビデオカメラで撮影しているお父さんもいる。図鑑などを見ながらクワガタやくじらのイラストを木に描いたり、参加者の自由な発想を大切に進めている。

●林業体験会～アカエゾ松の森を作ろう～

自然の村には、アカエゾ松の木が密集している森がある。密植造林といって間隔を狭く植えることでお互いが競争し上に伸びようとする。しかし、ある時期がきたら間伐（間引き）をしてやらないと木は細いままなので、適当な間隔で配置をし、太らせることによって立派な森にしようというねらいがある。この間伐をとおして「森を育てる大切さ」を学ぶ体験学習の場にもなっている。

親子や仲間同士で直径10cmほどの木をノコギリを使って切り倒し、ロープを巻き付け広場まで力を合せて移動し、おので枝払いをして最後にチェーンソーで厚さ1cmの輪切りにカットし、林業体験会の思い出として持ち帰ることができる。初めは、おのやノコギリの使い方にとまどっていた子どもたちも、職員や大人の指導ですぐに慣れ、真剣な表情で慎重に作業を行っている。

●定山溪日帰り自然観察&温泉ツアー

平成11年6月から実施しており、定員40名のところ毎回50名以上の応募がある大人気の事業である。

自然の村から豊平峡ダムまでのハイキングコースでは、季節の草花や北海道を代表する樹木について講師から説明を受けながらのんびりと散策と森林浴を楽しむ。

定山溪神社の横から登る夕日岳の軽登山では、標高580mを約1時間30分かけて登る。途中の「見晴らし台」からは定山溪の温泉街や向かいの朝日岳が一望でき、頂上では無意根山や中岳、喜茂別岳など遙か遠くの山々まで眺めることができる。

その後、毎回違ったホテルで休憩、入浴を楽しみゆったりとした時間を過ごすことが出来ること、参加料が3,000円ととても手頃なことから、2回、3回と続けて参加してくれるリピーターもいる。

冬季は、歩くスキーやかんじきを履いて雪の林の中をこいで、街では見られない風景や自然の息吹を感じて頂いている。



◆◆◆利用申込方法◆◆◆

《受付方法》

*予約は

[予約開始] 利用希望日の2カ月前の同日から

[方 法] 電話での予約のみ

[時 間] 土・日・祝日を除く午前9時から午後5時まで

[内 容] 希望日、施設の種類の確認

申込者の住所・氏名・電話番号等の確認

*利用当日は

1. 自家用車・大型バス他は専用駐車場へ止め、管理センターで入村手続きをする。

(駐車場から管理センターまではリヤカーで約10分)

《利用時間》

*日帰り…午前9時から午後5時

*宿 泊…午前10時から翌日午前9時30分まで、

または午後1時から翌日午後12時30分のいずれか

《利用料金》

宿泊施設 の 種 類	使用単位 単 位	定員	使 用 料	
			宿 泊	日 帰 り
コテージ	1室	5人	3,600円	1,200円
テントハウス	1テント	7人	3,000円	1,000円
テントサイト	1サイト	5人	500円	170円

※シーツ・枕カバーのレンタル代金（200円）が必要となります。

滝野自然学園

札幌市南区滝野106番地

Tel. 591-8780

- 【開設年月日】昭和46年8月
- 【敷地面積】34.937㎡
- 【延床面積】802㎡
- 【建築構造】木造平屋建
- 【交通機関】地下鉄真駒内駅より中央バス（102）
アシリバツの滝下車徒歩3分
- 【施設状況及び目的】



昭和46年3月、開校以来68年の歴史を有する滝野小・中学校が在籍児童の減少によって閉校となり、同年8月に同校舎を改修し、野外教育施設として札幌市が開設した体験学習施設。その後、主に小学校の宿泊学習の場としてたくさんの学校に利用されていたが、「青少年山の家」の開設に伴い、現在は幼稚園や社会教育団体の利用が多くなっている。

施設自体はかなりの老朽化が進んでいる。しかし市内の公的施設では唯一の木造建てということもあり、子どもたちに木造の良さを伝えたいという理由で何度も利用する団体も見られる。今後はサブプログラムの充実を図りながら利用拡大に努めたい。

【地域状況】

自然学園は市内南区の滝野地区に位置しているが、地元の町内会は学園運営に対し大変好意的で、これまでも多くの協力を得ている。

特に夏の利用前には、裏山の草刈りや花壇作り、冬は除雪作業など、利用する団体が気持ち良く使えるよう町内をあげて学園を支えてくれている。

今後も、地域の方々と良い関係を保ちながら利用団体に喜んでもらえる施設を目指したい。

【利用状況】

開設期間が6月から10月であるため、団体が準備してくるプログラムは、そのほとんどが野外炊事、キャンプファイヤー、きもだめしなどである。野外炊事では扱い慣れない飯ごうやナタを使い、四苦八苦しながらも、互いに役割分担をし、協力しながら夕食の準備をしている姿が見られる。一人ひとりが自分の役割を発見し、自発的に行動するという意味で、このプログラムは学園の利用には欠かせないものとなっている。夕食の片付け後に行われるキャンプファイヤーは、子

どもたちがもっとも楽しみにしているプログラムで、大きな火を囲みながらの歌やゲームに歓声を上げ、団体がひとつになったと実感できるものであるようだ。

このほか自然学園では、雨天時のプログラムとしてウグイス笛作りや木の葉メール作りなどを用意している。今後も自然を生かした少人数でも楽しめるようなプログラムを提供していきたいと考えている。

こぼれ話^{アッ}

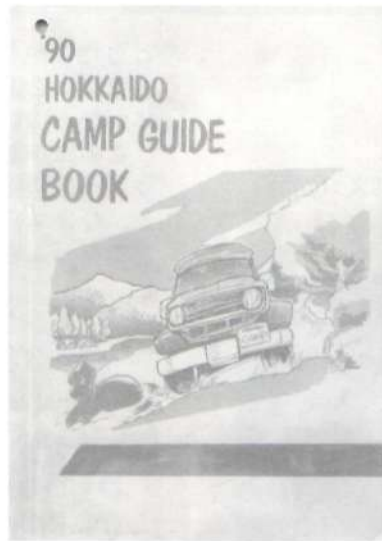
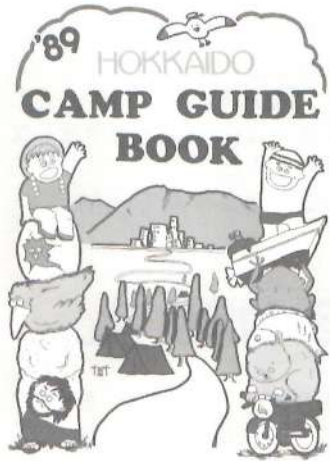
滝野自然学園（以下学園）と言えば、まずは誰もが知っている、このご夫婦の話をしたい。今さら書くまでのことはないかもしれないがS夫婦（以下父さん、母さん）である。両人は学園の主として何十年もの間、支え・惜しみない協力をして下さっている。時にはお叱りを受けた協会職員も多数いるのでは・・・。

ある日のこと、父さんがいつものとおり夜間巡回をしていると子どもたち数名とバッタリ会った。子ども「あぁっ、お化けだぁ！」父さん「・・・」子どもたちは一目散に部屋に戻り寝袋に入ったというエピソードもあるほどのお顔の持ち主?!。確かにしわは多く、一見怖そうだが実はとても優しく、いつもほうじ茶をすすっているような父さんなのです。

二つ目は、私が勤務していた頃の話をした。このような公共施設にありがちな“来た時よりも美しく”という言葉聞いたことがあると思うが、当時の園長はまさにお手本となる方だった。園内外を清潔に保つことは大切だが、当時の園長の掃除はすごかった・・・。まさに利用者がいない時には、毎朝の事務室掃除に始まり、各部屋とも陽が暮れるまで徹底的にきれいにしておくのだ。（もちろんカマドウマなどいるはずがない!?!）そんな園長がいたからこそ、現在もきれいなままだ利用者を迎えてくれている。（滝野のゾウさん）



〈協会の出版物 2〉



'91
HOKKAIDO
CAMP GUIDE
BOOK



協会の事業と施設 5



(文 化)

札幌市こども人形劇場 ～こぐま座～

- 【住所】 札幌市中央区中島公園1番1号
- 【電話】 512-6886
- 【開館年月日】 昭和51年7月24日
- 【敷地面積】 137.17㎡
- 【延床面積】 137.17㎡
- 【建築構造】 鉄筋造一部木造平屋建
- 【交通機関】 地下鉄南北線中島公園駅より徒歩2分



【施設状況及び目的】

人形劇場こぐま座は、公立としては日本で初めて造られた人形劇の専門劇場で、昭和51年7月に中島公園に誕生。当時の札幌市長が、姉妹都市のミュンヘンを訪れた折り（私立の人形劇場があります）目を輝かせて人形劇に見入っている子どもたちの姿に感動を受け、子どもたちの情操教育のために札幌にも是非人形劇場を造りたいという願いから、全国初の公立人形劇場が誕生した。

以来、今日まで、人形劇場こぐま座は、人形劇・腹話術・紙芝居など、市内で活躍しているアマチュアの人形劇団が交代で上演を行ってきた。今後も人形劇を創る人と観る人が一体となった質の高い人形劇の創造を目指し、次代を担う子どもの幸せを願いながら運営をしていく。

【地域状況】

札幌市中心部の中島公園内に位置し、園内には「札幌コンサートホールキタラ」、「北海道立文学館」、「札幌市天文台」があり、「中島児童会館」と「遊具広場」が隣接。

また、園内は木々が多く、春夏は緑が、秋は美しい紅葉が、そして冬には白い雪にまみれた子どもたちが、と四季折々の様子が楽しめる環境にある。

【利用状況】

年間の上演日は約140日、上演回数は200ステージ以上、リハーサル、講座などを含めるとほぼ毎日の利用がある。

その中心は、市内のアマチュア人形劇団のリハーサルと製作と公演、年に数回専門劇団の公演がある。

また、講座修了生が自主的に集まりサークル活動を展開するなどの利用も多い。

観客層については、オープン時から比較すると、小学生中心から幼児を連れた親子へと様変わりし、休日には3世代で観劇する家族もいる。

【公演】

基本的に、土、日、祝日、幼稚園、小学校の長期休

業日を公演日としている。

公演時間は概ね午前11時からと午後2時からであり、公演内容は人形劇、パネルシアター、紙芝居、腹話術などで上演時間は1ステージ約1時間を目安に実施している。

また、平日午前に約40分間の内容「幼児のための小さな劇場」を実施。就園前の子どもたちにも判りやすい内容で客席、ステージを暗くすることなく行っている。

自主事業として行っている講座関係の修了生たちの自主制作作品の、修了記念発表会も実施している。

やまびこ座やほかの大規模ホールと比較すると小劇場であるが、その特性を生かした実演の迫力が、観客から好評を頂き、出演者や劇場職員は、それを励みにして公演活動を展開している。

【講座及び自主事業】

・こぐま座人形劇学校

初心者を対象とし、約6か月間の長期講座で、脚本、人形制作、大道具、小道具、音響などを学び、最終回には試演会、修了式の後に自主公演で卒業記念発表会を実施している。

・紙芝居教室

紙芝居の基本的理論とその実践方法についての講義、発表と講師からのアドバイスを受ける講座

・腹話術入門講座

簡単な人形の制作と発声、台本の書き方、受講者同士の発表会を実施している。

・こどもの劇場演劇学校

俳優のための基礎訓練をし、講座修了後には発表会を実施している。

・人形劇の日

小学生から高校生までのサークルの発表会。日頃の成果を劇場で上演し発表する。

・子ども人形劇団

小学生によるこぐま座専属劇団を育成し「人形劇の日」などで活動の成果を発表する。

・演劇キッズ養成講座

中高生を対象にした演劇学校。

【公演及び観客数】

年度数	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
公演回数	234	209	202	195	203
観客数	13,334	1,414	12,191	9,850	9,246

年度数	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
公演回数	193	193	197	220	221
観客数	10,278	10,592	10,482	14,220	14,327

札幌市こどもの劇場 ～やまびこ座～

【住所】札幌市東区北27条東15丁目1-1
 【電話】723-5911
 【開館年月日】昭和63年8月6日
 【敷地面積】4,500.32㎡
 【延床面積】1,495.37㎡
 【建築構造】鉄筋一部鉄骨造地下1階地上2階建
 【交通機関】地下鉄東豊線元町駅より徒歩5分



【施設状況及び目的】

1988年(昭和63年)8月6日オープン。中島公園内にあり、こども人形劇場こぐま座(開設1976年(昭和51年))が児童会館に併設の形で、ホールだけでなく、練習場所や制作場所も児童会館の間借り状態であったため、単独で劇場機能を持った第2人形劇場が構想された。

その後、施設規模が大きいことから、人形劇に加え、演劇なども上演できるこどもの劇場として開設された。

施設は、300名収容のホール、楽屋2室、ロビー、展示も可能な図書コーナー、練習場所にも利用できる研修室、会議室、大道具小道具、人形の制作場所として美術工作室を持つ。

施設の目的は、こぐま座と同様に土、日、休日及び春、夏、冬休みに子どものための公演を企画実施することと、人形劇や児童劇を上演する団体を育成支援することである。それらの団体の利用に対しては、使用料減免があり、利用しやすいシステムとなっている。

平成11年秋に、舞台照明音響設備が更新され、最新式の充実した設備に生まれかわっている。

【地域状況】

地下鉄東豊線元町駅から350mと交通の便が良く、近隣には東区体育館、元町図書館、高等職業訓練校などがあり、公共施設が住宅街の一角に集まっている地域。

車での上場者が多く、30台程度の駐車スペースがある。

【利用状況】

休館日は、月曜(休日の場合は翌日)で、開館時間は9時から22時(日曜、休日は9時から17時)。

ホールは上演日に合わせ、前の上演日以降は次の上演団体が優先的に利用する。土曜、日曜の上演の後、月曜が休館日で火曜から金曜日が、仕込・練習・リハーサル、土曜、日曜が公演ということになる。

美術工作室は、人形や大道具小道具の製作に、研修室、会議室は練習、打ち合わせに使用している。

ロビー、図書コーナーなどは、常時開放している。図書の貸し出しは、水、金曜日(公演のある日を除

く)に行っている。

ホール、美術工作室、研修室、会議室は、有料であるが、子どものための舞台芸術活動に使用する時は減免することができる。ただし、ホールで入場料収入がある上演日は除く。

平成10年度の利用状況を見ると、ホールは利用率87.9%、美術工作室は68.3%、研修室は15.5%、会議室42.8%で、年間の総利用人数は、約5万人である。ホールでの上演は124日、196回となっている。

【公演】

春、夏、冬休み及び土、日、祝祭日を中心に、子どものための公演を企画、実施している。人形劇、児童劇を始め、ミュージカル、落語など幅広く公演を開催している。

主催事業としては「夏の招待公演」(国内外の優れた人形劇の公演)、「人形劇フェスティバル冬の祭典」(実行委員会形式で人形劇の合同公演を実施)、「プロデュース公演」(やまびこ座製作による児童劇の公演)を開催している。

【講座及び自主事業】

子どものための演劇、人形劇を上演する場として、やまびこ座では舞台芸術の担い手を育成するための講座として、「初心者のための人形劇講座」と「人形浄瑠璃講習会」を実施している。それぞれに人形劇や人形浄瑠璃の人材育成をねらいとしている。

また、子どもの文化周辺として、世界で1冊しかないオリジナルの絵本を作る「手作り絵本講習会」を開催し、製本の仕方や水彩画の技法の指導を行っている。

【公演以外の事業】

子どもが舞台に親しむことを目的に、小学3年生から6年生対象で「遊劇舎」を実施している。これは、劇遊びの手法を取り入れて、人形劇や児童劇の上演を目指したもので、毎年多くの子どもたちが週1回の活動に参加、OBの中学生や高校生の活動も生まれている。

また、図書コーナーにある絵本や紙芝居を活用し、ボランティアグループによる「読み語りの会」を月6回程度開催し、多くの幼児と母親の楽しみとなっている。同時に簡単な紙工作やスライド絵話も実施している。

夏休み時期に地域の人たちの協力を得て「やまびこ座夏まつり」を行っている。これは、おばけやしき、人形劇などの公演、出店、ゲームコーナーなどの内容で、今では地域の恒例行事として定着しつつある。

【公演及び観客数】

年度数	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度
公演回数	189	167	183	178	191
観客数	24,130	29,067	22,141	19,414	24,904

年度数	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
公演回数	187	211	202	196	163
観客数	22,845	23,376	20,486	20,790	15,340

札幌市天文台

札幌市中央区南11条西4丁目中島公園内
TEL. 011-511-9624



〈施設の概要〉

- 【所在地】札幌市中央区南11条西4丁目
中島公園内 TEL. 511-9624
- 【開設年月日】昭和33年7月1日
- 【建築面積】鉄筋コンクリート造 51.26㎡
- 【設備】口径20cm屈折赤道儀式望遠鏡（使用倍率40~400倍）を5mドーム内に設置
- 【開館時間】太陽観望は午前10時~12時、午後2時~4時
- 【休館日】毎週月曜日の午後、毎週火曜日、祝日、年末年始（12月29日~1月3日）

札幌市天文台は、1958年に中島公園で開催された北海道大博覧会でのパビリオンの一つとして榎雪印乳業が建て、博覧会終了後に札幌市に寄贈されたものである。その前年にソ連は初の人工衛星スプートニク1号を打ち上げ、米ソの威信を懸けた「宇宙開発競争」がスタートした。人々は目新しい言葉に戸惑いながらも「宇宙時代の到来」を実感した。多くの人はそのような中、夜空に移動する人工衛星の光点を探しつつ、きらめく星たちを当時としては天文台の大型望遠鏡を使って覗いた。

以来、41年を過ぎた天文台は、周辺と夜空の環境の移り変わりを見続けてきている。笑顔の親子であふれていた「こどもの国」が撤去され、代わりに巨大な音楽ホールが出来た。中島公園は新たなデザインの元、次々と「新たな庭園」として改造されていく。

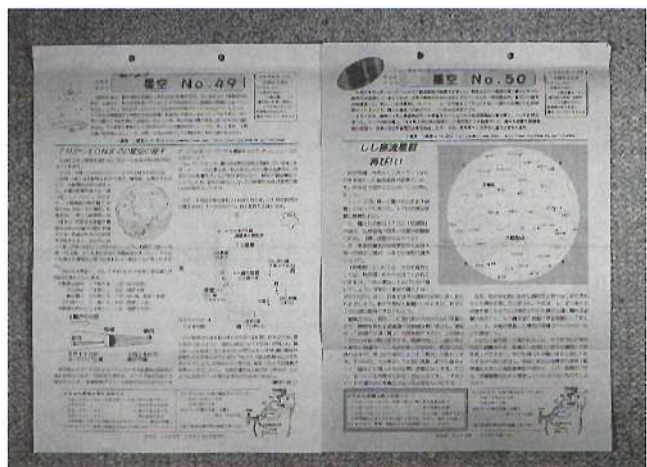
天文台の管理運営は財団法人札幌市生涯学習振興財団の札幌市青少年科学館が行っていて、当活動協会は「補助業務」を委託されているにすぎない。そのこともあって、独自に事業をすることは難しいのが現実である。主な業務は日中の公開と年間55日ほどの夜間公開である。公開では望遠鏡を使って天体を見ることから天候によって大きく左右される。また、マスコミで大きく取り上げられた天文現象（火星大接近・大きな日食・百武彗星・ヘールボップ彗星などの観望会）の場合、1日で千人前後の人がこの小さな天文台に来ることも決して珍しくない。

このほかの業務としては、電話などによる質問の対応がある。これ自体の件数は多くはないが、総合的な情報を持っていないと答えられないものもある。

天文台では1987年7月以来、年間4回『天文台だよ

り』を発行し、99年10月号で50号に達した。これはB4版両面という限られた紙面に、ほかの施設パンフレットにはない多様な情報を載せている。とはいうものの、毎回情報の収集と文章の作成で苦勞している。

- これとは別に下記の札幌市天文台レポート
 - 『昼間に見ることのできる天体光度について』
('92 Oct. 31)
 - 『家庭用ビデオカメラを使つての天体撮影』
('93 Mar. 25)
 - 『潮汐力による分解の簡単な推論』
('93 Jul. 31, 4 Jul. 4)
 - 『セカンド(秒)タイマーの製作
[ビデオカメラによる掩蔽観測のために]』
('93 Jul. 25)
 - 『星像の乱れについて』
('94 Jul. 4)
 - 『シューメーカー・レービー第9彗星の木星面衝突に伴う観測計画』
('94 Jul. 4)
 - 『シューメーカー・レービー彗星の木星面衝突に伴う観測結果(速報)』
('94 Jul. 31)
- などを作成したり、天文台で可能な種々の観測を行っている。実際、天文台内外での観測なくしては、「天文台だより」を書くのに窮することになる。



- また、直接天文台の業務というわけではないが、天文普及の一環として多少経験を積んだ天文ファンのために『北海道天文研究集会(WAAH)』を1995年から主催し、毎年道内外の天文研究者を招き記念講演をしてもらっている。その準備運営のかたわら、
- 『変光星観測』『夜空の明るさのシュミレーション』
96年
 - 『観測データの扱い方』
97年
 - 『超高感度ビデオカメラによるしし座流星群観測』
99年
- を発表した。また、この年1回の集会のつなぎとして『WAAH(北海道天文研究集会)通信』を、今までに12号発行している。その中に
- 『しし座流星群を観測してみよう Part 2』
('96 Nov. 6)

- 『しし群修正「大予言」』 ('98 Feb. 16)
『何を観測するのか！流星観測』 ('98 Jul. 16)
『1997年Leo群：ハワイでの集中出現について』
('99 Jan. 13)
『流星体の地球による散乱』 ('99 Jan. 13)
『1998年出現の検証と99年「小予言」』 ('99 Oct. 27)
なども書いた。

公共天文台の存在意義は、まずもって多くの（見たいと思っている）人に「生の天体」を見せることである。自分の眼で見ながら、いろいろ説明を受けることで、それらの天体に「親しみ」を持ってもらう。しかし、現実には大きな問題がある。1つに都会では星が見えなくなってきていること。実際中島公園や厚別では田舎での星数の僅か数十分の1しか見ることができない。見せる側としては甚だ心苦しいが、それでも見た人には喜ばれている。もう1つの点は施設があまりにも小さいことである。数十人もドームの中に入ると、行列の動きが混乱してくる。それ以上の人々が来た場合は、外に行列を作ってもらわなければならない。そうすると、説明員はドームの中と外を頻繁に出入りして、場を繋ぐことになる。

次なる存在意義は、即時的な効果はほとんど見ることはできないが、もっと深いものである。即ち、宇宙の中での地球・人間という存在を考えるきっかけを与えることである。古来、人類は夜空を眺め、様々な宇宙観を育んできた。それは人間にとって自分自身を振り返る、あるいは広大なものから小さな自分を見つめ直すものでもあった。情報化が進んだ現代では、そのことをブラウン管や様々なディスプレイで見ることが



できる。しかし、最も重要なのは「想像力」であろう。そしてその想像力は、媒体を通じて「枠の中で」見聞するよりも、「生の宇宙」に接することで、より鍛えられる。

これら2つの存在意義をバックアップするのが、より正確で多様な情報の収集と適切な解説ということになる。しかし、これらだけでは、観測や研究についての問い合わせには答えられない。しかも、多くの人の考える天文台とは、「一般的であることをモットーとする」プラネタリウムとは違い、観測・研究こそダイナミズムを感じているのである。（『ここでは何か研究や観測をしているのですか？』という質問は決して少なくない。）

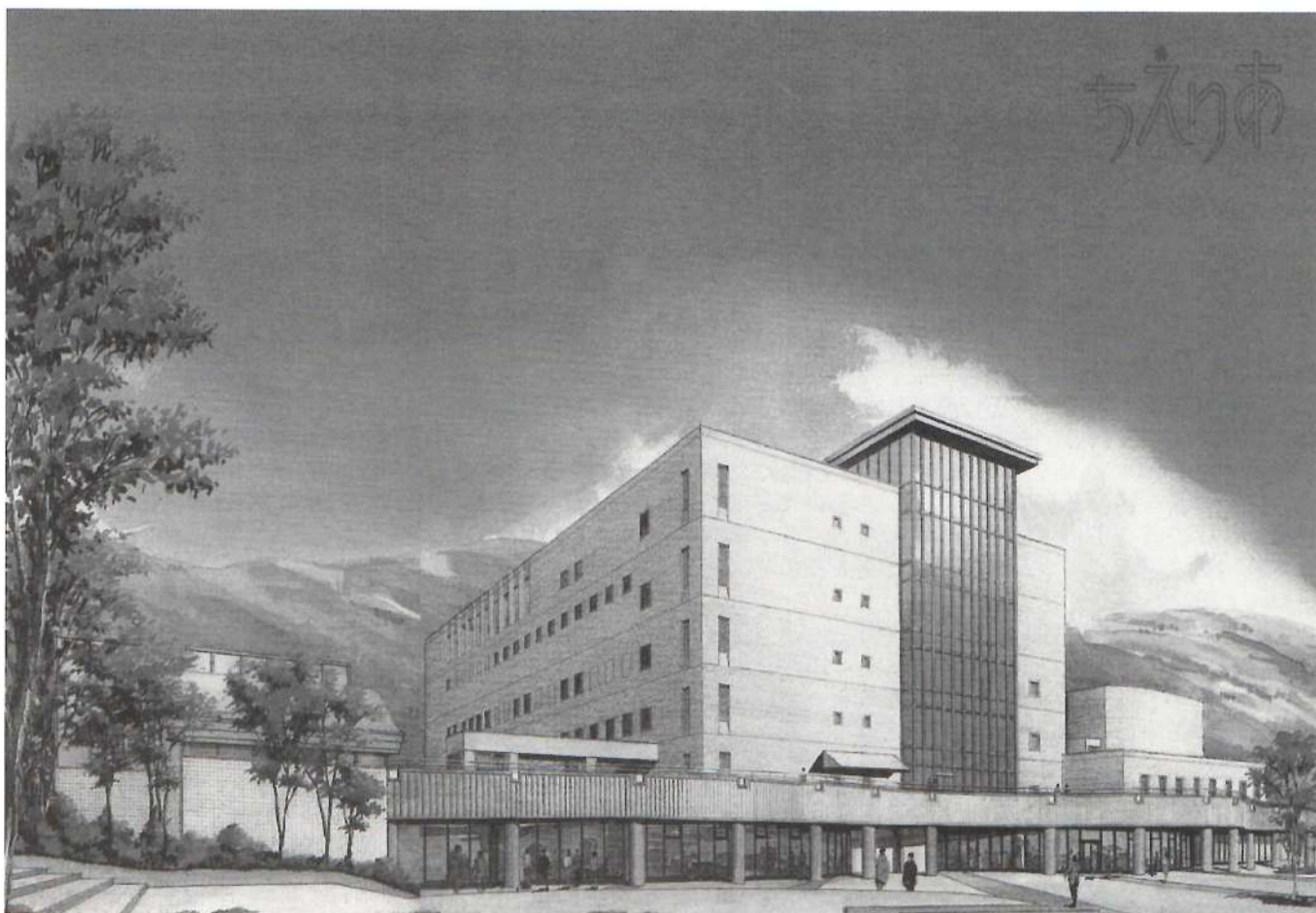
とはいうものの、担当者が必要と考えているこれらのことも、多くの施設はそこまで要求していない。それは人材不足もあるが、コスト・パフォーマンスから実効性が見えにくい観測・研究には投資できないという「行政判断」がある。（正確には上司・権限者の判断になる。）かくして、担当者は自費を使っての「趣味としての」観測・研究を行うことになる。にもかかわらず、その成果は無償で業務に提供されるのが現実である。



【利用状況】

年度	数	昼間利用数 (9~17時)	夜間利用数 (夜間天文)	電話問合せ数
H 2 年度		4,099	1,259	1,365
H 3 年度		3,616	1,456	1,259
H 4 年度		3,719	1,725	1,124
H 5 年度		4,294	1,945	993
H 6 年度		5,062	1,931	964
H 7 年度		4,075	3,032	1,473
H 8 年度		2,779	2,251	1,282
H 9 年度		2,410	2,184	1,118
H 10 年度		1,880	1,425	913
H 11 年度		2,037	2,133	769

新 青 少 年 セ ン タ ー



【施 設】

- ◆29歳までの青少年を対象とし、各種のサークル活動、音楽や演劇の練習・発表、スポーツ交流活動などの支援や社会参加活動、ボランティア活動など、青少年の自主的な活動に対する支援を行う施設である。
- ◆音楽スタジオ、演劇スタジオ、サークル活動室、印刷編集室、各種研修室などの諸室や青少年活動に関する情報提供機能などについては、生涯学習総合センターと共用しながら活用することとしている。

●青少年ロビー

青少年が誰でも気軽に利用でき、サークル活動やボランティア活動などの情報を自由に交換できる場であり、日ごろの学習成果を発表できる場として整備する。

●体育室・トレーニングルーム

バレー、テニス、バドミントンなどのさまざまな運動の場として、公式バスケットボールができる広さと高さを確保した体育室を設置する。また、基礎体力作りを行うためのトレーニングルームも設置する。

【事 業】

新
青
少
年
セ
ン
タ
ー
|
対象者
小学生から29歳までの青少年

研修・人材育成機能及び学習機会の提供機能
◇青少年の国際交流、ボランティア活動研修
◇音楽、演劇の練習の場

学習成果の発表・鑑賞機能
◇青少年文化活動発表の場
◇体育系サークルの活動の場 など

情報の集約提供機能
◇青少年文化活動情報の収集提供

交流機能
◇青少年の各種サークル活動

※平成12年8月オープン予定

協会にエールを！



協会を応援してくれる方々からのメッセージ

MESSAGE

青少年部在職中（昭和48～50）青少年活動のこれからを考えた時、指導員の養成とそれを指導する職員の職能と身分を制度化することが必要であると、起案書を作ったのを覚えております。結果は陽の目をみませんでした。活動協会設立へのきっかけのひとつになったのではと思っておりました。

協会設立後は、ささやかな程度にしか付き合いはなかったのですが、設立時のビジョンがどう進められてきたのかを気にしているひとりです。柔軟な発想、それを生かす活力に期待しています。

理事 宮崎 哲也

MESSAGE

貴協会との出会いは10年前。青少年や女性のためのバラエティーに富んだ活動を支える職員一人ひとりの個性豊かな、生き生きとした仕事ぶりが印象的でした。あれから10年。ワンバク少年は、成人の名に恥じない実績を積み、組織も一気に膨らみました。応援団としてはうれしい限りですが、職員の皆さん、今まで以上に個性的でいて下さい。協会の使命であり、またその魅力の源は、バラバラの個性のぶつかり合いによって創られる活動そのものなのですから。市民のため、ますますのご活躍を期待しています。

評議員 粥川 道子

MESSAGE

協会の仕事に関わった10年間は、実に楽しいものでした。仕事は、札幌市職員だった頃と同じ所で、ほかの職場のことは知りません。ですから、“劇場”という仕事をとおして協会の将来について夢を馳せ、現状を考えたものです。児童会館も私の大好きな職場ですし、女性センター、レッツ、自然の村、青少年センターなど、全て、人と人・心ふれあう幸せを目指した職場にほかなりません。施設管理の名の下に、どうか、人の心を管理することのないように、初心を忘れず、理想を高く掲げ続けて下さい。おめでとう。

元やまびこ座館長 加藤 博

MESSAGE

私は昨年シニアキャンプに参加して初めて貴協会が青少年や高齢者のために、このような重要な活動をしている事を認識しました。物心ついた頃から戦争戦争と何十年も過ごしてきた私が、皆様の献身的な活動のおかげで70歳半ばにして、こんなに豊かな感性と熱い血潮のたぎりを呼び起こされることを体験し大きな感動を覚えました。また、スタッフの人たちを見て「こんなに素晴らしい若者がいる限り近い将来必ず豊かな社会が築き上げられる事と信じています。」

シニアキャンプ参加者 木村 末子

MESSAGE

ある冬休みの午後。

1日中、子どもたちの声が響いた児童会館に帰宅の時間がやってきた。最後のひとりを見送ったその時、帰ったはずのMちゃんが突然ドアを開けて入ってきた。「どうしたの。忘れ物？」声を出そうとしたその時、「館長、月がすごくきれいだよ！」それだけ言うと彼女はクルリと踵を返して行ってしまった。帰り道、南の沢から見る月は、子どもたちのようにまんまるで笑っていた。笑顔と思い出をつくる協会であってください。

元職員 高橋 睦

MESSAGE

私が児童会館の指導員として協会に関わらせて頂いたのはたった3年間でしたが、楽しいこと、辛いことたくさん経験をさせていただき、全部がとても良い思い出になっています。今は、自分が行事を考えていて実現しなかった親子の行事に参加しています。それは「親子でしゅっぱっぱ」と言い息子は大変気に入っているのですが、幼稚園入園のための見学を多数した後、母・「どこの幼稚園にする？」息子・「ん～ん～しゅっぱっぱ！！」これからも子どもの心をぐっとつかんで離さない行事を楽しみに待っています。

元指導員 大島 裕子

MESSAGE

私がポプラで仕事をする様になって11年になります。始めた頃は「Let's」の称号はなく、札幌市ポプラ勤労青少年ホームと、とても長く重々しい名称でした。そのころ出会った青年が、名前も変わり風格をつけた姿で会いに来て下さることがあります。とても懐かしく時代が変わっても、「Let's」は生き続けて行くことだと思います。

レッツポプラ清掃員 佐藤 美恵子

MESSAGE

私が初めてレッツ豊平の玄関に入るや否や、職員の人たちが勢ぞろいで「ようこそいらっしゃいました」と、どこまでも響く熱意ある挨拶で出迎えられまして、とても心打つものがありました。料理講座の受講生はそれぞれの勤務を終え、疲れているにもかかわらず熱心で、人とのふれあいも大切にしているのには頭がさがるばかりです。こちらも常に一緒にをモットーに接してきました。いつまでもあたたかい情熱的なLet's豊平でありますように。

レッツ豊平料理サークル講師 岩城 道子

MESSAGE

我が家には、4歳と1歳の娘がおり、いつも児童会館を利用させていただいています。幼児向け行事への参加はもちろんのこと、育児サークルの活動の場、暇な時の子どもの遊び場として週に何度も足を運びます。また、毎週水曜日の夜の地域開放の日には、父母が夕食を早くすませ、卓球と囲碁を楽しみます。3世代でフルに活用している児童会館は、我が家にとってとても身近な場所です。娘たちが大きくなると今以上に世話になりそうな児童会館。これからも地域に開かれた、どの世代の人にも楽しめる場所であってほしいと思います。

もみじ台ふれあい児童会館親子3代利用者 小野 敦子

MESSAGE

私が初めて協会と出会ったのは、子ども会のリーダー研修会でした。7年間の研修会の中で、たくさんの方のことを教わり、指導（お叱り）を受け、どんどん成長して体だけは一人前以上になりました。

そして、また協会に出会います。平成9年からの、2年間の派遣です。昔、指導された（怒られた）たくさんの方と机を並べ、色々と学ぶことができました。今後、子ども会の仕事は当会でありますが、協会の皆さんが20年かけて作り上げた物をより大きな物にしていきたいと思います。今後よろしく願います。

（旧）札幌市子ども会育成連合会職員 山田 憲昌

MESSAGE

ぼくは夏に2回、冬に1回、リトルキャンプに参加しています。夏にはキャンプファイヤーをしている途中にハットが火のついた棒を回したり、とても楽しいキャンプになりました。そしてたくさんの方のリーダーに会いました。1回目は「ヒョロ」と言う人で、2回目は「かえる」と言う人で、3回目は「くまろう」と言う人でした。でもそのキャンプに参加できるのがあと冬の1回になってしまつてとてもさみしいです。でもその1回を今までより倍にして楽しんで良い思い出をつくりたいです。

リトルキャンプ参加者 工藤 大夢

MESSAGE

「何かしなければ!!」との思いで女性センターの相馬さん（当時）に電話をしたのは平成7年1月。いささか迷っていたが、相馬さんに背中を押され、Vスクール（札幌市女性ボランティア・スクール修了グループ）で『阪神淡路大震災義援金バザー実行委員会』が結成され、バザーの収益金100万円を被災地に送ることができた。昭和50年に始まった女性ボランティア・スクールも昨年終了。23年の長期にわたり、貴協会の皆様には、適切なお指導、ご助言を頂き、深く感謝申し上げます。ますますのご発展を！

女性センターボランティア・スクール 佐藤 正子

MESSAGE

私たちの住む西岡地区には児童会館が2館あります。西岡高台児童会館は、地域の人たちが要望して建設されたものであり、苦勞もありましたが喜びもひとしおであった思い出深い児童会館であります。館長をはじめ指導員の皆さんが子どもたちと一緒に遊んだり、良く面倒をみて子どもたちの育成・指導をされている姿を拝見して喜んでいただいております。これからも、どうかよろしくお願い致します。

西岡高台児童会館運営委員会 元会長 浦山 政一

MESSAGE

たくさんの人たちとの出会いが私にとって大きな財産となり、エネルギー源ともなって今日まで頑張ってきたことができました。時代の流れと共にレッツアカシアは、青年たちが集まるホールも明るく広くなり、素敵になりました。外壁には青年たちのデザインした魚の絵が描かれました。私は、その絵を見るたびに元気な気持ちにさせて頂いています。レッツを利用していましたOBの方々も懐かしく訪れてくれております。これからも、より良い人間関係を築きレッツの益々の発展を願っております。私も微力ですが協力をさせていただきます。

レッツアカシア清掃員 船山 礼子

MESSAGE

この20年間、評議員・理事として協会の運営に参加させて頂きましたが何のお役にも立てず、いささか後ろめたい気がしております。役員としてではないのですが、青少年センターのグループワーカー養成講座の講師を勤めさせて頂いてきたわけですが、初期の頃、大通バスセンタービル1階の暖房の切れた寒い部屋で熱心に講義に参加された方々の姿が思い出されます。その中から、当協会の職員として活躍されていた方が育っておられるのは、私にとってうれしいことです。講義の場所も青少年センターの移転と共に2度変わり、来年度からはさらに快適な所に移るようですが、このように同センターだけでなく女性センター・児童会館の施設設備といったハード面を充実させると共にぜひ、ソフト面の活動内容が本当に参加者の立場に配慮したものになるようお願いしたいと思います。

理事 三宅 和夫

MESSAGE

私たちの街に児童会館ができて3年半！我が子も我が家の庭のようにして利用してきました。会館に行けば誰かがそこにいる。集団で何かができる。年上の子ども年下の子どもいる。その中には、大人社会の縮図があり、人としての大切なことを遊びの中で自然に体験学習しているように感じています。また、町内会の子ども会や学校のPTAとも密接に関わりを持ち、子どもを囲んで育てていこうとしている姿があります。これからは“私たちの遊びの宿”として、子どもが遊びの輪から色々な事を学び、心身共に健全な子どもを育てるために地域に根づき歩んでいくことを願っております。

美しが丘児童会館読み聞かせサークル「まほうのポケット」 池田 幸子

MESSAGE

アレヨ、アレヨという間に、仕事も拡大し、人も増え、大きな組織に成長されたことに感心しています。実績の評価と、あの協会ならやってくれるだろうと、今後への大きな期待への表れでしょう。

女性センターでの7年間、お仲間に入れて頂き一部ですが行事にも参加させて頂いたことで、今までの仕事では経験できなかったことを体験させてもらいました。

体験と皆様の友情に感謝しています。

期待されている今後、どう答え、どんなふうにも人を育てていくか、きっと悩んでいらっしやることでしょう。皆様の豊かな個性とチームワークは、自分たちも育ち、協会も育てるに違いないと信じています。

栗山町立北海道介護福祉学校 非常勤講師 川島 利子

MESSAGE

さっぽろふれあいフェスタ～パフォーマンスカーニバルIN大通り～にスタッフとして参加して4年になりました。同じくスタッフとして集まった人、当日大通り公園でパフォーマンスを披露して下さる方、観客の方、そして青少年センターの方などたくさんのすばらしい方々に会うことができました。出会いと思いをくれたふれあいフェスタに、そして慣れない作業に頭を抱える私たちスタッフを支えてくださっているセンターの職員の方々に、感謝しています。

さっぽろふれあいフェスタスタッフ 田淵 理恵

MESSAGE

私たち「グループ えるむの森」も、この3月で丸6年。早いものです。過ぎてしまえば順調のように思えますが、私たちにとって、「エルムの森児童会館」そして当時の館長がいらっしゃらなければ、今も存在していないのです。一般の方々に見て頂ける「やまびこ座」も同様です。本当にありがとうございます。

最近、母親たちを支援する活動の場として児童会館をどんどん開放している傾向があります。とても良い事だと思いますが、一時的な場に留まることなく、私たちのように同じ状況～子どもを連れている母親～でありながらも活動しているグループの交流の場であってほしいと願います。

これからも「素敵な出会いの場」を作っていくって下さい。

児童劇サークル「グループえるむの森」代表 ホルスト 浩子

MESSAGE

ぼくは、夏休みが1番好きです。2年生から毎年行ってるキャンプがあるからです。最初は「友達ができるかなあ。」とドキドキの参加だったけれど、グループ名やニックネームを考えるころには、もうみんな仲間になっています。テント張りや炊事、川遊びなど仲間と協力して色々なことにチャレンジしていくうちに、テレビやゲームのことをすっかり忘れてしまっています。キャンプで、ぼくは自然と一体になれるような気がするのです。だからまた行きたくなるんです。

リトル・トライキャンプ参加者 大黒谷 竜太

MESSAGE

GW1期生としてバスセンタービル1階オアシスに足を踏み入れてから20年。私も、教え子がGWに入るような年齢になりました。

10年ほど前からは、ポラリス（星空同好会修了サークル）や手品けん玉講座でお世話になることが多くなりました。これからもよろしく願いいたします。

本庁1階を飛び出してグループワーク協会を作り、さらに現活動協会にまで育て上げてこられたんですね。初心忘るべからず。

人が大好きで、人と関わる活動の大好きな活動協会のみなさん。

これからも、ますますご活躍くださいね。

グループワーカー(GW)養成講座修了生 森井 与善

MESSAGE

私は10年程前から子育てをしている親の学習グループに参加するようになり、女性センターとその運営団体である活動協会に出会い、おつきあい(?)が始まりました。昭和54年にグループを発足させた先輩たちは昭和56年の婦人文化センター建設時に託児室設置を働きかけ、その後メンバーは変わっても、子どもを連れた女性が学ぶ立場から託児室・保育の充実を女性センターの方々と共に考えてきた経緯を持つグループです。活動をとおして、センターとは柔軟な良い関係を積み重ねてこれたと感じています。女性センターに来るきっかけや理由は色々だと思いますが、ジェンダー問題解決の視点を根底にしっかり持った拠点として存在してほしいと思います。

施設の管理的運営ではなく、人と人との関係を紡いでいく活動団体としての協会、職員の問題意識・感性を今後、ますます期待します!!

女性センター利用者 若林 淑美

MESSAGE

活動協会にエール!

これからも真剣にいい関係を作っていきます!

私は、レッツの利用者として、また、利用者協議会の役員として職員の方々に関わってきました。サークル活動・行事等、利用者と職員が共に作っていく施設運営に共感をし、気が付けば4年半の月日が経ち、現在はOBとなっております。

「協会にエールを!」というお話を頂き、4年半の関わりの中で私なりに感じてきたことをお話しますと、指導員は指導する人ではなく、同じ高さで共に関わりを持つ人なのではないでしょうか。当然立場は異なりますが、立場をお互いに尊重し、個々人がそれぞれ許容範囲を広げる努力をしながら、相手に対し思いやりを持った関わりが、いい関係を作っていくことにつながるのではないのでしょうか。

私は、今後レッツでの経験を生かし、レッツを離れて活動の幅を広げて行くつもりです。今度は、私たちOBが、自分たちの活動を持って関係を提案しに行くと思います。覚悟しておいて下さい。

オールレッツ評議員 堀尾 利治
(札幌市勤労青少年ホーム全館利用者協議会)

※設立20周年おめでとうございますなどのお言葉は割愛させて頂きました。

※原稿の掲載は順不同です。

歴代役員名簿

【理事長】

氏名	就任年月日	就任時の役職名
赤井 醇	昭和55年4月1日 ～ 昭和55年11月28日	前札幌市助役
河崎 和夫	昭和55年11月29日 ～ 昭和56年10月31日	札幌市助役
加藤 利昭	昭和56年11月1日 ～ 昭和57年10月31日	前札幌市 市民局長
栃内 健男	昭和57年11月1日 ～ 昭和61年7月11日	前札幌市収入役
浦田 久	昭和61年11月1日 ～ 平成6年3月31日	元札幌市北区長
荒井 徹	平成6年4月1日 ～ 平成10年8月31日	元札幌市教育長
小倉 英俊	平成10年9月1日 ～ 平成12年	元札幌市東区長

【副理事長】

氏名	就任年月日	就任時の役職名
加藤 利昭	昭和55年4月1日 ～ 昭和56年8月18日	前札幌市 市民局長
尾崎 行俊	昭和56年8月19日 ～ 昭和57年5月27日	前札幌市 市民局長
金子 力	昭和57年5月28日 ～ 昭和59年1月26日	前札幌市 市民局長
紺野 哲郎	昭和59年1月26日 ～ 昭和60年7月21日	札幌市 市民局長

朝倉 賢	昭和60年7月22日 ～ 昭和62年6月30日	札幌市 市民局長
森 清	昭和62年7月1日 ～ 平成5年5月1日	札幌市 市民局長
本間 雄	平成5年6月1日 ～ 平成5年5月25日	札幌市 市民局長
大野 雅弘	平成5年5月25日 ～ 平成6年3月31日	札幌市 市民局長
松崎 誠	平成6年4月1日 ～ 平成7年8月9日	札幌市 市民局長
前川 一彦	平成7年8月9日 ～ 平成9年5月28日	札幌市 市民局長
鈴木 俊雄	平成9年5月28日 ～ 平成10年5月27日	札幌市 市民局長
館 美武弘	平成10年5月28日 ～ 平成12年3月31日	札幌市 保健福祉局長

【専務理事】

氏名	就任年月日	就任時の役職名
猪野毛 高俊	平成11年6月1日 ～ 平成12年3月31日	札幌市 保健福祉局長職

【常務理事】

氏名	就任年月日	備考
佐々木 順	昭和55年4月1日 ～ 昭和63年3月31日	

藤井一男	昭和61年 5月30日 ～ 昭和62年 6月30日	
高橋邦臣	昭和62年 7月1日 ～ 平成2年 5月22日	
長嶋賢	平成2年 5月22日 ～ 平成3年 7月19日	
佐藤弘之	平成3年 7月19日 ～ 平成4年12月11日	
岩瀬潔	平成4年12月11日 ～ 平成6年12月20日	
岩渕利朗	平成6年12月20日 ～ 平成9年 5月28日	
藤井修	平成9年 5月28日 ～ 平成11年 5月31日	

【理事】

氏名	就任年月日	就任時の役職名
石林清	昭和55年 4月1日 ～ 平成10年 5月27日	札幌商工会議所専務理事 (財)北海道文化協理長
桂信雄	昭和55年 4月1日 ～ 昭和58年 6月27日	札幌市教育長
中村勝美	昭和55年 4月1日 ～ 平成10年 5月27日	北海道スキー連盟副会長 伊藤組専務理事
宮本実	昭和55年 4月1日 ～ 昭和63年 3月31日	北海学園大学教授
上田叔子	昭和57年 4月1日 ～ 平成3年 5月28日	札幌市婦人団体 連絡協議会 会長
坪谷京子	昭和57年 4月1日 ～ 平成10年 5月27日	教育評論家

遠藤高志	昭和58年 6月28日 ～ 昭和60年 7月21日	前札幌市教育長
荒井徹	昭和60年 7月22日 ～ 昭和62年 6月30日	札幌市 教育委員会 次長
柿本伸之	昭和62年 7月1日 ～ 昭和63年 5月31日	札幌市 教育委員会 次長
国島峯夫	昭和63年 6月1日 ～ 平成4年 5月11日	札幌市 教育委員会 次長
三宅和夫	昭和63年 4月1日 ～ 平成12年～	北海道大学 名誉教授
中田ユキ子	平成3年 5月28日 ～ 平成9年 5月28日	札幌市女性団体 連絡協議会 会長
今井信一	平成4年 5月11日 ～ 平成5年 5月25日	札幌市 教育委員会 次長
矢野義和	平成5年 5月25日 ～ 平成8年 5月27日	札幌市 教育委員会 次長
大関洋	平成8年 5月28日 ～ 平成10年 5月27日	札幌市 教育委員会 次長
加藤孝	平成10年 5月28日 ～ 平成12年～	(社)札幌市 手をつなぐ育成会 理事
中易愛子	平成9年 5月28日 ～ 平成12年～	札幌市女性団体 連絡協議会 会長
宮崎哲也	平成10年 5月28日 ～ 平成12年～	北海道学校教育 研究研究会 顧問
佐々木順	平成10年 5月28日 ～ 平成12年～	北海道 キャンプ協会 副会長
細川昭一	平成10年 5月28日 ～ 平成12年～	(財)札幌市 生涯学習振興財団 理事

【監事】

氏名	就任年月日	就任時の役職名
土井 豊	昭和55年4月1日 ～ 昭和55年11月28日	前札幌市 財政局長
増子 甫	昭和55年4月1日 ～ 平成7年12月15日	前北海道 経営者協会 専務理事
足羽 収六	昭和55年11月29日 ～ 昭和56年8月18日	札幌市 財政局長
石田 淳	昭和56年8月19日 ～ 昭和58年6月27日	札幌市 財政局長
菊地 忠吉	昭和58年6月28日 ～ 平成59年5月24日	札幌市 財政局長
蒲谷 亮一	昭和59年5月25日 ～ 平成62年6月30日	札幌市 財政局長
長部 幸一	昭和62年7月1日 ～ 平成7年5月31日	札幌市 財政局長
田中 良明	平成7年6月1日 ～ 平成2年8月1日	札幌市 財政局長
上野 博	平成7年12月15日 ～ 平成10年8月28日	北海道 経営者協会 専務理事
高田 恒	平成2年8月1日 ～ 平成4年5月11日	札幌市 財政局長
久元 喜造	平成4年5月11日 ～ 平成7年8月9日	札幌市 財政局長
米田 耕一郎	平成7年8月9日 ～ 平成10年5月27日	札幌市 財政局長
植田 浩	平成10年5月28日 ～ 平成12年～	札幌市 財政局長
余湖 平八郎	平成10年8月28日 ～ 平成12年～	北海道 経営者協会 専務理事

【常務委員】

氏名	就任年月日	就任時の役職名
阿津又 義久	昭和55年4月1日 ～ 昭和56年8月18日	前さっぽろ 青少年連合 常任委員長
荒井 徹	昭和55年4月1日 ～ 昭和57年5月27日	札幌市教育委員会 社会教育部長
岩井 泰夫	昭和55年4月1日 ～ 平成11年8月24日	北海道工業大学 助教授
後藤 秀郎	昭和55年4月1日 ～ 昭和55年11月28日	元札幌市 教育委員会 社会教育部長
関口 英一	昭和55年4月1日 ～ 昭和56年8月18日	元札幌市市民局 青少年婦人部長
坪谷 京子	昭和55年4月1日 ～ 昭和57年3月31日	教育評論家
西村 彰	昭和55年4月1日 ～ 昭和57年6月	北海道BBS連盟 会長
広川 雄一	昭和55年4月1日 ～ 昭和57年8月18日	前札幌青年会議所 副理事長
三宅 和夫	昭和55年4月1日 ～ 昭和63年3月31日	北海道大学教授
杉本 拓	昭和55年11月29日 ～ 昭和57年5月27日	札幌市 豊平区総務部長
高杉 田鶴子	昭和56年4月1日 ～ 昭和56年8月18日	前札幌市婦人 団体連絡協議会 会長
竹内 幸広	昭和56年8月19日 ～ 昭和57年5月27日	さっぽろ 青少年連合 副常任委員長
村瀬 浩氣	昭和56年8月19日 ～ 昭和60年3月18日	札幌市市民局 青少年婦人部長
上田 叔子	昭和56年8月19日 ～ 昭和57年3月31日	札幌市婦人団体 連絡協議会 会長

渡辺 裕哉	昭和56年 8月19日 ～ 昭和58年 3月31日	札幌青年会議所 監事
江原 撰	昭和57年 4月 1日 ～ 平成12年～	主婦
柴田 喜久子	昭和57年 4月 1日 ～ 平成 4年 5月11日	主婦
高田 悦子	昭和57年 4月 1日 ～ 平成12年～	札幌市母子寡婦 福祉連合会 会長
長野 京子	昭和57年 4月 1日 ～ 平成10年 5月27日	童謡作家
山本 順子	昭和57年 4月 1日 ～ 平成 3年 5月28日	札幌消費者協会 会長
飯原 春夫	昭和57年 5月28日 ～ 昭和59年 1月26日	札幌市北区 総務部長
柿本 伸之	昭和57年 5月28日 ～ 昭和58年 3月31日	札幌市教育委員会 社会教育部長
佐藤 正啓	昭和57年 5月28日 ～ 昭和63年 5月19日	さっぽろ 青少年連合 副常任委員長
伊藤 博昭	昭和58年 4月 1日 ～ 昭和59年 3月31日	札幌青年会議所 副理事長
大野 雅弘	昭和58年 4月 1日 ～ 昭和60年 7月21日	札幌市教育委員会 社会教育部長
藤原 満昭	昭和59年 1月26日 ～ 昭和60年 7月21日	前札幌市白石区 総務部長
細川 昭一	昭和59年 4月 1日 ～ 平成10年 5月27日	(社)札幌市児童連合会 副会長
本村 孝幸	昭和59年 4月 1日 ～ 昭和61年 3月31日	札幌青年会議所 副理事長

藤田 克巳	昭和60年 3月19日 ～ 昭和61年 5月29日	札幌市市民局 青少年婦人部長
稲童丸 修	昭和60年 7月22日 ～ 昭和62年 6月30日	札幌市白石区 総務部長
木村 隆一	昭和60年 7月22日 ～ 昭和62年 6月30日	札幌市教育委員会 社会教育部長
水城 義幸	昭和61年 4月 1日 ～ 平成 2年12月11日	札幌青年会議所 副理事長
金久昌 弘	昭和61年 5月30日 ～ 昭和63年 5月19日	札幌市 青少年婦人部長
梶原 拓也	昭和62年 7月 1日 ～ 平成 7年 5月27日	札幌市白石区 市民部長
田熊 勉	昭和62年 7月 1日 ～ 平成 7年 5月27日	札幌市教育委員会 社会教育部長
森山 實枝子	昭和62年 7月 1日 ～ 平成 3年 5月28日	札幌市母子寡婦 福祉連合会 会長
佐藤 慎一郎	昭和63年 5月19日 ～ 平成 2年 5月22日	札幌市市民局 青少年婦人部長
中田 道広	昭和63年 5月19日 ～ 平成 8年 5月27日	さっぽろ 青少年連合 事務局長
中谷 多宏	平成 7年 5月27日 ～ 平成 3年 7月19日	札幌市白石区 副区長
中辻 清矩	平成 7年 5月27日 ～ 平成 4年 5月11日	札幌市教育委員会 社会教育部長
清水 敏博	平成 2年12月11日 ～ 平成 4年 5月11日	札幌青年会議所 副理事長
杉本 久	平成 2年 5月22日 ～ 平成 3年 7月18日	札幌市市民局 青少年婦人部長

小野寺 奈緒美	平成 3年 5月28日 ～ 平成12年～	札幌讀者協会会長 札幌市ボランティア連盟会長
本庄 照香	平成 3年 5月28日 ～ 平成 9年 5月28日	札幌市母子寡婦 福祉連合会 会長
岩間 英雄	平成 3年 7月19日 ～ 平成 6年 5月26日	札幌市白石区 市民部長
中平 治	平成 3年 7月19日 ～ 平成 6年 5月26日	札幌市市民局 青少年女性部長
村井 俊之	平成 4年 5月11日 ～ 平成 6年 5月26日	札幌市教育委員会 青少年教育部 参事
渡辺 邦彦	平成 6年 5月27日 ～ 平成 7年 8月 9日	札幌市市民局 青少年女性部長
堂前 功	平成 6年 5月27日 ～ 平成 7年 8月 9日	札幌市白石区 市民部長
小川 勝彦	平成 6年 5月27日 ～ 平成 8年 5月27日	札幌市教育委員会 青少年教育部 参事
木村 泰尚	平成 7年 8月 9日 ～ 平成 9年 5月27日	札幌市白石区 市民部長
南 楨子	平成 7年 8月 9日 ～ 平成10年 5月27日	札幌市市民局 青少年女性部長
中西 章人	平成 8年 5月28日 ～ 平成 9年 5月27日	さっぽろ 青少年連合 常任委員長
平井 章彦	平成 8年 5月28日 ～ 平成11年 8月25日	札幌市保健福祉局 児童家庭部 少年育成担当部長
西塚 滋	平成 9年 5月28日 ～ 平成12年～	札幌市市民局 札幌市教育委員会生涯学習部 課長
佐々木 博	平成 9年 5月28日 ～ 平成12年～	さっぽろ 青少年連合 常任委員長

粥川 道子	平成10年 5月28日 ～ 平成12年～	札幌市YMCA国際交流 社体育専門技 講師
川口 武比古	平成10年 5月28日 ～ 平成11年 8月25日	札幌市南市民局 札幌市教育委員会生涯学習課
畑 茂士	平成10年 5月28日 ～ 平成12年 3月31日	札幌市市民局 市民生活部 女性企画室長
道島 博	平成10年 5月28日 ～ 平成12年～	(社)札幌子ども会議連合 副会長
池田 浩	平成11年 8月25日 ～ 平成12年～	札幌市西区 市民部長
八反田 元子	平成11年 8月25日 ～ 平成12年～	札幌市保健福祉局 児童家庭部 少年育成担当部長

編集後記

協会設立から早20年が経過し、記念誌発行プロジェクトにおいては協会の20年の歩みを次世代に引継ぐと共に、広く協会の業務を周知することを念頭に準備を進めて参りました。

ただ発行にあたり何分限られた紙面及び作業期間故に、20周年記念誌として必ずしも満足のものではないことをお詫び申し上げます。

また発行にあたりましては関係者の皆様にお忙しい中、快くご協力頂きましたことを深くお礼申し上げます。

今後とも青少年及び女性の社会参加の促進のため、20年を新たな節目として職員が一丸となって業務を遂行していく所存でありますので、これからも各位におかれましては変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

20周年記念誌プロジェクト

財団法人札幌市青少年婦人活動協会20周年記念誌

20年のあゆみ

札幌の人づくりをめざして

2000年3月31日発行

編集発行 財団法人札幌市青少年婦人活動協会
〒064-0809 札幌市中央区南9条西14丁目
札幌青少年センター内

TEL011-532-0200 FAX011-532-0204

ホームページ <http://www1.odn.ne.jp/ssfkk-gw>

印刷 株 総 北 海 札 幌 支 社

1112, 5, 30.

泉信豪

